

二 當該土地ノ普通農作即チ米麥作桑以外ノ家屋建築等ニ當リテハ此ノ限リニアラスシテ都度相互ノ協定ニ依ルモノトス

一 昭和五年ヨリ向フ二ヶ年後ニ於テ地主ガ自作セムトスルトキハ何等故意ニアラズシテ小作地ノ返還ヲ要求シタルトキ當作人ハ善意ヲ以テ之ヲ異議ナク返還ニ應ズルモノトス但此ノ返還時期ハ前項ニ準ズルモノトス

右各項相互ニ遵守シ且ツ相互ニ迷惑相掛間敷履行可致爲後日本契約書三通ヲ作り地主小作側及神根村役場へ各一通ヲ領置スルモノ也

昭和五年五月二十三日

地主總代

小作總代

立會人

英保村 三宅 某  
神根村 藤原 某

四〇 廣島縣沼隈郡千年村大字草深

(蘭作田ニ於ケル小作料一時的減額)

發生 昭和四年十月二十六日

終熄 同年十一月二日

關係人員 地主二十三人 小作人 二百人

關係土地 田 七十町步

(一) 爭議ノ原因

爭議關係地ハ大部分蘭作田ノ跡地ナル稻田ニシテ從來蘭作田ハ蘭ヲ本作トスル關係上其ノ跡地ノ米作ニ對シテハ不作ノ場合ト雖小作料ヲ輕減セザル地方ノ慣行ナリシニ昭和四年ハ既往三十年來ノ旱魃ニシテ米作ハ收穫皆無又ハ皆無ニ近キ減收ナリシヲ以テ小作人ハ地主ニ對シ舊來ノ慣行ニ關セズ小作料減額ヲ要求シタルニ由ル

(二) 小作人ノ要求竝地主ノ主張

小作人ハ小作料七割五分輕減ヲ要求シ地主ハ地方ノ慣行ヲ改ムルハ將來ニ惡例ヲ貽スモノナリトシ之ニ反對シタリ

(三) 手段竝經過

千年村草深小作人組合ニ於テハ十月二十六日夜組合長花岡某方ニ集合シ組合總會ヲ開キ前記ノ通り小作料七割五分輕減ヲ求メ若シ地主側ニ於テ之ヲ承諾セザルトキハ小作人ハ結束シテ小作地ヲ全部地主ニ返還スベシトノ決議ヲ爲シ小作人組合長ハ千年村地主組合長(村長)岡崎某ニ對シ交渉ヲ開始シタリ



十一月二日千年村役場ニ於テ地主組合ハ組合長以下地主二十三名小作人組合ハ組合長以下代表委員十二名集合シ折衝ヲ遂ゲ小作人組合側ハ七割五分輕減要求ヲ七割ニ讓歩シ地主組合ハ六割輕減ヲ認メ其ノ差一割ナリシタメ地主組合長岡崎某ハ一村ノ平和ヲ保持スル爲村長ノ資格ヲ以テ左ノ調停案ヲ出シ兩者ノ互讓妥協ヲ求メタルニ兩者共之ニ同意シ解決シタリ

(四) 結 末

- 一 藪作田ノ跡作タル米作ハ收穫皆無ノ地ニ限り小作料六割五分ヲ輕減スルコト
- 二 普通田ニ在リテハ收穫狀況ニ應ジ小作料ヲ輕減シ減收七割以上ニ及ビタルトキハ小作料ヲ全免スルコト

四一 山口縣吉敷郡大道村大字上田開作 (小作料一時的減額)

發 生 昭和四年一月四日

終 熄 昭和四年十月二十四日

關係人員 地主 一人(銀行) 小作人 六十一人

關係土地 田 十八町一畝二十四步 畑 五町三段七畝二十七步 宅地 三千六百七十一坪

(一) 爭議ノ原因

昭和三年度稻作ガ病虫害(葉卷虫及胡麻葉枯)及摺害ノ大被害アリタルヲ以テ關係小作人六十一名

ハ結束シテ小作料ノ五割減額方ヲ地主銀行ニ對シ要求シタルニ銀行側ヘ斯ル不當ナル減額ヲ而モ小作人ガ團結シテ要求スルニ於テハ絕對ニ應ズル能ハズト稱シ拒絕シタルニ端ヲ發ス

(二) 小作人ノ要求並地主ノ主張

小作人等ハ銀行ガ擔保流レトナリ所有セル關係小作地ヲ永續所有ノ意志ナク買手アリ次第之レヲ賣却シ其ノ都度小作人ハ永年肥培改良セル小作地ニ離レザル可カラザル事實頻々トシテ起ルニ不安ヲ感シ偶々昭和三年度稻作ガ病虫害發生ニ依リ大被害ヲ蒙リタルヲ口實トシ小作料五割ノ減額要求ヲ爲シテ紛争シ引ヒテハ關係小作人以外ノ購求者ヲ斷タントノ方策ニ出デ地主ハ被害相當ノ減額ハ亦止ムヲ得ザルモ五割減額ノ如キ不當ナル要求ニハ到底應ズル能ハズ斯ル無望ノ企ヲ爲スモノニ對シテ斷然土地ノ引上ゲヲ爲シ立退ヲ命ジテ嚴ニ懲罰ヲ加フ可シト主張ス

(三) 手段並經過

本件ハ昭和三年ノ秋末ニ於テ小作官ノ調停ニ依リ一應平穩ニ歸セシモノナリシモ昭和四年一月四日ニ至リ關係小作人一同ハ全農山口縣支部長守田某ノ指導ノ下ニ連署シテ地主ニ對シテ小作料ノ五割減額ヲ要求セシモ地主ハ檢見ニ依リ決定セル減免額以外ハ絕對ニ減額スルコト能ハズト回答シテ應ゼザルニ依リ小作人等ハ小作料米ヲ大道農業倉庫ニ入庫シテ證券ニ換ヘ地主ニ納入セズ依ツテ銀行ハ顧問辯護士弘中某ヲシテ更ニ相當猶豫期間ヲ附セル納入督促狀ヲ内容證明郵便ニテ小作人ニ送致シタルニ



小作人側ハ依然トシテ放任スルガ故ニ終ニ十月十三日有體動産ノ假差押ヲナシ小作料支拂要求訴訟ヲ山口地方裁判所ニ提起セリ依ツテ小作人側ハ大坂全農本部ニ打電シ色川辯護士ノ應援ヲ得テ應訴シ口頭辯論四回ニ及ブモ何等解決ノ曙光ダニ認ムルニ至ラズ此間小作人側ハ前後數回ニ亘リ地主攻撃宣傳ビラヲ銀行本支店ノ所在地ニ撒布シ批判演說會ヲ開催シテ一般ノ同情ニ訴ヘ假執行ヨリ換價處分ニ及バントスルニ至リ小作人ノ激昂其ノ極ニ達シ十月十八日一同衣食ヲ携帯シ大舉シテ銀行本店ニ押寄せ頭取ニ面會ヲ求テ差押ノ即時解除ヲ要求シビラ撒布批判演說會等ヲ開催シテ銀行ノ内外ニ煽集シ形勢甚シク惡化シ來レルガ故縣小作官ハ同地ニ急行シ之レガ鎮定ヲナスト共ニ銀行頭取及顧問辯護士ノ反省ヲ促シ小作人代表者ト會見セシメテ調停ニ努メタル結果妥協ノ餘地ヲ認ムルニ至リ調停條項ハ改メテ協定スルコト、シ差當リ小作人側ノ同町退去ヲ要求シタルニ之レヲ了トシ同二十一日歸村スルコト、ナレリ

依ツテ同二十三日双方ヲ大道村役場ニ召集シ協定スルコト、シタルニ同日早朝偶々地主ガ既ニ手續申請中ナリシ換價處分許可命令書ガ小作人ニ送致セラレタルヲ以テ再ビ小作人側ノ激昂ヲカヒ再度衣食ヲ携帯シテ顧問辯護士及裁判所ニ押寄ス可ク驛前ニ集合不穩ノ情勢ヲ示シ居タルモ右ハ全ク地主ノ惡意ニ出デタルモノナラズトノ小作官ノ說示ニ依リ漸ク平靜ニ歸シ協定ヲ進ムルコト、セリ此間多少ノ屈折アリシモ終ニ同夜ニ至リ略々條件一致スルニ至リタルヲ以テ翌二十四日開廷ノ山口地方裁判所

ニ於テ和解ノ形式ヲ取ルコト、シ別レタリ

然ルニ同日ニ至リ米ノ換算價格ニ於テ再ビ紛議ヲ生ジ一時殆ンド調停絶望ニ陥リシガ終ニ關係判事モ調停ニ加ハリ同夜一時頃左ノ通り圓滿解決スルニ至レリ

#### (四) 結 末

#### 和 解 條 項

一 小作人ハ地主望月某(銀行支配人)ニ對シ昭和三年度加調米ヲ當事者間ニ定メタル額ヨリ二割ヲ減ジ十一月五日限り支拂フコト

(右二割減ノ外一割ニ相當スルモノハ當分納入延期ヲ承認シ小作人ノ態度ヲ見テ後之レガ請求ヲナサルコトアルベシトセシニ依リ結局三割減トナル)

二 右納入米ハ山陽線大道驛前地主ノ指定スル場所ニ穀物検査ニ合格シタル小粒三等米ヲ以テ納入スルコト

但シ玄米ニテ納入シ得ザル事情アルモノハ一石二十七圓ノ換算價現金ヲ支拂フコト

三 小作人ガ地主ニ對スル義務完了ヲ待チ假差押解除ノ手續ヲナスコト

四 前項ノ外ハ従前ノ例ニ依ルコト

備考



本爭議ニ關シテハ小作人側ニハ全農山口縣支部長守田某及顧問辯護士邑川某(大阪本部)之レガ指導ヲナシ地主側ハ顧問辯護士弘中某之レニ當リ然シテ本件根本問題タル該開作ガ永小作地ナルヤ普通貸借地ナルヤハ今回ハ全ク不問ニ附スコト、セリ

四二 德島縣那賀郡羽ノ浦町大字岩脇 (天候不良ニ基ク米質低下ニ對シ特別獎勵米交付)

發 生 昭和四年十一月十日

終 熄 同 年十二月二十九日

關係人員 地主 五十二人 小作人 九十八人

關係土地 田 六十八町步

(一) 爭議ノ原因

昭和四年度稻作ハ開花時期以來降雨多ク殊ニ刈入後晴天少ナカリシニ因リ粃ノ乾燥充分ナラズ生産米ノ品質不良ニ陥リ爲ニ産米検査ノ成績モ概シテ一等級低下セリ(從來同地方米ノ大部分ハ三等米格ヲ普通トセリ)元來本地方ハ本縣産米検査施行當時ヨリ三等米納入ノ場合ハ石ニ付五升、二等米ハ七升五合、一等米ハ一斗ノ各獎勵米ヲ交付スル慣行ナルガ本年産米ハ右ノ如ク大部分四等米ナリシニヨリ小作人ハ獎勵米ヲ得ル目算外レタル結果協議シテ地主ニ對シ左ノ要求ヲ爲シタルニ發端ス

(二) 小作人ノ要求並地主ノ主張

小作人ハ右ノ理由ニ基キ本年ニ限り特ニ左記率ニ依ル特別獎勵米ノ交付ヲ要求ス

二等米納入ニ對シテハ從來ノ獎勵米石ニ付七升五合以外ニ石ニ付三升ノ特別獎勵米

三等米納入ニ對シテハ從來ノ五升以外ニ石ニ付三升ノ特別獎勵米

四等米納入ニ對シテハ新ニ石ニ付五升ノ特別獎勵米(從來獎勵米ナシ)

五等米納入ニ對シテハ新ニ石ニ付二升ノ特別獎勵米(從來獎勵米ナシ)

右要求ニ接シタル地主ハ其ノ要求ノ適當ナルコト、本年限りノ特別獎勵米名目ナルモ必ズ將來ノ慣行ト爲ルコト及本件地主ガ之ヲ認ムル時ハ全縣下地主ニ及ボス影響モ大ナルコト等ノ點ヨリ此ノ要求ヲ拒絕シ其ノ代償トシテ小作俵米品評會ヲ開催シ多少ノ褒賞米ヲ出シ以テ之ガ緩和ヲ圖ル旨回答セシモ小作人側ノ態度飽迄強硬ナルニ憤慨シ之ヲ取消スト共ニ大正十五年ニ於テ成立セル小作料永久減免調停條項ノ納期ガ毎年十二月二十日ナルニヨリ期日ニ小作米ヲ納付セザレバ強制執行ヲ爲ス旨通告セシ所小作人側ハ強制執行苦シカラズトノ下ニ小作料ノ不納同盟ノ舉ニ出デタリ

(三) 手段並經過

茲ニ於テ地主代表ハ出縣小作官ニ事情ヲ具陳シ調停條項ノ小作料納期ト今回ノ不納同盟關係ニ對スル解釋ヲ求ムルト共ニ裁判所ノ意見聽取方申出デタリ、小作人側代表モ亦同日出縣地主ノ無理解並ニ小作人側ノ要求ノ不當ナラザルコトヲ小作官ニ陳述シ小作人側要求ノ貫徹方依頼スル所アリ、小作官



ハ双方ニ對シ近ク小作官調停ヲ爲スベキ旨ヲ述ベテ引取ラシメタリ

十二月二十二日小作官同地ニ出張地主ニ對シ前言ノ俵米品評會ヲ復活スルコトトシ之ガ審査長ハ穀物検査所富岡支所長ニ依頼スルコト其ノ褒賞數竝ニ褒賞金額ニ就キテハ小作官ニ一任方希望セシ所地主ハ品評會復活ニ賛スルモ褒賞數及金額ノ一任ハ爲シ難キ旨申出デタリ

次デ小作官ハ小作人側幹部集會席上ニ臨ミ特別獎勵米交付要求名目ハ其ノ波及スル所全縣下ニ及ブベク到底地主側ノ應諾セザル所ナルニヨリ之ヲ撤回シ小作俵米品評會名ニヨリ解決スルコトニ賛スル様指示シタル結果同夜總會ニ諮リ十二月二十三日小作人側ハ交付米額ニ於テ前要求ニ一致スルナラバ名目ノ如何ヲ問ハズト回答セリ、翌二十四日小作官ハ俵米品評會ニ於ケル等賞米額案ヲ双方ニ發表セシ所地主小作人別々ニ總會ヲ開キシ結果小作人側ハ大體小作官案ニ同意シタルモ地主側之ニ應ゼズ仍テ小作官ハ更ニ案ヲ作成スベシトノ下ニ一旦引上ゲシ所同月二十七日同町町會議員二人ヨリ默視シ難シトノ下ニ共ニ調停シ度キ旨小作官ニ申込ミアリ仍テ小作官ハ同議員ト共ニ同月二十八日第三回目ノ折衝ヲ試ミタル結果終ニ左ノ條件ニテ圓滿解決セリ

(四) 結 末

解決 條件

一 地主ハ左ノ納米品位ニ對シ本年ニ限り左ノ金額ノ特別獎勵金ヲ小作人ニ交付スルコト

二等米	甲	一石ニ付	五十錢
	乙	同	三十錢
三等米	甲	同	五十錢
	乙	同	三十五錢
四等米	甲	同	五十錢
	乙	同	三十五錢

五等米ハ納入セザルコト

二 昭和四年十二月三十一日迄ニ同年小作料ヲ皆納セシモノニ對シテハ小作地反當リ二升ノ皆納獎勵米ヲ交付スルコト

四三 香川縣綾歌郡畑田村 (小作料永久的減額)

發 生 昭和二年二月廿八日

終 熄 昭和四年二月廿一日

關係人員 地主 六十六人 小作人 二百十四人

關係土地 田 百三町步 畑 二十町步

(一) 爭議ノ原因



本村ハ縣下ニ於テモ比較的早クヨリ爭議發生シ大正十二年末既ニ爭議ノ兆ヲ示シ爾來日本農民組合ノ發展ニ從ヒ爭議ハ愈々擴大スルニ至レリ、爰ヲ以テ村内有志ハ地主間ヲ奔走シ大正十四年小作人ノ要求具體化スルニ先立チ反當一斗ノ小作料ヲ永久減額シタリ、該減額ニヨリ危機ニ瀕セシ爭議モ未然ニ防止シ得タルモ其ノ後縣下一般ノ爭議竝近接町村ノ爭議解決ノ情勢ニ鑑ミ右減額ニテハ尙小作料ハ高率ナリトシ同村農民組合支部主唱ノ下ニ更ニ永久三割減ノ要求ヲ爲シタル處地主ハ之ヲ拒絕シタルニ本件爭議ノ端ヲ發ス

### (二) 小作人ノ要求竝地主ノ主張

#### (イ) 小作人ノ要求

大正十四年以來地主ハ反當一斗ノ小作料ヲ減額セリト雖現在ノ小作料ハ反當一石四斗乃至八斗ニシテ土地ノ生産力竝隣接町村ノ小作料ニ比スレバ著シク高率ニ在リテ小作農ノ收支經濟ハ到底引合ハザルノ状態ナルニ依リ更ニ現在小作料ヨリ永久ニ三割方ヲ減額スベシト強硬ニ要求セリ

#### (ロ) 地主ノ主張

本村ノ耕地ハ比較的肥沃ニシテ上田ハ反當二石八斗、中田ハ二石四斗、下田ハ反當二石ノ收量アリ而モ小作料ハ既ニ先年反當一斗ヲ減ジタル爲上田一石四斗、中田一石、下田八斗ニ低下シ小作料ハ收量ノ半以下ニアリテ斷ジテ高率ニ非ズ、又小作人側ハ農業經營上收支償ハズト主張スルモ地主モ

亦同様財政不如意ニ在ルヲ以テ小作人ノ要求ニ對シテハ到底應諾ノ餘地ナシト強調ス

### (三) 手段竝經過

小作人ハ大正十三年三月既ニ日本農民組合ニ加盟シ其ノ數ハ百八十九名ニシテ村内小作農家百三十七戸自作兼小作農家百六十七戸合計三百四戸ノ六割二分ニ達シ減額要求ニ際シテハ日本農民組合支部主唱ノ下ニ村内小作全員ヲ一團トシテ各地主ニ減額要求ヲ爲シ地主ノ之ニ應ゼザルヲ知ルヤ日本農民組合香川縣聯合會竝同村地方協議會ノ指導後援ノ下ニ持久的策戰ニ出デ先ヅ小作人ヲシテ夫々地主ニ嘆願的各個要求ヲ爲サシメ次デ小作料ノ不納同盟、土地ノ不買同盟等ヲ以テ地主ヲ經濟的ニ壓迫スルト共ニ村政竝日常生活上ニモ階級的態度ヲ採リ極力要求ノ貫徹ヲ圖レリ

右小作人ノ行動ニ徴シ地主モ個々ノ交渉ニテハ到底解決ノ見込ナキヲ察シ昭和二年五月二十日主ナル村内地主十七名ヲ以テ畑田村地主會ヲ組織シ從來ノ微溫的消極態度ヲ變ジテ積極的攻撃ノ態度ニ出デ先ヅ土地返還竝賃料請求ノ訴訟十五件ヲ提起シ仲裁的交渉ヲ排シテ強硬ナル態度ニ出デ一般地主ハ該地主會ニ加入セルト否トニ不拘同一歩調ニ出デ小作人ノ要求ヲ拒否セントセリ

右ノ情勢ハ爭議發生以來昭和二年末迄繼續シタルモ訴訟ノ進行ト假差押假處分或ハ假執行等地主ノ攻勢猛烈トナルニ及ビ小作人ハ已ムナク調停ノ申立ヲ爲シ一部ハ調停ニ依リ解決ヲ告ゲ茲ニ本件爭議解決ノ端緒ハ開カレ小作官ノ指導ト村内有志ノ活動トニヨリ訴訟事件ハ漸次調停ニ依リ解決スルニ至



次デ昭和三年三月共產黨事件檢舉ニ伴フ農民組合ノ解散ニ連レ小作人ノ團結ハ全ク衰へ訴訟以外ノ  
爭議モ前記同様小作官及有志ノ斡旋ニヨリ順次調停ニヨリ解決スルニ至レリ

(四) 結 末

敍上ノ如クニシテ本件爭議モ發生以來二ケ年ヲ經過シタル昭和四年二月漸ク全村ノ解決ヲ告ゲタリ  
解決條件ハ土地ノ状態竝從來ノ小作料(大正十四年改正前ノ小作料)ノ多寡ニヨリ凡ソ一割五分乃至  
一割七分ヲ永久減額スルコトトシ下方ニテ解決セルモノモ左記條項ニ準ジ裁判所ニ於ケル調停手續ヲ  
採レリ

調 停 條 項

- 相手方(地主)ハ申立人(小作人)ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ昭和三年度以降同目錄記載ノ小作料  
ニテ賃貸耕作セシムルコト
- 一 小作人ハ地主ニ對シ昭和三年度以降ノ小作料ヲ毎年度其翌年一月末日限り香川縣生産合格玄米ヲ  
以テ地主宅ニ持參支拂フコト
- 二 昭和三年以降ノ小作料ヲ其期限内ニ滞リナク完納シタルトキハ地主ハ小作人ニ對シ左ノ割合ニヨ  
ル獎勵米ヲ小作料支拂ノ際交付スルコト

反當一石二斗以上ハ一俵ニ付	四	升
同 一石一斗以上ハ同	三	升
同 一石以上ハ同	二	升
同 八斗以上ハ同	一	升

四 小作人ニ於テ昭和三年度以降ノ小作料ヲ第一項期限内ニ支拂ハザルトキハ地主ハ小作人ニ對シ換  
算金ニテ小作料ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

其換算金ハ小作料支拂期前一ケ月間ノ高松市所在香川縣穀物輸出検査所ニ於ケル三等合格玄米ノ賣  
買平均價格ヨリ一石ニ付金五拾錢ヲ減ジタル金額ニ據リ計算スルコト  
但シ賣買平均價格ハ右検査所又ハ官公署ノ證明書ニヨリ證明スルコト

五 小作人ハ天災其他不可抗力ニ因ル凶作ノ場合ニ非ザレバ小作料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ズ  
凶作ノ場合減額ヲ請求セントスルトキハ立毛刈取十五日前小作人ヨリ地主ニ申出デ双方立會ノ上檢  
見又ハ坪刈ヲ爲シ減額歩合ヲ協定スルコト若シ協定調ハザルトキハ双方ヨリ三名宛ノ委員ヲ選出シ  
其委員ニヨリ協定スルコト

尙右協定不成立ノトキハ双方又ハ一方ヨリノ申立ニ依ル香川縣小作官ノ裁定ニ一任シ該裁定ニハ双  
方絶對ニ服従スルコト



六 小作人ハ地主ノ書面上ノ承諾ヲ得ルニ在ラザレバ左記行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

(イ) 本件賃借地ノ原狀及使用方法ヲ變更スルコト

(ロ) 賃借權ヲ讓渡シ又ハ賃借地ヲ轉貸若クハ他人ヲシテ使用セシムルコト

七 小作人ハ地主ニ對シ昭和元年度分昭和二年度分未納小作料ヲ左ノ通り支拂フコト

(イ) 昭和元年度分ハ一石三十六圓ノ割合ニテ換算シタル金額ヲ以テ昭和三年八月三十日限り

(ロ) 昭和二年度分ハ合格玄米又ハ一石ヲ三十四圓ノ割合ニテ換算シタル金額ヲ以テ昭和三年八月

十五日限り

八 小作人ニ於テ本件契約ニ違背シタルトキハ地主ノ請求次第本件土地ヲ原狀ニ復シテ返還スルコト

九 本件調停費用ハ双方各自辨ノコト

(目錄省略)

四四 愛媛縣北宇和郡明治村大字豊岡俊組

(小作料永久的減額  
差シ米廢止要求)

發 生 昭和三年十二月二十七日

終 熄 昭和四年十月二十七日

關係人員 地主 二十五人 小作人 三十七人

關係土地 田 二十七町步

(一) 爭議ノ原因

昭和三年度稻作ハ風水害ノ爲多大ノ減收ヲ來シタルノミナラズ最近農產物價格暴落セシニ生産費竝ニ生活費ハ低落セズ小作人ノ生活ノ安定ヲ期シ難ク爲ニ小作人等ハ關係地主ニ小作料減額ヲ懇願セシモ地主ノ意思強硬ニシテ目的ヲ達セズ不得已農民組合ヲ背景トシ團體的ニ小作料永久五割減額竝ニ從來ノ慣行一石ニ付二升五合ノ差シ米廢止ノ要求ヲナスニ至リシモノナリ

(二) 小作人ノ要求竝地主ノ主張

小作人ハ昭和三年度稻作減收ニ對シ小作料減額ヲ受クルハ勿論最近ノ經濟事情ハ小作料ノ永久減額ヲ受クルニアラザレバ小作人ノ生活ノ安定ハ期シ難ク又差シ米慣行ハ藩政時代ヨリノ慣行ナリト雖不合理ノ慣行ナレバ此際廢止セラレ度シト要求シ、地主ハ昭和三年度稻作ノ實況ニ基キ多少ノ減額ハ不得已モ元來同部落ニ對シテハ昭和二年ニ地主自發的ニ小作料ノ改定ヲナシ地主小作人双方ノ委員立會實地踏査研究ノ上平均一割五分ノ小作料減額ヲナセシモノナルヲ以テ小作人ノ要求ノ如ク永久減額ハ勿論三年度稻作ニ對シテモ多額ノ減額ニハ應ズルコトヲ得ズ又差シ米慣行ハ地方ノ商取引慣行ト一致シ居ルモノナレバ米穀檢査實施後地方ノ商取引慣行改マレバ兎ニ角現今ノ實情ハ之ヲ廢止スルヲ得ズト主張スルニ至ル

(三) 手段竝經過



小作人ハ農民組合幹部井谷某ノ指導ニ依リ小作料ノ不納同盟ヲナスト同時ニ交渉委員ヲ選出シテ軟派ト認メラル、地主ヨリ順次交渉シテ個人的ノ解決ヲ圖リ解決困難ナルモノハ有志又ハ警察官ノ調停ヲ乞ヒ尙解決セズシテ地主ヨリ民事訴訟ヲ提起スルニ至レバ小作調停法ニ依リ調停ノ申立ヲナス方針ノ下ニ交渉ヲ開始（此ノ地方農民組合ノ解決手段ハ多ク此方法ニ依ル）セシニ一月乃至七月ノ期間ニ於テ五回ニ亘リ地主二十二名ノ關係ハ三年度ニ限り二割乃至五割減平均三割減程度ニテ解決ヲ告ゲタルモ地主三名ノ關係ハ示談成立セズ爲ニ内二名ハ小作人四名ニ對シ小作料請求竝ニ土地返還ノ訴訟ヲ提起シ小作人（被告）等ハ關係地主二名ヲ相手方トシテ調停申立ヲナスニ至レリ、而シテ訴訟ヲ提起スルニ至ラザリシ地主一名ノ關係ハ有志ノ調停ニ依リ三年度限り二割二分減ニテ解決シタルガ調停申立（訴訟關係ノ分）關係地主二名小作人四名小作地田五反歩ニ付テハ十月二十六日ヨリ調停委員會ヲ開催シタルモ地主ニ依リ各事情ヲ異ニシ一名ノ地主ハ他村ニ居住シ小作地モ亦他村ニアル等一括調停不能ノ爲各別ニ調停ノ結果村内地主關係ノ分ハ翌二十七日調停成立セシモ他村地主關係ノ分ハ年内ニ調停成立ニ至ラズ

(四) 結 末

村内地主關係ノ分ニシテ調停法ニ依リ解決ヲ告ゲタルモノ、解決條件左ノ如シ

解 決 條 件

- 一 本件土地ノ小作料ハ昭和四年度以降玄米一石八斗八升トス
- 二 地主ハ本件土地ヲ昭和九年三月末日迄引繼キ小作人ニ耕作セシムルコト
- 三 地主ハ本件土地ノ昭和三年度ノ小作料ヲ一石六斗ニ減額スルコト
- 四 小作人ハ昭和三年度滯納小作料ヲ内一石ハ金貳拾六圓ニ換算シ十月二十八日限り支拂ヒ残り六斗ハ昭和四年十一月二十日限り玄米ヲ以テ納付スルコト
- 五 小作料納期ハ毎年十二月二十日トスルコト
- 六 小作人ハ玄米ヲ以テ小作料ヲ納付シ能ハザルトキハ前記納期ニ於ケル明治村大字松丸ニ於ケル時價ニ換算シタル金額ヲ以テ代納スルコトヲ得
- 地主ハ後記延滯小作料ニ付キ強制執行スル場合モ前項ニヨリ換算シタル金額ニ付キ強制執行ヲナスコトヲ得

- 七 昭和四年以降天災其ノ他不可抗力ニ基ク減收ニ依リ小作料減額ノ必要アルトキハ刈取一週間前地主ニ申出双方立會ノ上檢見減額ノ協定ヲナスコト
- 若シ双方當事者ニ於テ協定不能ノトキハ双方同意スル第三者ノ裁定ニ一任シ其ノ裁定ニ對シ双方異議ヲ申述ベザルコト

前項裁定者タル第三者ノ選定ニ付地主小作人間ノ意見一致セザルトキハ本件小作調停委員赤松某ヲ



裁定者トス

八 小作人ニ於テ前記小作料ヲ納期ニ納付セザルトキハ地主ハ直チニ強制執行ヲナスコトヲ得  
小作人ノ右小作料滯納二回（前項第四項ノ滯納小作料ノ延滞モ含ム）ニ及ブトキハ地主ハ本件契約  
ハ解除サレタルモノト見做シ直チニ本件土地ノ返還ヲ請求スルコトヲ得  
九 本條件以外ハ舊來ノ慣行ニ依ル

四五 高知縣幡多郡津大村大宮（小作料改定）

發 生 昭和四年九月三日

終 熄 昭和五年三月二十七日

關係人員 地主 十九人 小作人 九十九人

關係土地 田 二十七町三反六畝二十步 畑 八町四反二畝十一步

宅地 一町三畝步 山林 七町三反三畝三步

(一) 爭議ノ原因

係爭地津大村大宮部落ハ愛媛縣北宇和郡明治村目黒部落ニ接續シ村役場ヲ距ル約三里交通不便ノ土地ナルモ戸數百五十戸耕地約百町步ヲ有スル北幡唯一ノ農業地帯ナリ、耕地ハ少數ノ地主ニ兼併セラレ大部分ハ小作農又ハ自作兼小作農ニシテ本縣内稀ニ見ル貧富ノ懸隔アル地方ナリ、大正十三年隣接

地目黒ノ小作爭議ノ餘波ヲ受ケ愛媛縣井谷某氏ノ指導ニヨリ日本農民組合ニ加盟シ大宮支部ヲ設立シ小作料高率ヲ理由ニ定額小作料ヨリ三割五分ノ減額竝ニ小作料不公平ナルヲ以テ之レガ改訂方ヲ要求シ地主ニ向テ強硬ニ對抗シテ遂ニ爭議トナリ小作料ノ不納同盟或ハ部分納ヲナシ鬭爭ヲ繼續シテ本縣ノ代表的爭議トナレリ、爾來地方有志ハ種々仲裁ヲ試ミ大正十五年一月ニ至リ當時ノ幡多郡長、郡農會長、中村警察署長其他有志ノ調停ニヨリ向フ五ケ年間定額小作料ヨリ平均二割一分ヲ減額シ内一分ハ蓄積シテ農事發展上ノ資金及凶作ノ場合竝ニ公共事業ニ供スルコトトシ大正十五年度以降ニ於ケル各筆毎ノ小作料改訂ハ更ニ相當機關ヲ設ケ調査決定スベク一先解決セリ

而シテ大正十五年度及昭和二年度ハ小作料納付ニ際シ小作料改訂未了ヲ理由トシテ三割減ノ計算ニヨリ部分納ヲナシ昭和三年度ハ一部凶作ナリシ爲メ檢見ヲ申出デ双方代表者立會調査ノ結果相當ノ減額行ハレテ解決セリ、昭和四年度ニ於テハ郡長等ノ調停ガ五ケ年ヲ經過シタルヲ以テ改メテ小作人組合ヨリ定額小作料三割五分減ノ要求ヲ爲シ再ビ爭議化セリ

(二) 小作人ノ要求竝地主ノ主張

(イ) 小作人ノ要求 當地ハ米麥作ヲ以テ農業經營ノ主體トナシツ、アルニ上流ニ接續セル明治村目黒部落等ニ比シ小作料高率ナルタメ小作經營トシテ收支相償ハズ小作人ハ小作米ヲ支拂フ時ハ殘餘幾何モナク生活上支障ヲ來ス状態ナルニ地主ハ何等ノ勞費ヲ用ヒズシテ多額ノ收入アリ均衡ヲ失シ



ツ、アルヲ以テ將來期限ヲ附セズシテ定額小作料ヲ三割五分減額シ尙小作料ガ土地ノ良否ニ伴ハズ地主ニヨリ高低アリ頗ル不公平ナルヲ以テ小作料ノ改訂ヲ實行セラレンコトヲ要求セリ

(ロ) 地主ノ主張 小作人ヨリ三割五分減額ノ要求アリタルモ地主ハ米價下落ノ爲メ收入減退セルニモ拘ラズ公租公課負擔ハ輕減セラレズ其他生活費モ低下セズ生活上ノ餘裕モナキヲ以テ小作人ノ要求ニハ應ジ難ク殊ニ從來ノ小作料ハ近接町村及村内大部分ノ小作料ニ比シ敢テ高率ニ在ラザルモ前回有志ノ調停ニ二割減額ヲ認メタル關係上同步合ノ減額ニハ應ゼザルベカラザルモ小作人ノ要求通りハ到底承諾スルコト能ハズト主張シ且ツ現在ハ地主ヨリモ小作人が却テ利益ヲ收得シツ、アルヲ以テ從來滞納セル小作料ノ支拂ヲ要求セリ、而シテ土地ニヨリ小作料不公平ナルコトハ認ムルヲ以テ小作料ノ改訂ニハ應ズベシト主張ス

### (三) 手段並經過

大正十五年一月協定セシ有志ノ調停條項ハ昭和四年以降ハ期間滿了ノ爲自然無効トナレルヲ以テ同年九月三日小作人組合ノ總會ヲ開キ前回同様三割五分ノ減額ヲ要求シ其方法ハ可成穩健ナル手段ニヨルコトヲ申合セ小作人組合長ヨリ地主組合長迄減額ノ要求ヲ申立デタリ、地主會ハ直ニ會合協議ノ結果小作人ノ要求ヲ拒絕スルコトトシ其旨九月廿九日小作人組合ニ通知セリ、小作人ハ更ニ協議ヲ爲シ當初ノ要求ヲ貫徹センコトヲ期シタリ、其際地主ノ一部窪内某及小島某ハ小作人組合ノ幹部ノ一人ナ

ル竹葉某ニ四反餘歩ノ土地返還ヲ要求シ小作人ノ感情ヲ害シ結束ヲ強固ナラシメ小作料ノ一割ヲ積立テ持久戰ニ入ラント準備シ或ハ再ビ愛媛縣井谷某ノ出馬ヲ乞ヒ指導ヲ受ケントスル傾向アリタリ

然ルニ地主ノ態度モ甚強硬ニシテ小作人組合ノ足並ヲ崩サントシ二割以上ハ絶對ニ減額セズト主張スルヲ以テ容易ニ解決ノ見込立タズ、仍テ小作官ハ徹底的實情調査ノ必要ヲ認メ十二月上旬現場ニ出張シ實情ノ調査ヲ爲シ隣村目黒ノ爭議ノ實情、解決方法、條件等モ調査シタル結果小作調停法ニ依リ權威アル調停ヲ爲スノ得策ナルヲ認メ地主會及小作人組合ニ對シ調停申立ヲ慫慂シタルニ一月四日ニ至リ地主ヨリ正式ノ調停申立ヲ爲セリ

裁判所ハ調停委員四名ヲ選定シ一月十九日爭議地タル津大村大宮小學校ニ於テ調停委員會ヲ開催シ双方ノ總代ヲ出席セシメタルニ地主小作人共協調主義ヲ贊成シ本件解決後ハ協調組合ヲ設立スルコトヲ約シ尙小作料ノ改訂ハ種々意見アリタルモ公簿等級ヲ標準トシテ行フコトニ双方異議ナク纏リタルモ減額歩合ニ就テハ小作人側ハ三割五分ヲ三割減迄讓歩シタルモ地主側ノ態度強硬ニシテ一步モ讓歩セズ解決ニ至ラザリキ、第二回委員會ハ二月廿五日江川崎村巡查部長派出所ニ於テ開催シタルニ地主側ハ少シク讓歩シ二割減ニテ改訂ヲ行ヒ之ヲ皆納シタル場合ハ二分ノ獎勵米ヲ交付スルコトヲ主張シ小作人側ハ二割五分減迄讓歩シ之レ以上ハ絶對ニ餘地ナキコトヲ主張セリ、之ヲ更ニ妥協セシムベク折衝ヲ重ネタルモ容易ニ一致セザルヲ以テ小作官ニ於テ減額歩合幾何ト定メズシテ双方ノ主張ヲ參酌シ小



作料改訂案ヲ作成スルコトトシ翌日其改訂案ヲ提出シ地主小作人双方ノ承認ヲ得大部分ハ解決セリ  
 而シテ地主二名ヨリ小作人竹葉某ニ對シ土地返還ノ要求ヲ爲シタルモノハ二月廿五日一ハ地主ヨリ  
 一ハ小作人ヨリ調停ノ申立ヲナシ又地主窪内某ハ三月十八日ニ至リ小作人九名ヲ相手方トシテ土地返  
 還ノ調停申立ヲナシ尙地主赤松某ハ調停申立ヲナスコトハ地主ノ不利益ナルヲ以テ訴訟ニヨリ解決セ  
 ント稱ヘ調停申立ニ加盟セザシガ三月十八日小作人ヨリ調停ノ申立ヲナシ尙地主竹本某ハ調停申立洩  
 アリトテ三月廿五日調停申立ヲナシ何レモ三月二十五、六、七日ノ三日間ニ於ケル調停委員會ニ於テ調  
 停成立シタリ

四月三十日ハ調停條項ニ基キ大宮協調會ノ發會式ヲ舉行シ數年來引續キタル本縣代表的ノ小作爭議  
 モ圓滿ニ解決シ平和ノ村ニ復活セリ

(四) 結 末

調停委員會ニ於テ成立セル調停條項左ノ如シ

調 停 條 項

- 一 別紙目錄記載ノ田地小作料ハ昭和五年度ヨリ別表ノ通り改定スルコト  
 但別表ニヨリ現小作料ヨリ四割以上ノ減額トナルモノハ四割減額ニ止メ一割以上ノ増額トナルモノ  
 ハ一割増額ニ止マルモノトス

(但書ノ四割以上トアルヲ三割以上トナシ一割ノ増額ヲ認メザルモノモアリ)

- 二 別紙目錄記載ノ山林、畑、宅地、原野ノ小作料及借地料ハ昭和五年度以降現小作料ヨリ二割三分  
 ヲ減額スルコト

- 三 大正十五年度及昭和二年度ノ一割ノ保留米ハ之ヲ免除スルコト

- 四 昭和五年度以降ノ田役費ハ申立人(地主)相手方(小作人)立會ノ上普通田役費ナルヤ否ヤヲ決定シ  
 普通田役費ハ相手方ニ於テ負擔シ災害其他特別田役費ハ從來ノ慣例ニヨリ申立人相手方ニ於テ分擔  
 スルコト

- 五 昭和三年以前ノ延滞小作料米ハ昭和五年六月二十日及同年十月十日ヨリ十一月十日迄ノ二回ニ分  
 割支拂フコト

但小額ノモノハ一時ニ支拂ヒ特別多額ノモノハ當事者間ニ於テ協定スルコト

- 六 昭和四年度ノ小作料米ハ二割五分ヲ免除シ七割五分納トシ不足米及未納米ハ昭和五年三月十日  
 (四月十五日トセルモノモアリ)限リ支拂フコト

- 七 凶作等ニ因ル檢見ハ收穫二十日前申出ヲ爲シ申立人相手方双方委員立會ノ上減額歩合ヲ決定スル  
 コト

- 八 昭和五年度以降ニ於テ左ノ理由ニヨリ三ヶ月以前ニ申立人ヨリ相手方ニ對シ土地返還ノ豫告アリ



タル時ハ相手方ハ其土地ヲ返還スルコト

(イ) 小作料不納二年以上ニ渉ル時(一部延滞ヲ含ム)

(ロ) 申立人ガ土地ヲ賣却スルノ必要ヲ生ジタル時

但シ此ノ場合ハ先ヅ相手方ニ對シ其旨ヲ通知シ相手方ニ於テ買受ノ意志ナキコトヲ確ムルコト  
又協議會ニ於テハ相手方ノ生活ニ脅威ヲ與ヘザル様斡旋スルコト

(ハ) 申立人ニ於テ自作ノ必要ヲ生ジタル時、又ハ特別ノ事情ニヨリ土地使用ノ必要ヲ生ジタル時

但双方間ニ於テ圓滿ニ解決セザル時ハ協議會ノ裁決ニ依ルコト

九 相手方ハ申立人ノ承諾ヲ受クルニ非ザレハ土地ヲ轉貸又ハ地目ノ變換ヲ爲サルコト

一〇 本件ノ田畑山林原野ヲ宅地ニ變換シタル時ハ相手方ハ直ニ相當借地料ノ値上ヲ爲スコト

一一 小作料ハ毎年十一月二十日ヨリ十二月二十日迄ノ間ニ納入スルコト

一二 小作料支拂ノ場所ハ從來ノ慣習ヲ遵守シ目黒、大宮、須崎ノ各地ハ申立人宅へ持行クコト

一三 小作料ハ其土地生産ノ並米以上ノモノヲ納入スルコト

但米穀検査實施後ハ検査米ヲ納入スルコト、シ検査實施以前ニ於テハ申立人及相手方双方委員ニ於テ検査ヲナシ上米ニ對シテハ相當ノ獎勵米ヲ申立人ヨリ支給スルコト

一四 本件解決後ハ協調組合ヲ設立シ檢見、土地返還、小作料米検査、地主小作人間ノ紛議其他本件調停條項以外ノ細目ニ付キ協調スルコト

一五 本件調停費用ハ各自辨ノコト

(土地目錄省略)

別表

公簿等級	改定小作料 (反當)	現小作料 (反當平均)
一 等	一、二〇	一、四三
二 等	一、一八	一、四二
三 等	一、一六	一、四一
四 等	一、一四	一、四〇
五 等	一、一一	一、三九
六 等	一、〇八	一、三七
七 等	一、〇五	一、三五
八 等	一、〇二	一、三三
九 等	九九	一、二二



一〇等	、九六	一、一八
一一等	、九三	一、一六
一二等	、九〇	一、一三
一三等	、八七	一、一〇
一四等	、八四	一、〇五
一五等	、八一	一、〇三
一六等	、七八	一、〇二
一七等	、七五	、九八
一八等	、七一	、九五
一九等	、六七	、九〇
二〇等	、六三	、八五
二一等	、五九	、八〇
二二等	、五五	、七五
二三等	、五一	、七〇
二四等	、四六	、五八

二五等	、四〇	、五〇
二六等	、三六	、四一
二七等	、二八	、三一
二八等	、二〇	、二〇

土地返還ニ關シ小作人ヨリ申立ノ分

一 本件土地二反一畝九歩ハ引續キ申立人ニ賃貸スルコトヲ承認シ昭和五年以降ノ小作料ハ一ヶ年一石八斗ニ改定スルコト

土地返還ニ關シ地主ヨリ申立ノ分

- 一 本件土地ノ内一反一畝十六歩ハ昭和五年同六年ノ兩年度間反當小作料九斗ノ割合ヲ以テ賃貸スルコトヲ承認シ相手方ハ昭和六年冬作終了後該土地ヲ申立人ニ返還スルコト
- 二 一反三步ノ土地ハ昭和五年ヨリ同九年迄五ヶ年間反當小作料八斗ノ割合ヲ以テ賃貸スルコトヲ承認シ相手方ハ昭和九年冬作終了後該土地ヲ申立人ニ返還スルモノトス
- 但シ相手方ハ昭和六年稻作終了後直ニ(一)ノ土地ノ内苗代用地ヲ申立人ニ返還スルコト
- (以上ノ外ノ條項ハ一般ノモノト大差ナシ)

四六 福岡縣朝倉郡大福村大字入地字西區

(小作契約更新、農村不況ニ基ク土地返還要求)



發 生 昭和四年一月二十三日  
 終 熄 昭和四年七月二十八日  
 關係人員 地主 八人 小作人 三十四人  
 關係土地 田 五町步

(一) 爭議ノ原因

本區ハ筑後川流域ニアル戸數七十餘戸ノ農村部落ニシテ内、地主兼自作農約二十戸、其ノ他ノ五十戸ハ自作農若クハ小作農ナリ而モ内、二十八戸ハ入住者ニシテ在來者トノ間ニ感情上ノ疎隔アリ區ニ於ケル役員選舉毎ニ紛擾絶エズ既ニ大正十三年度ニ於テ村一圓ニ亘ル爭議ニ際シテモ先驅ヲナセシ程ナリシガ小作調停ノ結果昭和二年度迄小作料一割七分減トシ且ツ係争地ノ内一町三反餘ハ土地ヲ返還セリ然ルニ農村不況ノ風ハ如實ニ本區農家生活ニ反映シ小地主タル本件地主ハ何レモ負債嵩積シテ家政整理ノ必要ニ迫ラレ土地ヲ引上ゲ自作スルカ若クハ之ヲ處分スルニアラザレバ立行カズト稱シ期限到來ヲ好機トシ昭和三年五月以來内容證明郵便ヲ以テ一部ノ小作人ニ對シ土地返還ヲ請求セシガ小作人ハ小作地ノ狭少、生活困難等ノ爲土地ヲ引上ゲラル、ニ於テハ餓死スルノ外ナシト稱シ全國農民組合福佐聯合會ノ應援ノ下ニ土地不返還小作料一割七分減ノ更新ヲ主張シ爭議ヲ激成セリ

(二) 小作人ノ要求並地主ノ主張

小作人ハ大正十三年度ノ爭議ニ於ケル小作調停ニ於テ他區ノ條件ニ比シ著シク不利條項ニ讓歩ヲ迫ラレタル結果土地返還ニ依リ耕地ノ減少ヲ來シ生活ハ益々窮迫ヲ告グルニ至レリ然ルニ今復土地返還並ニ小作料ノ復舊ヲ請求セラル、ニ於テハ恰モ生活ノ方途ヲ失フニ等シ然ルニ地主側ハ一部ニ窮迫セル事情アル者ナキニアラザレドモ大部分ハ自作地モ豊富ニ生活上ニモ餘裕アルニ拘ラズ無體ノ主張ヲナシ寧ロ感情上ヨリ故意ニ小作人ノ生活ヲ壓迫シ窮地ニ陥レントスルニ似タリ仍テ吾等ハ飽マデ小作料ハ一割七分減トシ小作繼續ヲ求メ一步モ讓歩スルノ餘地ナシト揚言セリ

本件地主中ニハ多額ノ負債ヲ有スル者又ハ其ノ他ノ事情ノ爲相當窮迫セル状態ニアル者アリテ家政經濟ノ維持上強硬ニ土地返還若クハ小作料復舊ヲ主張シ且ツ本件ノ解決條件ガ目下何レモ更新期ニ迫リツ、アル同村一圓ノ小作關係ニ至大ノ影響ヲ及ボスベキ所ヨリ大福村地主會ノ支持ノ下ニ所期ノ目的ヲ達成セントセリ

(三) 手段並經過

本件ノ發生ヲ見ルヤ區ノ平和上ヨリ顧念シテ速ニ之ガ解決ヲ圖ラン爲同區有志者調某、西川某ノ二名專ラ調停ノ勞ヲ取リシモ双者ヨリ却テ偏見猜疑ヲ以テ迎ヘラレ調停進行セズ茲ニ於テ本件ガ曩ニ小作調停ニ依リテ解決シタル關係上地主ハ先ヅ調停法ニヨリテ解決ヲ試ムルノ穩當ナルヲ信ジ旁々條件ヲ有利ニ導カンガ爲メ重立ツ小作人ニ對シテ二月十二日附ヲ以テ假差押ヲ決行シタル上二月十五日一



部ノ小作人ニ對シテハ土地返還竝小作米請求他ノ一部ニ對シテハ單ニ小作米請求ノ分離調停申立ヲ爲セリ小作官ハ裁判所ノ囑託ニ依リ三月五日事實ノ調査ヲ行ヒ双者ノ各種事情ニ付聽取スル所アリシガ本件ハ所謂農村不況農家凋落ニ基因スル代表的爭議トモ目スベク何レモ同情ニ値スルモノアルノミナラズ此ノ間多年ノ感情問題纏絡シツ、アルヲ以テ調停事件トシテハ最モ難件ナルベシト思惟シ調停方針ニ付意見ヲ附シテ報告セリ裁判所ハ三月二十七日、四月十七日、五月一日ノ三回ニ亘リ期日ヲ指定シテ調停委員會ヲ開催セシモ毎回共双者ノ主張強硬ニシテ成立ノ見込ナク却テ回ヲ重ヌルニ從ヒ小作人側ハ農民組合ノ應援ノ下ニ委員會竝地主側ニ對シ示威暴壓ヲ試ミントスル形勢ヲ示セリ茲ニ於テ小作官ハ本件ノ性質ニ鑑ミ慎重且ツ周密ニ調停ヲ爲ス必要アルヲ感ジ調停主任ニ進言シテ法第十一條ニ依ル勸解ニ附スルコトトセシガ裁判所ハ五月一日同村有志者柳原某、柳原某ノ兩氏ヲ勸解員ニ囑託シ本件ハ勸解ニ移レリ

(四) 結 末

爾來兩勸解員ハ十數日ニ亘リ連日連夜双者ニ向ツテ條理ヲ盡シテ勸解說得ニカメタル結果六月十四日午前四時ニ至リ左記一ノ條項ノ通り解決セシモ六月末日ノ納期ニ至リ小作人側ハ小作料改定ヲ行フニアラザレバ納米スル能ハズト主唱シ不履行ニ終リシヲ以テ事件ハ遂ニ再燃シ勸解員モ施スノ術ナクシテ手ヲ引クノ形勢トナリ更ニ區有志者調某外三名調停ニ立チシモ依然行轍中ナリシカ七月二十一日

地主代表四名小作官ヲ訪ネ事後ノ處置ニ付諮詢スル所アリ同月二十七日小作官現地ニ出張ノ上勸解員兩名ヲ督勵シ二晝夜ニ亘リ極力調停ニカメタル結果左記二ノ如キ條項ニテ圓滿解決セリ

然ルニ履行期ニ至リ地主二名小作人三名ノ間ニ支拂能力ナキガ爲メ遂ニ小作米全免ヲ條件トシテ約七反歩ノ土地返還ヲ敢テセル者ヲ生ゼシガ前後ヲ通ジテ波瀾曲折ヲ極メ亦以テ本件ガ如何ニ生活線上ノ眞劍ナル爭議ナリシカヲ推知スルニ足ルベシ

記 一

- 第一條 土地返還ハ昭和五年度ヨリ地主ニ於テ必要ノ場合ハ双方合意ノ上返還スルモノトス
- 第二條 昭和三年度小作米ハ昭和四年六月末日迄ノ内ニ全部皆済スルコト代納米ハ一俵ニ付金八圓貳拾錢トス 但シ附口ハ従前ノ通り
- 第三條 爾後ノ附口米定メノ義ハ昭和四年七月上旬双方竝ニ世話人立會合議ノ上相定ムルコト
- 第四條 執達吏ノ假差押物件ハ解決日附ニ取消ヲナスコト 但シ上納米ニ就テハ小作組合ヨリ責任ヲ以テ完済スルコト

記 二

解 決 條 件

- 一 土地返還ハ昭和五年度以降地主ニ於テ特別ノ事情ニ依ル必要ノ場合ニ限り双方合意ノ上返還スル



コト

- 二 昭和三年度ノ小作米ハ舊附口ヨリ一割七分減トシ昭和四年八月五日限り地主宅へ持參完納スルコト  
ト 但シ代金ヲ以テ納入スルトキハ一俵(三斗四升入)ニ付換算金八圓貳拾錢トスルコト
- 支拂ニ支障ヲ生ズル者ハ右期日ニ於テ半額ヲ納入シ残り半額ハ昭和四年度ノ納米期ニ支拂フコト
- 三 右小作米納入ニ付テハ小作組合ハ連帶責任ヲ以テ其ノ義務ヲ果スコト
- 四 昭和四年度ヨリ同六年度迄ニ至ル小作米ハ公簿面反當四俵二分(一俵ハ三斗四升入合格米トシ不合格米ハ重量八十三斤)トシ中古川、下古川及清水湧田地ニ限り舊附口ニ對シ一割七分減トス
- 五 小作料ノ納期ハ毎年十二月二十日限リトス
- 六 地主ガ小作人ニ對シ執行シタル假差押ハ速ニ之ヲ解除スルコト
- 七 當事者双方ハ前各項ノ一項タリトモ履行ヲ怠リタル時ハ即時本條項ノ儘小作調停法ニ依ル調停ニ合意申立ヲ爲シ其ノ條項ニ移スコトヲ承認シタリ

右條項ヲ確守スル爲署名捺印スルモノ也

昭和四年七月廿八日

福岡地方裁判所

小作勸解員

地主總代

小作人總代

(連署名捺印)

附帶覺書

- 一 昭和四年七月二十八日成立セル本區小作勸解條項第四項ノ小作米ニ付テハ地主柳原某外十三名(記名略)ノ所有田ニ對シテハ特殊田地ヲ除キ一反ニ付四俵二分五厘トスルコト
  - 二 勸解條項第二項ノ支拂ニ支障ヲ生ズル者トアル小作人ハ三人以内トシ延納米額十俵以内トス
- 右當事者双方及調停者間ノ協定條項ヲ明確ニシ且ツ之ヲ嚴守スル爲署名捺印スルモノ也
- 昭和四年七月二十八日

福岡地方裁判所

小作勸解員

地主總代

小作人總代

(連署名捺印)

發 生 昭和三年十月廿七日  
 終 熄 昭和五年四月三十日

四七 佐賀縣神崎郡仁比山村大字志波屋字竹原

(小作地賣却ニ因ル小作地返還)



關係人員 地主 三人 小作人 十八人  
關係土地 田 八町二反歩 畑 二反二畝歩

(一) 爭議ノ原因

佐賀郡中川副村彌富某ハ田畑二百數十町ヲ所有セル大地主ナルガ明治初年神崎郡ニ於テ六七十町歩ノ田畑ヲ購入所有セシガ大正十三年近接セル三養基郡北部ニ激シキ小作爭議發生シタル爲メ之ガ近キ將來ニ於テ神崎郡ニモ波及セムコトヲ惧レタルト一家財政上ノ都合ヨリ大正十五年以來本郡内ニ所有セル田畑ノ賣却ニ着手セリ爭議部落ニハ某ノ所有地十町餘アリ昭和二年五月某ヨリ直接小作人ニ買取方ヲ交渉セシモ頓挫シタルガ昭和二年十月土地ブローカーノ介入スル所トナリ小作人ハ部落寄りヲナシテ部落民トシテハ本件土地ノ賣買ニハ關與セザルベキコトヲ決定セリ昭和三年彌富ハ本部落ノ土地ノ賣却ヲ佐賀市在住小野某ニ委任シ小野ハ竹原部落ノ有力者七名ヲ招致シテ賣却仲介ノ約束ヲ遂ゲ十月二十七日右七名ハ小作人一同ヲ招致シテ小作田買取方ヲ交渉セシガ小作人ハ購入資金ナク衣食ニ窮スルヲ以テ右七名ガ本賣買事件ト絶縁セムコトヲ要求セリ

(二) 小作人ノ要求並地主ノ主張

小作人ハ土地賣却ノ中止小作繼續ヲ要求シ地主ハ即時賣却若シ買取ラザル場合他ニ賣却契約成立ノ上ハ即時返還方ヲ主張ス

(三) 手段並經過

十一月十日頃小作人一同ハ打揃ヒ佐賀市ニ出デ小野ニ面談シテ賣却延期方ヲ交渉セシモ要領ヲ得ズ一方部落内有力者側ハ更ニ賣却ノ手順ヲ進メ小作人三名一町八反餘ノ賣却契約ヲ結ビタルヲ以テ小作人ハ有力者ニ對シ極度ニ反感ヲ抱キソノ結果ソノ手ヲ排除シテ係争地ヲ買取ラムコトヲ決意シ佐賀民衆新聞社長岸川某ニ應援ヲ依頼シ十二月初メ帶同シテ小野ニ面談シテ價格ノ協定ニ入ルト共ニソノ條件トシテ既ニ契約ヲ終レル土地ノ解約ヲ要求シタルガ小野ノ代理人ハ價格ノ協定ノミヲ進行シ條件ノ履行ヲナサザルヲ以テ小作人ハ價格大體反當田五百貳拾圓ノ協定成リタル部分ニツキテモ手附金ノ交付ヲナサズ更ニ十二月十日頃小作人代表者ハ岸川ト共ニ小野ニ面會交渉シタルガ結局既ニ契約成立シタルモノノ解約困難ノ爲交渉停頓スルニ至レリカクテ小作人側ノ部落内有志ニ對スル反感ハ益々高マリ殊ニ小作人青年ハ極度ニ興奮シ遂ニ十二月末及一月末二回ニ亘リ歐打傷害事件ヲ發生セリ四年二月所轄警察署長ハ實情ヲ小作人側ヨリ聴取仲裁セムトセシモ見込ナク放任セリ

二月末村會議員佐野某仲裁セムトシ小作人側ヨリ關係地全部ヲ向フ四ヶ年間小作セシムル條件ニテ賣却方ヲ承諾スルノ一札ヲ得調停ニ入りシモ既ニ賣却濟ノ田地ノ契約ヲ取消スニ於テハ刑事問題ヲ惹起スル虞アリ遂ニ昭和四年七月新地主ヲシテ所有權移轉登記ヲナサシメタル爲メ新地主ハ小作人ニ對シ田地ノ返還ヲ請求スルニ至リ爲メニ小作人ハ仲裁者ノ仲裁ヲ拒絕スルニ至レリ四年七月新地主ハ縣



小作官ニ陳情更ニ十一月小作人ノ一部亦小作官ニ陳情スル所アリ小作官ニ於テ實情ヲ調査セシモ調停ノ機運ニ至ラザリキ

昭和四年度稻作終了後賣却濟ノ田地ノ返還ニ關シ新地主ト小作人トノ對抗著シク小作人一同ハ應援シ新地主ト絶交スルニ至リ新地主ハ部落ヲ離レテ居宅ヲ建築セリカクテ昭和五年二月更ニ小作人ヨリ小作官ノ調停方ヲ陳情シ小作官調停ニ着手セシガ新地主ハ内容證明郵便ヲ以テ土地返還請求ヲナス等態度強硬ナリキ二月末ヨリ小作官竝村調停委員一名新地主舊地主小作人トノ間ニ立テテ調停ノ結果四月未ニ至リ左記條件ニテ解決シ四月卅日法ニ依ル調停ニ附シ契約ヲ締結セリ

(四) 結 末

主要條件左ノ如シ

- (イ) 新地主一名ハ小作人ニ對シ一町一反八畝ノ小作地即時返還ヲ受クル代償トシテ換地三反一畝二十五步及作離料金百圓ヲ交付スルコト
- (ロ) 他ノ一名ノ地主ハ小作料ヲ協定シ引續キ小作セシムルコト
- (ハ) 殘部ノ地主所有ノ田五町三畝步畑二反二畝步ハ反當平均四百拾五圓ヲ以テ小作人側ニ於テ買取ルコト

四八 長崎縣南高來郡深江村大字用 (小作料値上)

發 生 昭和四年四月廿九日

終 熄 同 年七月十日

關係人員 地主 一人 小作人 三十一人

關係土地 田 五町三反步

(一) 爭議ノ原因

深江村地主鹽田某ハ同村小林某ヨリ田五町三反步ヲ反當千圓ニテ買受タルガ該土地ハ村内ニ於ケル上田ニシテ五年前迄ハ反當八百參拾圓内外ノ相場ナリシモ現在ハ千圓以上ノ高値トナリ從テ小作料モ増額セザレバ買價ニ對シ均衡ヲ失スルノ嫌アリ且金利ノ關係ヨリスルモ此際値上スルハ當然ナリトシ從來ノ小作料反當三俵半ナリシヲ四年度ヨリ四俵ニ改正スベク小作人ニ通告セシニ因ル

(二) 小作人ノ要求竝地主ノ主張

イ 小作人ノ要求

現小作地ハ前地主小林某當時ヨリ十數年來小作ヲ繼續セルモノニシテ小林家ハ舊家ニシテ小作料ノ如キハ既住何十年來改正シタルコトナク他ノ一般小作料ニ比スレバ廉ニ失スルノ嫌ナキニ非ザルモ主從關係ニアリテ恩惠ニ浴シ居ルモノナルガ小林家ノ破産ニ伴ヒ現地主ノ所有ニ歸スルヤ直チニ反當二斗内外ノ小作料ヲ増徴スルガ如キハ前地主ニ比シ小作人ヲ遇スルニ宵壤ノ感アリ加之世ハ不



景氣ニシテ一般農家ノ生活ハ困難ニ喘ギ居ル際ナレバ此儘値上ニ易々トシテ屈從スルヲ得ズ地主ニ對シ飽ク迄從前通りノ小作料ニテ小作セシムル様要求ス

ロ 地主ノ主張

小作料ノ値上ハ他ト比シ低廉ニ過グルヲ以テ相當額ノ値上ヲ要求スルハ當然ニシテ小作側ハ會同シ交渉委員ヲ舉ゲ値下ヲ要求シ或ハ徒ニ時日ヲ遷延スルガ如キハ不都合ニシテ若シ増額ニ不承知ナラバ麥刈取跡作ヨリ小作ヲ中止シ麥刈取跡ニ耕作シタル者ハ値上ニ異議ナキモノト見倣シ之ヲ處理スベシト主張ス

(三) 手段竝經過

小作側ハ下田某外六名ノ代表者ヲ舉ゲ地主ニ折衝セシムルコトトシタルニ他部落小作人モ進デ此申合セニ賛同シ同一行動ヲ採ルコトトシ前記六名ハ地主ヲ訪問シ嘆願セリ然ルニ墾田(地主)ハ從前通りノ小作米ニテ承認シ難キモ小作料ハ年末ニ受取ルモノナレバ急グノ要ナキニ非ズヤト穩ニ引取ラシメタルニヨリ小作人代表ハ不安乍モ幾分値下スルモノナラムト善意ニ推察シ一時運動ヲ中止スルニ至リタルガ六月中旬頃突然地主側ヨリ小作料ハ絶體値下セザル旨内容證明ニテ郵送シタルヲ以テ小作人側ハ大イニ驚キ其ノ横暴ヲ憤リ善後策ヲ打合セタルガ小作人中強硬派ハ飽迄値上ニ絶對反對シ一般世人ノ同情ニ懇ヘムト息卷キ比較的穩健派ハ今一應地主ヲ訪レ地主ノ同情ニ繼リ目的ヲ貫クヲ良策ナリト

シ意見一致セズ強硬派ヲ除キ大多數ノ小作人ハ殆ド糊口ニモ窮スル状態ナルヲ以テ植付時期ヲ控ヘタル今日速ニ解決ヲ圖ラムト内心焦慮シ居ルモ一方地主ハ小作人等ガ團結シテ氣勢ヲ示シ壓迫的ニ對抗スルニ於テハ土地ヲ引上ゲ假令荒廢ニ歸スル共一步モ讓ラズト主張シ事件益々紛糾セルニヨリ穩健派ハ插苗期切迫ノ爲焦リ氣味トナリ調停方ヲ村有志竝池田某外一名ニ依頼シタルニヨリ池田等ハ係争土地一筆毎ニ付土質竝ニ實收高ヲ調査シタル上村内一般地主ノ小作料ニ對比シ相當ト認ムル小作料ヲ定メ調停案ト爲サムト地主ノ諒解ヲ求メタルモ強硬派ハ地主ノ要求不當ナリトテ強硬ノ態度ヲ固執シタル爲地主モ已ムナク小作地引上ヲ通告シ人夫ヲ雇入レ植付ノ準備ヲナセリ茲ニ於テ事件益惡化セル爲同村役場吏員原口某ハ前記池田等ト共ニ兩者ノ間ヲ奔走シ徹宵調停ニ努メタル結果圓滿ナル解決ヲ遂ゲタリ

(四) 結 末

解 決 條 件

全耕地ヲ土地ノ優劣ニ依リ一反歩ニ付四升乃至一斗二升ヲ平均八升ノ値上ノ調停案ヲ提示シタル處地主、小作人全部之ヲ承認シ地主ヨリ値上額高率ナル小作人二十三名ニ對シテハ本年限リ各一斗ヲ減額スルコト

四九 熊本縣八代郡築村

(小作契約更新  
小作料永久的減額)

發 生 昭和四年九月二十六日



未解決

二二六

關係人員 地主 一人(村事務組合) 小作人 四百四十二人

關係土地 田 七百九十三町六反七畝二步 畑 二十五町五反七畝九步

宅地 十四町四反十一步 (四萬三千二百一十一坪)

(一) 爭議ノ原因

(一) 前回爭議(大正十三年乃至同十四年)ノ解決主要條項ニ於テ (一)大正十四年ヨリ向フ五ヶ年間小作料ノ三割減 (二)大正十二年度未納小作料ノ十ヶ年間分納及ビ (三)地主が大正十四年ヨリ五ヶ年ニ亘ル肥料資金壹萬參千圓ノ交附等アリ  
然ルニ昭和三年度ニ於テハ右期間滿了スルヲ以テ昭和四年ニ於テハ小作料三割減ハ復舊シ肥料資金ノ交付ハ消滅スベク而モ分納ノ米ノ負擔ハ依然向フ五ヶ年存續スルノ結果トナリ小作人トシテハ負擔ノ増加ヲ來ス觀ヲ呈セルヲ以テ小作料永久減額要求セシニ因ル

(二) 小作人ノ要求竝地主ノ主張

郡築村民(小作人)ハ移住當初ヨリ多分ノ辛酸ヲ嘗メ誅求ニ遇ヒタル爲メ遂ニ前年ノ爭議ヲモ發生シ天下ノ耳目ヲ聳動セシメタルガ如キ次第ナルヲ以テ現在ニ於テモ相當苦境ニ在リトノ理由ヲ以テ小作料ノ永久三割減ヲ要求セリ地主ハ前爭議ノ時代ニ於テハ或ハ然ラムモ其ノ後五ヶ年間ニ於テ村民ノ

經濟狀態モ大イニ面目ヲ改メ水稻晩化栽培ノ結果反當收量モ増シ年々ノ坪刈成績ニ見ルモ收量ハ著シク増加シ居レリ特ニ昭和四年ノ如キハ稀レナル豐作ナルコト村民自身トシテモ之ヲ是認シ居ル所ニシテ收量ニ對スル復舊小作料ノ割合ハ四隣町村ノ其レニ比スルモ決シテ過當ナラズ小作料額ノ復舊ノ如キハ公正證書ノ契約條項ヨリスルモ寧ロ當然ノコトニシテ村民ハ豫メ覺悟シ契約通り納入ヲ爲スベキ義務アリ一方地主トシテハ當然爲サザル可カラザル幾多ノ施設ヲ存シ多大ノ經費ヲモ要スル次第ナルニ依リ減額要求ニ應ズル能ハズ然レドモ村民福祉増進ノ爲ニハ勿論特ニ相當考慮スルト云フニアリ

(三) 手段竝經過

小作人ハ永久三割減ノ要求貫徹手段トシテ舉村一致ヲ劃シ九月十一日申合ヲ爲シ實行委員ヲ選出シ村長ヲ委員長トシテ九月二十六日地主ニ對シ正式ニ減額要求ヲ爲シタリ

地主(町村制ニ依テ町村ノ一部事務組合)ハ十一月二十八日其ノ諮問機關タル常設委員會議ニ諮リ更ニ組合會ヲ開キ以テ協議ノ結果小作人ノ請願ハ之ヲ拒絕スルニ決シ十二月十四日小作人委員長以下實行委員ニ對シ今日相當ノ經費ヲ要スル幾多ノ施設アルヲ以テ要求ニ應ジ難キ旨ヲ以テ回答セリ斯クテ其ノ儘越年スルニ到レリ

(四) 結 末

未解決ナリ

二二七



五〇 大分縣宇佐郡柳ヶ浦村大字高砂新田

(小作契約繼續  
土地一部返還)

發 生 昭和四年二月十四日

終 熄 昭和四年五月十九日

關係人員 地主 二人 小作人 三人

關係土地 田 一町六反四畝步

(一) 爭議ノ原因

關係小作人等ハ十數年前ヨリ關係土地ノ小作ヲ爲シ契約條項ハ完全ニ履行シ何等不都合行爲ナキニ拘ラズ昭和四年二月初旬地主ノ土地管理人某ハ小作契約締結後長年ヲ經過シ既ニ契約期間モ經過セルヲ以テ新ニ小作證書ノ入替ヲナスコトヲ告ゲテ小作證書ノ返還ヲ要求セシカバ小作人等ハ之ヲ信ジ小作證書ヲ土地管理人某ニ返還セシニ爾後言ヲ左右ニシテ新證書ノ交付ヲナサザルノミナラズ同年三月中旬ニ至リ地主ハ土地管理人ヲ通ジテ小作人ニ對シ小作地ノ即時返還ヲ要求セルニ起因ス

(二) 小作人ノ要求並地主ノ主張

小作人等ハ從來長年ニ亘リテ小作セルモ小作料ヲ滯納セルコトナク又小作地ノ使用管理ノ如キモ周到ニ爲シツツアルヲ以テ地主ノ小作地返還要求ニ應ズル理由ナシトテ小作契約ノ繼續ヲ要求シタルモ地主ハ飽ク迄小作地ノ即時返還ヲ主張シテ讓ラザリキ

(三) 手段並經過

關係小作人等ハ地主ノ小作地返還要求ニ應ズルコトナク依然小作ヲ繼續シ關係土地ヲ鋤キ起シ畦畔ノ塗リ替ヲ行ヒ苗代ノ用意ヲ爲シタルニ地主ニ於テハ小作地ノ返還ヲ爲サシムル手段トシテ爭議地高砂新田ニ住スル他ノ小作人三名ニ關係土地ヲ小作サスコトニ契約ヲ爲シタルヲ以テ新小作人三名ハ現小作人ノ作付ノ用意ヲナセル土地ニ立入りテ藁ヲ撒布シ苗代床ヲ拵ヘ下種ノ用意ヲナス等一ツノ土地ニ二人ノ小作人出來互ニ耕作ヲ爭フニ至リタルヲ以テ舊小作人等ハ縣廳ニ出頭シテ小作官ニ調停方ヲ申出デタリ茲ニ於テ小作官ハ現地ニ出張事實ノ調査ヲ爲シタルニ兩者ノ主張強固ニシテ容易ニ調停出來難キヲ察知シタルヲ以テ舊小作人等ニ小作調停ノ申立ヲナスベク慫慂シタルニ小作人側ニ於テハ遂ニ五月十五日大分地方裁判所中津支部ニ調停ノ申立ヲ爲シ五月十八日及十九日ノ兩日調停委員會ヲ開催シテ調停ヲ試ミタルニ左記調停條項ノ如ク調停ヲ成立セリ

(四) 結 末

五月二十七日裁判所ニテ認可決定アリタリ

調 停 條 項

- 一 申立人某ハ是迄同人ガ小作シ居リシ地主某所有ノ宇佐郡柳ヶ浦村大字高砂新田字富田ノ四反二畝步ノ内西ニ在ル一枚即二百六十八番田二反三畝二十八步ヲ返還シ同地所ヲ新小作人某ニ於テ小作シ



殘部東ニ在ル一枚ヲ申立人ニ於テ從前通小作スルコト

二 申立人某ハ是迄同人ガ小作シ居リシ地主某所有ノ同村田八反歩ノ内字富田二百七十七番田二反二畝十五歩ヲ返還シ同地所ヲ新小作人某ニ於テ小作シ殘全部ヲ申立人ニ於テ從前通小作スルコト

地主某所有ノ同村大字高砂新田字集リ百九十九番田一反四畝歩外五筆合計三反九畝九歩ハ其ノ半分ヲ返還シ同地所ヲ新小作人某ニ於テ小作シ殘リ半分ハ申立人ニ於テ從前通小作スルコト

三 申立人某ハ是迄同人ガ小作シ居リシ地主所有ノ同村大字住江字大坪田一反三畝歩ヲ地主某ニ返還スルコト

四 新契約者ガ既ニ設備シタル苗代田粃種子代トシテ耕作地一反歩ニ付粃種四升ノ割合ニ依リ壹升拾八錢宛ノ代價ヲ關係舊小作人ヨリ新小作契約者ニ支拂フコト

五 申立人某ハ利害關係人某ガ本調停ノ結果從前通申立人某ニ於テ小作スルコトトナリタル田地ニ撒布シタル藁代物トシテ申立人ヨリ利害關係人某ニ對シ藁四十把ヲ支拂フコト

五一 宮崎縣東臼杵郡北方村大字曾木 (小作料一時的減額)

發 生 昭和四年一月十日

終 熄 昭和四年四月一日

關係人員 地主 十人 小作人 七十人

關係土地 田 三十二町八反歩

(一) 爭議ノ原因

昭和三年度ニ於ケル本村稻作ハ暴風及稻熱病ノ爲被害ヲ受ケタルヲ以テ曾木部落ヲ一圓トスル曾木小作組合ハ被害ノ程度ヲ調査シ地主ニ對シテ小作料ノ減額請求ヲ爲シタルニ對シ地主ハ其減額要求ニ應ゼズ爭議ノ發生ヲ見タリ

(二) 小作人ノ要求竝地主ノ主張

小作側ニ於テハ小作組合ニ於テ作柄調査ヲ爲シタル結果三割以上八割以下ノ被害地約十町歩ヲ特別被害地ト爲シ各筆毎ニ被害程度ヲ決定シ其餘ノ關係耕地ハ一般被害地トシ約二割ノ減收ト認メ右減收率ニ應ジテ小作料ノ減額ヲ要求シタリ

地主側ニ於テハ小作側ノ調査シタル被害ノ程度ハ過大ノ見積ナルヲ以テ其要求ニ應ゼズ殊ニ小作側ニ於テ一般被害地ト稱シ二割ノ減收ト爲シタルニ對シテハ多少ノ減收ヲ認ムルモ小作料ノ減額ヲ爲スコトヲ得ズ特別被害地ニ對シテハ大體ニ於テ小作側ノ要求ト大差ナキヲ以テ之ニ對スル減額ニ對シテハ敢テ反對ヲ主張セザルノ態度ヲ示シタリ

(三) 手段竝經過

小作側ニ於テハ要求貫徹ノ爲メ屢々小作組合ノ總會ヲ開催シ演說會ヲ開催シ尙全國農民組合ノ淺沼



某氏等ノ辯士ヲ招キ農村問題批判演說會ヲ開催スル等大イニ氣勢ヲ揚グルト共ニ小作組合幹部ハ地主側ト直接交渉ヲ爲シテ目的ノ貫徹ニ努メタルモ地主側ハ小作側ノ主張ヲ拒絶シ小作組合幹部トノ交渉ヲ打ち切り小作人各別ニ交渉ヲ始メ問題ノ解決ニ着手シタルモ小作人ハ既ニ爭議對策ニツキ相當ノ訓練ヲ受ケ居ルヲ以テ個人的交渉ニ應ゼズ時日遷延シ小作米ノ納入期ヲ經過スルヤ小作側ハ小作米ノ共同保管ヲ始メ飽クマデ相對抗スルノ態度ヲ示セリ此ノ間村有志及特高刑事等ハ屢々會合シ問題解決ニ付兩方ノ間ニ立チ斡旋シタルモ小作側ノ主張ハ一步モ讓歩的ノ態度ニ出デズ小作官ハ事情調査ニ出張シテ村有志及當事者双方ニ就キ種々事情ヲ調査スルト共ニ協調ニ付懇談ヲ爲シタリ

地主ハ村外ノ地主ニシテ團結シテ強硬ナル主張ニ出デントスルノ態度ナク從テ各自ノ步調モ亦一致セザルノ状態ニシテ大體ニ於テ訴訟行爲ニ出デ費用ノ支出ヲ爲スヨリモ相當讓歩シ問題ヲ解決シ早く小作米ノ取立ヲ了スルヲ有利ナリトスルモノ多ク小作側ニ於テモ幾分讓歩スベキ態度アリシヲ以テ調停ノ期熟シタルヲ認メ村有志特高刑事等ニ對シ調停ニ努力スベキ旨ヲ依頼シテ歸リタリ其後村有志特高刑事等ノ斡旋ニ依リ地主側ハ特別被害地ニ對シテハ小作側ノ要求通り小作料ノ減額ヲ認メ一般被害地ニ對シテハ一割ノ減額ヲ主張スルニ對シ小作側ニ於テハ二割減額ヲ一步モ讓歩セズ問題解決ヲ見ルニ至ラズ

## (四) 結

末

警察ノ情報ニ依リ小作官ハ出張シ調停ニ着手シ村有志及特高刑事等ノ活動シ共ニ小作側ノ代表者ヲ説クコト數日其間小作側ハ七十餘名酒屋ニ集リ飲酒演說ヲ爲ス者等アリテ大ニ氣勢ヲ揚ゲ代表者ヲ激勵スルヲ以テ小作側ノ態度頗ル強硬ナリシモ小作側ハ幾分讓歩シタルヲ以テ地主側ニ對シテモ小作官ノ調査シタル被害程度ヲ示シ且ツ爭議繼續ノ利害ヲ説キ妥協ヲ勸メタル所大ニ讓歩シ左ノ條件ヲ以テ問題ノ解決ヲ見タリ

一 地主側ハ特別被害地ニ對シテハ小作人ノ要求通り小作料減額シ一般被害地ニ對シテハ一割七分五厘ヲ減額シタリ

二 小作側ハ一週間以内ニ小作組合員ノ小作米ヲ全部取揃ヘ地主ニ支拂フコト



## 第二 小作調停事例

### 一 北海道札幌郡篠路村 (小作條件改正)

爭議發生 昭和三年一月二十日

調停申立 第一回昭和三年四月二十四日 第二回昭和三年五月二十一日

解決 昭和四年十月十九日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 三十一人  
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 百四十町五反三畝二十二步 宅地 五反二十六步  
調停 右ニ同ジ

### (一) 爭議ノ概況

本爭議ノ土地ハ明治二十年頃篠路村ニ於テ北海道廳ヨリ無償附與ヲ受ケ該地ヨリノ收入金ヲ以テ小學校ノ維持費ニ充ツル目的ナリシ關係上之ヲ學田地ト稱シ來レリ而シテ地主タル篠路村ハ明治二十二年頃ヨリ同二十九年頃迄ニ小作人二十餘名ヲ入地セシメ同三十三年頃迄ニ全部ノ土地開墾ヲ終レリ小



作人ハ地主村トノ間ニ於テ入地當時永久小作ノ契約ヲ締結シ爾來低廉ナル小作料ヲ以テ耕作ヲ繼續シ來レルガ明治三十九年十一月村會ハ從來ノ永久小作制ヲ改メ土地建物賃貸規則ヲ制定シ更ニ翌四十年五月學田地ノ賃貸期間ヲ明治四十一年ヨリ向フ二十ヶ年トシ賃貸料ハ契約五ヶ年後ニ於テ當時ノ賃貸料ノ十分ノ五以内ヲ増加シ得ルコト等ヲ決議シ之ニヨリ本件小作地ノ小作料ハ大正二年ヨリ昭和二年迄(即チ爭議直前迄)ノ十五年間ハ反當壹圓貳拾錢トナレリ

カクテ昭和三年三月三十一日ヲ以テ從來ノ小作契約期限滿了セントスルヤ同三年一月篠路村ハ村會ノ決議ニ依リ學田地小作契約ノ條件ヲ改メテ別ニ定ムル規則ニ則リ(イ)賃貸期間ヲ五ヶ年トシ(ロ)賃貸料ヲ反當金壹圓トシ(ハ)小作權ノ讓渡及轉貸ヲ認メザルコトトシタルタメ小作人側ハ村長、石狩支廳長及小作官等ニ對シ從來ノ小作事情ヲ述べ特ニ(イ)學田地ハ適當ナル時機ニ適當ナル條件ヲ以テ小作人ニ賣拂ハレ度キコト(ロ)小作料値上ガ止ムヲ得ザルナラバ今後十ヶ年間ハ反當金壹圓五拾錢トシ(ハ)其ノ後十ヶ年間ハ反當金壹圓九拾錢トシ(ニ)小作權讓渡及小作地ノ轉貸ヲ從前ノ通り之ヲ認メラレ度キコト等ノ實現ヲ見ル様陳情スル所アリタリ

之ニ對シ地主村側ノ主張ハ(イ)爭議地ノ解放ハ之ヲ爲サザルコト(ロ)小作契約ハ總テ村所定ノ賃貸規則及村會ノ決議ニ依リ締結スベキコトノ二點ニ在リテ一點モ讓ル所ナク互ニ相對峙シ來タレルガ一部村民ハ本爭議ヲ以テ村重大問題ナリトシ所謂村民大會等ヲ開催シ反小作人的氣勢ヲ擧ゲタリ又

六月一日同村々會議員ノ改選行ハレ從來ノ議員八名ハ四名増員シテ十二名トナレルガ選舉ノ結果ハ小作人側ニ有利ナラザル村會議員多數トナリ小作人ガ調停ノ申立ヲナシタル後村會ハ遂ニ訴訟費千五百圓ヲ村費ニ計上シ何處マデモ小作人ト相争ハントスル氣勢ヲ示シ之ニ對シ小作人等ハ十二月十四日昭和三年度小作料トシテ小作料ノ減額ヲ見込ミタル金額ヲ札幌供託局ニ供託セリ

## (二) 調停ノ經過

### (イ) 法外調停

石狩支廳長ハ札幌郡農會副會長ト共ニ調停ニ立チ村及小作人側共ニ調停者ニ一任スルニ至リシモ其ノ調停條件ハ表面單ニ村會ノ決議ノ實行ヲ求ムルノミニシテ土地解放ノ重大條件ヲ缺キ居リタル爲ニ小作人側ハ是ヲ以テ公明ナル調停ト認ムルコト能ハズトナシ昭和三年四月二十四日札幌地方裁判所ニ對シ小作調停法ニ依ル調停申立ヲナシタリ

然ルニ小作人側ハ其後前記石狩支廳長外一名ノ調停案ハ小作人側要望ノ大部分ヲ取り入レタル有利ナルモノナルコトヲ知り再ビ其ノ調停ニ依ランコトヲ希望シ且ツ本件ヲ解決スル上ニ村會ノ決議ト村會議員ノ感情ノ融和トヲ必要トスルニヨリ支廳長ヲ調停者トスルヲ適當ト認メ曩ニ申立テタル依法調停ハ五月五日之ヲ取下ゲ再ビ支廳長ニ對シ法外調停ヲ求メタリ依ツテ石狩支廳長ハ法外調停者トシテ地主村側及小作人側双方ノ間ニ再度調停ヲ開始シタル結果村側ハ數回ノ村會ヲ開催シテ相當讓歩スル



トコロアリタルモ小作人側ハ前回同様村有地解放自作農創設ニ關スル明示ナキヲ以テ重ネテ法外調停ニ承服スルコト能ハズトナシ五月二十一日再度依法調停ヲ札幌地方裁判所ニ申立テタリ

(ロ) 依法調停

本爭議ノ調停申立ヲ受理シタル札幌地方裁判所ハ昭和三年八月二十五日以來十回ニ涉リ双方ノ代表者ヲ或ハ當事者一方ノミヲ或ハ當事者全部ヲ何レモ裁判所ニ召致シ(現場ハ裁判所ヨリ約二里ノ距離ニ在リ)調停ヲ試ミタル結果十月十九日次項ノ如キ結末ニヨリ調停成立ヲ見タリ

(三) 結 末

調停條項

- 一 賃貸契約期間及賃料ノ改定期間ヲ各五ヶ年トス申立人(賃借人)三十一名中林某、永井某、大沼某、大越某ノ四名ヲ除ク他ノ二十七名ハ昭和三年度ニ於テ從來ノ賃貸借契約ヲ更改スベキ者ニシテ右四名ハ昭和四年度ニ於テ賃貸借契約ヲ更改スベキモノナル處右ハ總テ昭和四年度ヨリ賃貸借契約期間及賃料改定期間ヲ更新スルモノトス
- 二 賃料ハ第一期(昭和四年度以降同八年度迄)年反當ヲ貳圓五拾錢トス  
第二期(昭和九年度以降同十三年度迄)ニ於ケル賃料ヲ改定スル場合ハ隣地(類地)賃料ノ六割以内トス

第三期以降(昭和十四年以降)ニ於テ賃料ヲ改定スル場合ハ其ノ都度隣地(類地)ノ賃料ノ七割以内トス

- 三 申立人(賃借人)三十一名中林某、永井某、大沼某、大越某ノ四名ヲ除ク二十七名ニ對スル昭和三年度ノ賃料ハ年反當リ貳圓貳拾五錢トナシ昭和四年度同五年度同六年度ノ三回ニ分チ其ノ年度ノ賃料ト共ニ支拂フコト右二十七名ノ賃借人ガ昭和三年度ノ賃料トシテ札幌供託局ニ供託シタル供託金ハ總テ右昭和四年度ニ支拂フベキ賃料ノ一部トシテ相手方村ニ於テ札幌供託局ヨリ還付ヲ受クルコト

四 相手方村ガ耕地トシテ所有スル限リハ期間更新毎ニ賃貸借契約ヲ繼續スルコト

五 申立人(賃借人)ガ賃借權ヲ讓渡スル場合ハ其ノ讓受人ニ付相手方村ニ於テ相當ト認ムル者ナル時ハ之ガ讓渡ヲ認ムルコト

六 申立人(賃借人)ハ賃借權ノ轉貸ヲナサルコト

七 現ニ賃借權ヲ轉貸シ居ルモノハ昭和五年度内ニ之ガ解約整理ヲナスコト  
尙本條項ニ記載セザル協約事項トシテ左ノ三項アリ

- 一 小作人ハ村所定ノ賃貸規則ヲ尊重シ相互ノ爲メニ利益ヲ計ルコト
- 二 將來土地解放ノ場合ハ小作人ニ土地先買權ヲ認ムルコト



三 天災其ノ他不可抗力ニヨル不作ノ場合ハ小作料ノ相當輕減ヲナスコト

二 青森縣北津輕郡中里村大字中里 (小作料一時的並永久の減額  
禮米廢止及土地一部返還)

爭議發生 昭和三年四月十九日

調停申立 昭和四年七月十二日

解 決 昭和四年十月十日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 四人  
調停 地主 一人 小作人 二人(小作人申立)

關係土地 爭議 田 一町八反二畝步  
調停 田 八反三畝二十二步

(一) 爭議ノ概況

本件關係小作人ハ相手方地主ニ依リ創始セラレタル禮米制度廢止ノ要求ヲ主眼トシ併セテ大正八年以來小作料ノ値上ダセラレタルモノニ對シテハ舊小作料トスルト共ニ値上分ハ精算シ昭和三年度ノ小作料ニ充當サレ度キ旨ヲ地主ニ要求シ之レニ對シ地主ハ契約ニ基キ定メタルモノナリトノ理由ヲ以テ要求ヲ拒絶シ爭議トナレリ

而シテ小作人ハ目的貫徹ノ爲小作料ヲ納付セザルニヨリ地主ハ訴訟ニ依リ解決セントシ區裁判所ニ

小作料ノ請求訴訟ヲ提起シ更ニ假差押處分ノ執行ヲ爲シ訴訟ハ地主ノ勝訴トナルヤ間モナク本差押執行トナリ物件ハ競賣ニ附セラレタリ、其ノ間ニ於テ小作人側ハ假差押處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ地主ニ應訴スルト共ニ農民組合ノ應援ヲ受ケ地主ノ糾彈演說會ノ開催、該爭議地ノ共同耕作等ノ擧ニ出ダタリ越ヘテ昭和四年七月二日地主ハ青森地方裁判所ニ立入禁止假處分ノ申請ヲナシ土地返還請求妨害排除ノ訴訟ヲ提起シ七月十二日ニ第一回公判開廷セラレタル處小作人側ニ於テハ訴訟ニ依ルヲ不利トシ當日調停ノ申立ヲ爲シタリ

(二) 調停ノ經過

小作調停委員會開催マデニ双方ヲ緩和セシムルノ必要アリトシ縣係官ハ同村ニ出張シ村長、助役、調停委員二名、駐在巡查ト協力シ双方ニ妥協ヲ勸メタルモ不調ニ終レリ次デ正式調停委員會ヲ青森地方裁判所ニ開催セリ席上ニ於ケル双方ノ主張左ノ如シ  
地主ノ主張

(一) 小作人岩田某ニ對シテハ

同村地主飯沼某ガ小作人岩田某、敦賀甲某、敦賀乙某、荒關某ノ四名ヨリ大正七年禮米トシテ一ケ年分ノ小作料ニ充ル玄米ヲ受ケ取り其ノマ、該土地ノ地主珍田某ニ賣却セリ、而シテ地主ハ昭和二年ニ至リ十年ヲ經過セルニ依リ再ビ禮米ヲ受ケ取り小作契約ヲ更新セリ小作人岩田某モ玄米



九俵ヲ提供セリ

然ルニ同年秋ニ至リ小作人岩田某ハ「昭和二年度ノ小作料ハ本春提供セル禮米ヲ廢止シ其ノ米ヲ以テ之ニ充當セラレ度シ」ト申込ミ來レリ、然シ他ノ小作人ハ解決シ居ルヲ以テ本件小作人ニノミ之レヲ廢止スル事ハ他ニ及ボス影響ヲ恐ル、ヲ以テ應諾スルコト能ハズ

(一) 小作人工藤某ニ對シテハ

小作人が主張スル如ク將來小作料ノ値上ヲセズト約束シテ小作契約セシ覺エナシ從ツテ大正十三年春ニ於テ元來該土地ノ小作料ハ他ニ比シ安キト一面地主ノ公租公課ノ増シ來レルヲ理由トシテ小作料ノ値上ヲ小作人ニ通告シ元八俵三斗五升ナリシヲ十俵ニ改正セリ以來大正十五年迄圓滿ニ解決シ來リシ處小作人ハ昭和二年農民組合ニ加盟シ「本年度小作料ハ農民組合ノ交渉ニ依リ解決スベケレバ夫レ迄ハ納入セズ」ト申込ミ來リタレバ止ムヲ得ズ小作料請求ノ訴訟ヲ提起シタルモノナリ

小作人ノ主張

(一) 岩田某ノ主張

小作人ハ永年該土地ヲ小作シ來リシ處突然昭和二年一月小作證書ノ書替ヲ迫ラレ同時ニ禮米九俵ノ要求ヲ受ケタリ、然ルニ小作人ハ家政不如意ノ爲メ其ノ要求ニ應ジ難ク拒絕セシニ地主ハ飽ク

迄強硬ノ態度ニ出デ其ノ要求ニ應ゼザレバ土地返還ヲ求メ他ノ小作人ニ貸付スベシト言フヲ以テ止ム事ヲ得ズ之レニ應ジタリ然ルニ同年秋ニ至リ家計益々困難ヲ加ヘタルヲ以テ「本年一月納メタル禮米ハ之ヲ廢止シテ其ノ米ヲ本年ノ小作料ニセラレ度シ」ト申込ミタルモ地主ハ之レヲ拒絕シ次デ小作料請求ノ訴訟ヲ提起セリ仍テ止ムヲ得ズ農民組合幹部ノ援助ヲ求メ今日迄爭議ヲ續ケ來リタルモノナリ

(二) 工藤某ノ主張

大正四年一月自己所有ノ該土地ヲ「將來小作料ノ値上ヲ爲サズ又他ニ貸付セザル事」ヲ條件トシ四反七三畝歩ヲ金四百八拾圓ニテ賣却セリ其ノ價格ハ時價ヨリ約二割安價ノモノナリキ然ルニ地主ハ大正八年ニ至リ前記ノ約束ヲ無視シ小作料八俵二斗ヲ十俵ニ値上セリ爲メニ小作人ノ經濟ハ日々ニ苦シクナリ來レルヲ以テ昭和二年四月ニ「前記大正八年迄通りノ小作料ニ變更シ更ニ大正八年以降ノ値上分小作料ヲ精算シ以テ昭和元年度ノ小作料ニ充當サレ度シ」ト申込ミシニ地主ハ之レヲ拒絕スルト共ニ小作料請求ノ訴訟ヲ提起サレ止ムヲ得ズ對抗シ今日ニ至レリ

調停委員會ハ前後三回開催シ又其ノ間ニ非公式ノ委員會ヲ居村ニ於テ數回開催セリ然ルニ双方ノ意見ニ甚ダシキ相違アリテ幾度カ調停ハ決裂ニ頻シタレドモ幸ヒ双方ノ互讓ニ依リテ十月十日第三回ノ調停委員會ニ於テ調停成立セリ



(三) 結 末

調停條項

- 一 相手方ハ左記土地ニ對スル申立人工藤某ノ昭和二年度ノ未納米ヲ四斗入玄米五俵ニ同三年度ノ未納米ヲ同七俵一斗四升ニ各々減額スルモノトス
- 二 申立人工藤某ハ右未納米四斗入玄米五俵ヲ昭和四年十二月二十五日限り同七俵一斗四升ヲ昭和五年十二月二十五日ヨリ同七年十二月二十五日迄毎年十二月二十五日限り四斗入玄米二俵一斗八升宛相手方宅ニ於テ支拂フモノトス
- 三 申立人工藤某ハ從來小作シ來レル北津輕郡中里村大字中里字龜山五百八十九番田四畝二十一步ノ内ナル苗代一畝五歩ヲ相手方ニ直チニ返還スベキモノトス
- 四 相手方ハ申立人岩田某ノ左記ニ對スル昭和二年度ノ未納米ヲ四斗入玄米三俵ニ減額スルモノトス
- 五 申立人岩田某ハ右未納米四斗入玄米三俵ヲ昭和四年十二月二十五日限り昭和三年度ノ未納米四斗入玄米九俵ハ一俵ニ付三升ノ利米ヲ附シ昭和五年十二月二十五日ヨリ同七年十二月二十五日迄毎年十二月二十五日限り四斗入玄米三俵宛相手方宅ニ於テ支拂フモノトス
- 六 申立人兩名ガ從來小作シ來レル土地(土地表示省略)ハ左ノ條項ニ依リ相手方ヨリ申立人ニ各賃貸シ申立人ハ各々之ヲ賃借スルモノトス

(イ) 賃料ハ各一年玄米四斗入九俵トシ青森縣穀物検査濟玄米ヲ以テ毎年十二月二十五日限り相手方宅ニ於テ支拂フモノトス

(ロ) 賃貸借契約期間ハ昭和八年十二月三十一日限りトス

(ハ) 契約期間中天災其他不可抗力ニヨリ收穫減少スベシト認めタル時ハ申立人ハ立毛刈取十日前ニ相手方ニ對シ檢見ノ申立ヲ爲スコトヲ得

檢見ノ申出アリタル時ハ双方當事者ノミニテ立會ヒ檢見シ減免ノ率ヲ協定ス萬一收穫高ニ付意見一致セザルカ減免率ノ協定調ハザル時ハ中里村農會ノ決定スル處ニ依ル  
凶作ノ爲免租セラレタル時ハ小作料ハ全免スルモノトス

(ニ) 申立人ガ檢見ノ申出ヲ爲サズシテ刈取ヲ了シタル時ハ理由ノ如何ニ拘ラズ減免ヲ爲サズ相手方カ檢見ノ申出アリタルニ拘ラズ之ニ應ゼザリシ時ハ收穫等ニ付テハ申立人ノ査定ニ異議ヲ述べ得サルモノトス

(ホ) 申立人ハ賃借地ヲ轉貸シ賃借權ヲ讓渡シ又ハ委託耕作ヲ爲サシムルコトヲ得ズ

(ヘ) 申立人ガ賃貸借契約期間終了後モ引續キ耕作希望アル時ハ期間終了半ヶ年前ニ其ノ申込ミヲ爲スヲ要ス

此ノ場合ニ於テ申立人ガ契約上ノ義務ヲ完全ニ履行シ來リタル時ハ相手方ハ之ニ應ズル義務アル



三 宮城縣登米郡南方村南方本柳 (期限付小作契約繼續)

爭議發生 昭和四年四月三日

調停申立 同年十二月十二日

解決 昭和五年一月十五日

關係人員 爭議 地主 二人 小作人 一人

調停 地主 二人 小作人 一人(地主申立)

關係土地 爭議 田 四反七畝二步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

昭和三年十二月地主森某ハ關係土地ヲ自作ノ目的ニテ買受ケタルモ小作地引上ニ伴ヒ爭議化スルヲ恐レ更ニ關係土地ヲ地主淺野某ニ賣却セリ、地主淺野某ニ於テハ小作人ノ懇請ヲモ顧ミズ土地引上ノ舉ニ出デントシタル處小作人ハ二十數年來耕作繼續シ來レルヲ以テ耕作權アリト主張シ終ニ昭和四年四月三日宮城大衆黨菊地辯護士ヲ代理人トシテ耕作權確認ノ訴訟ヲ提出セリ

然ルニ地主淺野某ハ自作ノ目的ニテ買受ケタルモノナリト主張シ終ニ六月一日代搔キヲ開始シタル

處小作人ハ人夫十五、六人ヲ使役シテ插秧ヲ爲サムトシ暴力化セントシタル爲所轄警察署長ハ兩名ヲ檢束シ調停ヲ試ミタルモ小作人ハ飽ク迄耕作權ヲ主張シ訴訟ノ結果ニ俟ツ可シトナス爲解決ヲ見ズ其ノ後訴訟繫屬中ナリシモ昭和四年十月小作官ハ現地ニ出張シ實情ヲ調査スルト共ニ調停申立ヲ勸誘シタル處兩者共ニ申立ヲ希望スルヲ以テ協議ノ上地主側ヨリ申立ルコト、ナリタリ

(二) 調停ノ經過

小作人ハ依然耕作權アリト主張シ尙又地主ハ田植ヲ妨害シ小作人ノ栽植セルポプラ樹等ヲモ伐採シタルヲ以テ其ノ損害金貳百六拾有餘圓ノ辨償ヲ受クルニ非ラザレバ應ジ難シトナシテ讓ラザリシモ結局一回ニテ別記條項通り調停成立セリ

(三) 結 末

調停條項

- 一 申立人淺野某夫某ハ相手方ニ對シ登米郡南方村字原浦園田地四反五畝步ヲ昭和五、六年ノ二ヶ年間小作料ハ一ヶ年一反步ニ付一部ハ玄米八斗一部ハ玄米九斗ヲ以テ小作セシムルコト
- 一 申立人某ハ係争土地ノ中畑一筆ヲ相手方ニ對シ申立人ニ於テ昭和五年七月即チ小麥收穫ヲ爲シタル後昭和七年七月マデ小作料小麥一斗大豆一斗ニテ小作セシムルコト
- 一 淺野某(夫)ニ於テ右田地ヲ右期間小作セシメ得ザル事情生ズルトキハ本件係争土地ノ中田地四反



五畝歩ヲ右田地ニ換ヘ耕作セシムルコト

一 相手方某ハ右小作契約ニ付訴外佐々木某ヲ保證人ニ立テ小作田地ハ昭和六年十二月二十日畑ハ昭和七年七月末日ヲ以テ右兩人ニ返還スルコト

一 淺野某ハ相手方某ニ對シ金七拾五圓ヲ内五拾圓ハ本月末日マデニ佐々木某ノ保證書ト引換ニ交付シ貳拾五圓ハ本年十二月末日マテ相手方某ヨリ右田地ノ小作米ノ納付ト同時ニ交付スルコト

一 森某ハ相手方ニ對シ金五拾圓ヲ本月末日マデニ交付スルコト

一 相手方某ハ申立人等ニ對シ登米區裁判所ニ提起シ現ニ繫屬スル小作權確認ノ請求ヲ直チニ拋棄スルコト

一 調停費用ハ各自辦ノコト

四 秋田縣鹿郡平吉田村字上吉田

(小作料一時的減額轉貸小作ノ廢止)

爭議發生 昭和三年十二月

調停申立 同 四年二月八日

解 決 同 四年三月十九日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 十六人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 十町五畝五歩  
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件田地ハ舊來ヨリ申立人ニ於テ小作ヲナシ今ヨリ三十年前相手方地主ノ所有トナリタル後モ引續キ小作ヲ繼續シ現今ニ及ブ、該田地ハ水利不便ノ結果動モスレバ不作ノ怖アリ昭和二年同三年度ニ於テモ相當減收アリタルヲ以テ其都度小作人等ハ地主ニ對シ一時減額ヲ要求セルモ容レラレズ不納米ハ借米證書トシテ經過セルガ特ニ昭和三年ハ旱魃被害アリ仍テ小作人等ハ東北農民組合ニ加入シ其ノ應援ヲ得テ地主ニ對シ毛引ノ要求ヲナシ契約小作料約半額ヲ納付シ交渉ヲ繼續セルガ地主ハ之ニ對シ強硬小作人三名ニ對シ動産假差押ヲ執行セル結果小作人等ハ昭和三年度小作料ハ平均四割ヲ毛引シ且ツ昭和四年度以降一等田地一石以下一等級ヲ下ル毎ニ各五升ヲ永久低減セラレ度キ調停申立ヲナシタリ

(二) 調停ノ經過

調停申立後小作人等ハ調停ノ結果ニ期待シ格別不穩ノ行動ヲナサズ小作官ハ調停期日前爭議地ニ出張シ區長某宅ニ小作人等ヲ招致シ詳細調査ヲ遂ゲ其要求ヲキクニ必ズシモ小作料永久減額ヲ強要スルニ非ズ主トシテ昭和三年ノ一時減額ヲ要求セルモノナリ、特ニ今年度ノ不作ハ或程度迄地主ニ於テモ之ヲ認メ申立人ノ一部トハ現ニ毛引協定成リタル事實等モアリ要スルニ毛引ノ程度並ニ範圍ヲ増大ス



ルコトニヨリ事件ハ解決セラルヲ認メタリ

昭和四年三月十九日裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開キ交渉數時ニシテ左記結末ニヨリ調停成立セリ

(三) 結 末

昭和三年度毛引率ハ平均二割程度ノ減額ヲ地主ニ於テ認メ昭和四年三月十九日ノ調停委員會ニ於テ左ノ如ク調停成立セリ

調 停 條 項

- 一 申立人共ハ昭和三年度小作米納米トシテ別紙目錄記載ノ申立人頭書ノ玄米ヲ昭和四年三月廿五日限リ相手方ニ支拂フコト (別紙目錄省略)
- 若シ玄米ヲ以テ支拂フコト能ハザルトキハ時價ニヨル換價金ヲ支拂フコト
- 二 相手方ハ申立人柴田某、高橋某、佐藤某ヨリ右小作米納米受領スルト同時ニ同人ニ對スル假差押ノ執行ヲ解除スルコト
- 三 相手方ハ申立人佐藤某、佐藤某、柴田某、柴田某ニ對シ同人ト協議ノ上別紙目錄記載ノ土地ヲ直接賃貸小作セシムルコト
- 四 將來不作ノ場合ハ刈取十日前相手方ニ檢見ノ申入ヲナシ双方並ニ町村農會技術員立會調査ノ上小作料ノ毛引額ヲ定ムルコト

(備考) 當事者ハ將來不作ノ際ハ公平ナル第三者ノ立會ニヨリ減收、毛引ヲ協定スルコトヲ必要トシ且從來地主ノ關知セザル轉貸小作ヲ直接ノ小作契約ニ改メタリ

五 山形縣北村山郡大高根村 (小作料永久的減額)

爭議發生 昭和三年

調停申立 昭和四年八月十六日 (昭和四、五年ニ亘リ申立十六件)

解 決 昭和五年五月十六日

爭議人員 地主 四十六人 小作人 六十一人

調停 地主 七人 小作人 五十五人(小作人及双方申立)

關係土地 爭議 田 三十六町步(村內小作地百八十五町步ニ影響スルモノナリ)

調停 田 二十四町六反五畝步

(一) 爭議ノ概況

大高根村ハ山間ノ稻作地方ニシテ他ニ職業ナク然モ一般ニ耕作反別少キヲ以テ小作人ハ各自小作料ノ糶上ゲ又ハ小作料増額賣却、小作繼續等ノ爲從來小作料漸次騰貴シ反當一石五六斗甚シキハ二石ニ近キモノアリ(地延ビアルモ)之ヲ以テ小作人ハ昭和二年ヨリ小作料ノ永久輕減ノ目的ヲ以テ昭和二年三月中大高根村小作組合ヲ設立シ運動ニ着手セリ



而シテ昭和三年度小作料ニ對シテハ愈々四割輕減ヲ要求シ尙之ガ實現ノ手段トシテ地主戸別訪問、本部委員（横田、須藤等）ノ應援、講演會等ニヨリ百方其ノ貫徹ヲ圖リシモ、地主ハ何等ノ行動ヲトラス其ノ儘放任シ居レリ、此ノ間小作人ハ同村内小作地ノ主ナル地主大石田町長ニ依頼シ解決ヲ圖ラントセルモ荏苒決セザル間ニ同町長ハ退職セリ

昭和四年ニハ地主側ニ於テ共同シテ技術者ヲ傭ヒ土地一筆毎ニ其ノ反別ヲ實測シ小作人ノ要求ニ對スル準備ヲ爲セリ

茲ニ於テ小作組合ニ於テ本部員ノ反對ニモ拘ハラス小作調停ニ依リ解決ヲ圖ラントシ昭和四年八月十六日ヨリ同五年五月五日ニ至ル間、數次ニ十六件ノ小作調停ヲ申立ツルニ至レリ

(二) 調停ノ經過

小作側ニ於テハ調停ノ際組合長、組合員多數ト共ニ出席應援ヲ爲シ又ハ申立取下等ヲ行ヒ、地主側亦其ノ間個人的諒解ヲ求ムル等各有利ナル解決ニカメ、是等ノ爲地主小作人合意ノ申立ヲナセル者アルモ多クハ小作人ヨリ申立テ總テ依法調停ヲ以テ解決スルニ至レリ而シテ小作料ハ實測反別一反歩ニ對シ最高一石二斗トシ尙湧水地等ハ排水ヲ圖リ土地改良ヲ地主ニ於テ負擔スルコト、ナレル爲小作組合及一般小作人ハ其ノ解決ヲ喜ビ居レリ

(三) 結 末

調停條項ハ各事件毎ニ差アルモ昭和四年十二月十八日ニ成立セル調停條項左ノ如シ

調 停 條 項 (申立人 小作人 藤某 相手方 地主 平山某)

- 一 小作地 北村山郡大高根村大字富並字日見所一、三〇〇ノ一
- 田四反九畝四步 外田十七筆 畑一筆 山林二筆(合計二町五反九畝二十九步)
- 二 右小作地ノ小作料ヲ昭和四年以降一ヶ年玄米四十五俵(一俵四斗入)ニ斗ト定メ小作人工藤某ハ毎年十二月二十日迄ニ地主平山某方ニ持參シ支拂フコト但昭和四年度ハ十二月末日迄トス
- 三 右小作米ハ山形縣生産検査合格米タルコト、之ニ對シ當事者ハ縣所定ノ補償金ヲ授受スルコト
- 四 小作期間ハ昭和五年ヨリ五ヶ年トス期間滿了ノ場合ハ小作料ノ不納其ノ他ノ不都合ナキトキハ引續キ小作セシムルコト
- 五 小作人ハ地主ノ承諾ナクシテ小作ヲ讓渡シ又ハ又小作セシムルコトヲ得ズ
- 六 昭和三年度ノ未納小作米十三俵三斗四升(本調停ニ於テ減額輕減シタル小作料ヲ差引キタル殘額)ニ付テハ昭和四年十二月末日迄ニ五俵、同五年十二月廿日迄ニ五俵、同六年十二月廿日迄ニ三俵三斗四升ヲ本小作米ト共ニ支拂完済スルコト
- 七 小作人ニ於テ小作米(前項ノ未納米ヲ含ム)トシテ提供スベキ米ナキ場合ハ時價相場ニ於テ換算シタル金額ニ付直ニ執行ヲ受クルモ異議ナキコト



八 申立ニ於テ爲シタル其ノ他ノ要求條項(二重儀裝料、運賃)ハ主張セザルコト

(備考) 從來ノ小作料ハ五十二俵三斗ナリシモノナリ

六 福島縣西白河郡社村大字中寺 (小作料一時的減額並改定)

爭議發生 昭和四年一月三十日

調停申立 昭和四年二月十九日

解決 昭和四年五月十五日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 八人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 三町三反二十六步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本紛争地ハ昭和三年十一月前地主タル東不動産株式會社ガ其ノ所有土地十三町七反餘步ヲ任意競賣ニ附セムトシタル事ヨリ爭議ヲ惹起シ調停進行中地主側ハ對抗手段トシテ其一部タル本紛争地ヲ現地主ニ賣却シタルモノニシテ地主側ニ於テハ買入ト同時ニ昭和三年度ヨリノ小作料反當平均七斗九升八合ヲ一石二升七合ニ二割八分七厘ノ値上ヲ要求シタルヲ以テ小作人側之ニ反對シ鈴木某外二名代表者

トシテ地主ト交渉シタルモ地主ハ値上ヲ目的トシテ買入レタルモノナリト主張シテ妥協ヲ見ルニ至ラズ且一部小作地ノ引上ヲ要求シテ其ノ交渉ニ應ゼズ遂ニ小作人側ヨリ小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ

(二) 調停ノ經過

裁判所ハ事件ノ内容ニ依リ前地主ヲ調停ニ参加セシメ調停ヲ爲スコト、シ三月二十日第一回ノ調停ヲ開始セルモ小作人側ハ昭和三年度ノ小作料五割減額、小作料値上反對、納稅代理人ノ變更、小作契約期間十ヶ年ヲ要求シタルモ小作契約期間以外ニ付キテハ地主側拒絶シテ妥協成立セズ調停ヲ重ヌルコト數回ニ及ビタレドモ妥協ノ曙光見エズ最後ニ地主側ハ前地主ニ對シテ解約ヲ要求シ之ニ應ゼザル場合ハ賣買契約代金中ヨリ貳千圓ノ減額ヲ要求シ第五回、第六回ノ調停期日ニハ出頭セズ事件甚複雑化スルニ至リタレバ解決上専ラ小作人側ノ讓歩ヲ促シ調停八回ニシテ解決スルニ至レリ

(三) 結 末

調停條項

- 一 被申立人ハ申立人ニ對シ從來通昭和四年度ヨリ昭和八年度迄五ヶ年間小作セシムルコト但シ從來ノ小作料ハ合計玄米六十八俵二斗ナリシヲ七十俵ニ増額スルコト
- 二 小作米納期ハ毎年十一月三十日限リノコト
- 三 被申立人ハ申立人ニ對シ昭和三年度小作料ノ三割ヲ免除シ申立人ハ殘小作料七割ヲ左ノ期日ニ分



割拂込ムコト(各人別拂込額省略)

昭和四年五月三十日限

昭和四年十一月三十日限

昭和五年十一月三十日限

七 茨城縣東茨城郡石崎村大字上石崎

(小作料一時的減額、小作契約繼續、土地一部返還)

爭議發生 昭和四年四月二十二日

調停申立 昭和四年五月二十五日

解決 昭和四年六月十三日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人

調停 地主 一人 小作人 一人(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 七反五畝步(内竹林一反五畝步及宅地約二畝步ヲ含ム)

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

相手方地主ノ家ニ二十年前女中奉公セシ申立人田中某ハ相手方(地主)ノ弟ノ家ニ下男奉公セシ亡夫某ト地主幹旋ノ下ニ一家ヲ營ミ前記土地ヲ小作シ來リタル所數年來ヨリ小作料ヲ怠納シ昭和四年四

月二十日夫某ガ死亡シタルヲ以テ地主ハ直チニ其ノ妻(申立人)ニ對シ小作料ノ請求ヲ爲シ四月二十二日ニ至リ小作人ノ植付タル竹林ヲ他ニ貸付クル爲ト稱シ突然約三百本ノ竹ヲ無斷ニ伐採シタル外五月十七日ニ至リ前記畑地ノ麥作付中ノ畝間ニ櫛及檜ノ苗木ヲ植付ケ土地返還ヲ迫レリ小作人ハ七名ノ遺兒ヲ擁シ生計困難ナルノ結果其ノ前後措置ニ窮シ直チニ全國農民組合幹部ニ救濟方ヲ依頼セリ依テ右指導者ハ小作人ノ窮狀ヲ察シ小作調停申立ヲ勸誘シ五月二十五日水戸地方裁判所ニ調停申立ヲ爲スニ至レリ

(二) 調停ノ經過

小作調停申立ノ當日右指導者ハ縣小作官ヲ訪問シ小作人側ノ窮狀及地主ノ態度等ニ付種々具陳スル處アリ且小作人側ハ七名ノ遺兒ヲ擁シ農業ニヨラズンバ生活ニ窮スルヲ以テ時恰モ陸稻蒔付ノ時期ニ際會セルヲ以テ此ノ際調停前ノ措置トシテ陸稻ヲ(麥ノ間作トシテ)蒔付クルコトノ取計方ノ申立アリ依テ裁判所ハ六月六日兩者ヲ裁判所ニ招致シタルモ地主側ハ土地返還ヲ主張シテ容易ニ應ゼズ依テ之ヲ調停委員會ニ移シ六月十三日同村役場ニ於テ第一回ヲ開催セリ

縣小作官ハ小作人ノ申立ノ通り時恰モ陸稻播種ノ時期ニ當リ居ルヲ以テ調停主任判事ト打合セ現狀視察ノ上必要ニヨリテハ前後措置ヲ講究スルコト、ナシ之ガ現場ニ出張セルニ小作人側ハ組合指導者ノ援助ヲ受ケ既ニ陸稻播種ヲ了シ居リタルヲ以テ其ノ儘調停委員會ヲ開催スルコト、ナレリ

調停委員會開催ノ結果地主側モ小作人ニ對シ苛酷ニ失シタルコトヲ覺リ裁判所調停ノ際ノ態度ヲ改



メ能ク調停委員其ノ他ノ言ヲ聞キ讓歩スルニ至リ依テ左記條項ノ通り解決スルニ至レリ

二五八

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方ハ申立人ニ對シ茨城縣東茨城郡石崎村大字上石崎字前原四、六九七番ノ三〇、宅地全部及同番ノ十六ノ畑一部ヲ小作セシムルコト
- (イ) 小作地ノ範圍ハ昭和四年度夏作(八月末日)迄ハ從來申立人ノ夫某ガ相手方ヨリ小作シ來リタル地域約七反歩トシ其ノ後ハ右地域ノ内宅地及之ニ接續スル畑地ヲ合セ實測反別五反歩トス
- (ロ) 小作料ハ昭和四年度分ヨリ一反歩ニ付一ケ年金參圓五拾錢也ノ割合トシ現金ニテ支拂フコト
- (ハ) 小作料ノ支拂時期ハ毎年八月十五日及十二月十五日ノ二回トシ各一ケ年分ノ半額宛分割シテ支拂フコト
- (ニ) 小作期間ヲ昭和四年ヨリ昭和十三年十二月末日迄トス
- (ホ) 相手方ハ申立人ガ小作料ヲ一回分(即チ一ケ年分ノ半額)又ハ夫以上支拂ヲ滯リタル時ハ二週間ノ期間ヲ定メテ支拂ノ催告ヲ爲シ尙之ヲ支拂ハザル場合ニハ右二週間ノ期間經過後直チニ小作契約ヲ解除シ得ルモノトス
- (ヘ) 申立人ハ前項ノ履行ヲ爲サル爲メ小作契約ヲ解除セラレタルトキハ二ヶ月以内ニ小作地内

ノ家屋ヲ取拂ヒ小作地全部ヲ相手方ニ引渡スコト

- (ト) 申立人ハ小作地内宅地以外ノ部分ニ今後新タニ竹木ヲ植栽セザルコト
- (チ) 申立人ハ相手方ニ對シ昭和三年度ニ至ル迄ノ小作料及借入金ノ辨濟トシテ金參拾圓ヲ支拂フコト但シ内金拾五圓ヲ昭和四年六月三十日限り残り金拾五圓ヲ同年十月三十一日限り支拂フコト
- (リ) 相手方ハ申立人ニ對シ昭和三年度迄ノ小作料及貸金等總テノ債權ヲ右參拾圓ニテ打切り其ノ餘ヲ免除ス

一 申立人ハ相手方ニ對シ損害賠償其他一切ノ債權ヲ有セザルコトヲ承認シ尙竹林伐採ビール麥代金關係ニ付キ告訴等ヲ爲サルコト

一 申立人ハ相手方ガ昭和四年春本件小作地ノ北側所在ノ竹ヲ伐採シタルコトニ付何等異議ヲ申立ズ其ノ伐採シタル竹ト申立人ヨリ參加人栗原某ニ支拂フベキ其ノ竹林ノ地代ト差引濟方ト爲シ參加人トノ間ニ互ニ債權債務ノ關係ナキコトヲ承認ス

一 相手方ハ本年春本件小作地内ニ植付タル櫟苗ノ内本年夏作後申立人ガ耕作スベキ前記(イ)ノ五反歩内ニ植付アル全部ヲ拋棄シ申立人ニ其ノ處分ヲ一任スルコト但シ申立人ハ右櫟苗ヲ處分スルニ當リ之ヲ小作地ニ植付置クコトナク全部拔取ルコトヲ要ス

一 申立人ハ相手方ニ對シ右櫟ノ代金トシテ金參圓ヲ昭和四年六月三十日迄ニ支拂フコト



一 天災地變其ノ他不可抗力ニヨリ著シク不作ノ時ハ附近ノ振合ニヨリ小作料ヲ減額スルコト  
 一 申立人ハ前記ノ如ク定メタル債務ヲ履行セザルトキハ相手方ヨリ直チニ強制執行ヲ受クルモ異議  
 ナキコトヲ承認ス

八 栃木縣足利郡毛野村大字大沼田 (土地返還豫約)

爭議發生 昭和四年三月二十七日  
 調停申立 昭和四年五月二十一日  
 解決 昭和四年六月二十五日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人  
 調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 九畝十一歩  
 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

關係地ハ小作人龜山某(大沼田小作人組合長)ガ足利郡吾妻村大字高橋ノ飯島某ニ賣控小作ニテ賣  
 渡シ現在迄小作繼續中ノ處昭和三年末ニ本件ノ地主龜山某(地主側ノ設立セル大沼田農業改善會ノ會  
 長)ガ大沼田小作人組合ヲ破壊セントシ買受ケ昭和四年三月二十七日土地返還ノ請求ヲ爲シタリ

小作人ハ右請求ヲ拒絕シ從來通り小作ヲ繼續セントシ抗爭中字内ノ龜山某調停ニ入り今後三ケ年間  
 小作人ニ小作ヲ繼續セシムルコトニテ大體成立セントシタルモ保證人ノ點ニテ破レ手ヲ引キタリ依テ  
 地主ハ更メテ五月一日土地返還ノ請求ヲナシ小作人ハ五月九日小作繼續ヲ地主ニ申出デ拒絕セラレ五  
 月二十一日宇都宮地方裁判所栃木支部へ小作調停ノ申立ヲ爲シタリ

(二) 調停ノ經過

宇都宮地方裁判所栃木支部ニ於テハ昭和四年六月十二日午前九時調停委員會ヲ開カズシテ調停ニ着  
 手シタリシモ小作人ハ將來五ケ年間小作繼續及賃貸借契約證作成ヲ主張シ地主ハ小作人ノ主張ヲ全ク  
 認メズ即時土地返還ヲ主張シ互ニ譲ラザルヲ以テ六月廿五日午前九時ヨリ再會スルコト、シ第一回ノ  
 期日ヲ閉シタリ

六月廿五日午前九時再開前回ニ引續キ調停ノ處當事者互ニ讓歩シ調停ノ成立ヲ見タリ

(三) 結 末

調停條項

- 一 一ケ年賃借料ヲ玄米二俵一斗三升トス(四等以上)但シ一俵ハ四斗入十七貫以上ノコト
- 一 納期ハ毎年十一月三十日限トス
- 一 賃借期間ハ昭和五年十二月末日限リトス期間滿了ノ際ハ必ず地所ヲ明渡シ爾後絶對ニ賃貸借ノ更



新ヲ主張セザルコト

二六二

九 群馬縣群馬郡倉賀野町 (小作料一時的減額)

爭議發生 昭和四年十一月十七日  
調停申立 昭和四年十二月二十六日  
解 決 昭和五年二月七日

關係人員 爭議 地主 二十五人 小作人 三十一人  
調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 十一町三反九畝十六步  
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件當事者間ニハ大正十五年度ノ小作料減額問題ニ關シ昭和二年爭議アリテ、(小調)第九號事件トシテ調停法ニ依リ解決シ大正十五年度小作料ニ限リ二割五分乃至六割ノ減額ヲ爲シ之ヲ三ヶ年間ニ分割支拂フ事トナリシガ其際右調停條項中今後不可抗力ニ依ル減收ヲ理由トシテ小作料減額ヲ要求セントスル場合ハ立毛刈取前ニ之ヲ爲シ當事者中ヨリ双方五名ノ委員ヲ選出シ檢見其他ノ方法ニ依リ減收ノ有無程度ヲ協議決定スベキ事ヲ規定セラレタリ

然ルニ昭和四年ニ至リ全國農民組合倉賀野支部員ナル星野某外三十名ノ小作人ハ同年度稻作ガ植付後ノ早魃ト登熟期ニ於ケル早冷襲來ノ結果被害ノ尠カラザルモノアリテ著シキ減收ヲ來スベキヲ豫想シ同年度小作料ノ減額方ヲ地主ニ要求スル事ニ決シ十二月十二、十三兩日ニ亘リ委員ヲ選ビテ各筆毎ニ立毛調査ヲ爲シ其ノ豫想收穫高及減額要求率ヲ定メ翌十四日地主ニ對シ前記調停條項ニ基キ作柄ノ檢見ヲ要求シタルニ地主之ニ應ジ双方委員五名宛ト豫備員一名宛トヲ舉ゲ同月十五日及十六日全小作地ヲ檢見シ地主側ハ其結果ヲ記録シタルモ小作側ハ既ニ調査シアルヲ以テ只同行シタルニ過ギザリキ

斯クテ十七日朝ヨリ双方委員ハ地主大山某ノ蠶室ニ會シ協議セントシタルモ双方共調査ノ結果ヲ發表セズ且小作人ハ全般ニ亘リテ相當ノ減額ヲ主張スルニ對シ地主ハ被害ノ甚シキモノ、ミニ付テハ減額スルモ一般的ニハ減額ヲ承認スル能ハズト固執シ意見ノ一致ヲ見ズ遂ニ交渉決裂シ其後地主、小作ノ代表者ハ交々縣廳ニ出頭シテ小作官ニ其實情ヲ陳述シタリ

而シテ其後地主ハ小作人ニ對シ同月二十九日附内容證明郵便ヲ以テ小作側ノ手續ハ調停條項ニ違反スルヲ以テ其要求ハ拋棄シタルモノト認ム故ニ本年小作料ハ勿論分納米ヲモ納入スベキ旨通告シ其ノ氣勢ヲ挫カントシタルニ小作側ニ於テモ十二月二日之ニ對シ調停條項ニ依ル手續ヲ拒ミタルハ地主側ナレバ小作人ノ減額要求ハ之ヲ承認シタルモノト見做ストテ同様な内容證明郵便ヲ以テ返答シ兩者相對

二六三



峙セル儘交渉進捗セズ依リテ小作人側代表者ハ再度縣廳ニ出頭シ小作官ニ一任シテ法外調停ニ依ラムトスル意志アル事ヲ述ベタルヲ以テ小作官ハ直ニ地主側ニ對シテモ同様勸告ニ努メタルモ地主側ハ之ニ關スル事ナク十二月七日地主松本某宅ニ會合シ協議シタル結果委員六名ヲ選出シテ個人交渉ヲ爲サル事トシ且小作地一反ニ付金參圓宛ノ爭議準備金ノ積立ヲ爲ス事ヲ決議シ強硬ナル態度ニ出デントスルモノ、如ク斯クシテ小作料ノ納期モ經過シタルヲ以テ縣小作官ハ前橋地方裁判所長ト協議ノ上十二月二十三日小作人側代表者ヲ招致シテ其經過ヲ聽取スルト共ニ調停申立ヲ勸告セルニ依リ十二月二十六日ニ至リ遂ニ小作人ヨリ調停申立ヲナセリ

(二) 調停ノ經過

昭和五年一月十七日前橋地方裁判所高崎支部ニ於テ開カレタル第一回調停委員會ニ於テ地主ハ小作人中ニハ檢見ニ先ダチテ刈取ヲナシタルモノ及全然被害ノ認メ得ザルモノ等アリトテ全小作地ニ及ブ減額ニ對シテハ絶對ニ應ジ難シト強硬ナル主張ヲナシ小作人亦土地ニ依リ收穫狀況ニ大差アル事ハ之ヲ認ムルモ團體交渉トシテ組合員間ニ取扱ヲ異ニスルノ困難ヲ訴ヘテ讓ラズ爲ニ調停進捗セズシテ續行トナリシガ二月七日更ニ第二回委員會ヲ開キ極力調停ニ努メタル結果地主ハ一少部ノ不減額地ヲ出ス事ヲ有利トシ小作人ハ小作料ノ總額ニ付減額高ノ大ナラムコトヲ有利トシテ遂ニ双方讓歩シ左記條項ニ依リ調停成立解決セリ

(三) 結 末

調停條項

- 一 相手方(地主)ハ申立人(小作人)ニ對シ昭和四年度小作料ニ限り氣候不順灌漑不良ノ爲メ別表記載ノ如ク減額スルコト
- 一 申立人(小作人)ハ相手方(地主)ニ對シ該減額小作料(額減セサルモノニ付テハ既定小作料)ヲ昭和五年二月十二日限り相手方(地主)宅ニ持參シテ納入ヲナスコト
- 一 本件申立費用ハ當事者ノ各自辨トス

別 表

當 事 者	申 立 人 (小作人)	相 手 方 (地 主)	地 目	所 在 地	地 番	反 別	既 定 小 作 料	減 額 率	減 小 作 料 額	備 考
和 田 某	同	大 山 某	畑	同	三、一一九	一、五〇〇	一、八〇〇	一割五分	一、五三〇	
同	同	同	同	同	三、一一〇	〇、一〇〇	一、八〇〇	一割五分	一、五三〇	

以下省略

(全小作地九十四筆ニ對シ其ノ既定小作料ヨリ五割(一筆)四割(四筆)三割五分(六筆)三割(十七筆)二割六分(二筆)二割(四十五筆)一割五分(九筆)ヲ減額スルコト 但シ減額ナキモノ(十筆)ナリ)

一〇 埼玉縣北埼玉郡原道村 (小作條件改定)



爭議發生 昭和四年十月十六日  
調停申立 昭和四年十一月九日  
解 決 昭和四年十二月九日

關係人員 爭議 地主 十六人 小作人 百四十八人  
調停 地主 十六人 小作人 七十二人(地主申立)

關係土地 爭議 田 四十五町三反步 畑 四十三町八反步  
調停 田 五町六反三畝二十五步

(一) 爭議ノ概況

同年ノ減收ヲ豫想シタル地主等ハ凶作ノ場合ニ對スル處置トシテ大字區域ノ收量調査會ヲ設置シ毎年ノ減免問題ノ煩ヲ避ケンコトヲ企畫シ區議員組長ヲ介シ小作側ト協定ヲ遂ゲンタルモ一部小作人側ハ之ニ反對シ村長ヲ介シテ本年度畑作及水稻作ニ對スル左記輕減ノ要求ヲ爲シタルモ地主ハ之ニ應ズル能ハズトシ其ノ態度強硬ナリシ爲遂ニ小作人側ハ消防組員ノ辭任ヲ申出ヅル等紛糾スルニ至リシガ小作官ハ地主小作双方ノ間ニ立チ折衝ヲ重ネタルモ各其ノ主張ヲ異ニセルヲ以テ遂ニ地主側ハ浦和地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ

一 大豆(桑畑、大豆畑、其他ノ畑作物)三割借用ノ事

二 陸稻ノ實收

- 甲 三俵以下 三割借用ノ事
- 乙 二俵以下 五割割引ノ事
- 丙 一俵以下 全免ノ事
- 三 水稻ハ坪刈田ヲ除キ實收四俵以下ハ三割割引ノ事

(二) 調停ノ經過

浦和地方裁判所ニ於テ調停委員會ヲ開クコト二回ニ及ビ遂ニ左ノ條項ヲ以テ解決シタリ

(三) 結 末

調停條項

一 災害ニヨリ收獲量減少シタル場合ハ左表ニヨリテ割引又ハ分配ヲ爲スコト

米		地 主		小 作 者		大 豆		陸 稻		小 作 料 二 對 小 作 料 減 額 率	
一 反 步 當 り 收 獲 量	二 反 步 當 り 收 獲 量	一 反 步 當 り 收 獲 量	二 反 步 當 り 收 獲 量	一 反 步 當 り 收 獲 量	二 反 步 當 り 收 獲 量	一 反 步 當 り 收 獲 量	二 反 步 當 り 收 獲 量	一 反 步 當 り 收 獲 量	二 反 步 當 り 收 獲 量	一 反 步 當 り 收 獲 量	二 反 步 當 り 收 獲 量
四 俵 未 滿	五 分	五 分	五 分	五 俵 未 滿	八 斗 未 滿	三 俵 未 滿	一	一 俵 未 滿	六	八	割
三 俵 未 滿	四 分 五 厘	五 分 五 厘	五 分 五 厘	四 俵 未 滿	六 斗 未 滿	二 俵 未 滿	三	一 俵 半 未 滿	六	六	割
二 俵 未 滿	四 分	六 分	六 分	三 俵 未 滿	五 斗 未 滿	一 俵 未 滿	二	一 俵 未 滿	六	六	割
一 俵 未 滿	二 分	八 分	八 分	二 俵 未 滿	四 斗 未 滿	一 俵 未 滿	一	一 俵 未 滿	六	八	割

二 收獲量ハ當事者双方立會ノ上檢見又ハ坪刈ノ方法ニヨリ之ヲ定ムルコト



三 右檢見又ハ坪刈ハ收穫ヨリ少クトモ一週間前ニ相手方(小作者)ヨリ申立人(地主)ニ申出ズル  
コト

備考 昭和四年度ニ於ケル減免率モ右條項ニ基キ解決シタリ

一 千葉縣印旛郡遠山村十余三 (小作料増額中止 小作契約繼續)

爭議發生 昭和四年八月二日

調停申立 昭和四年八月廿六日

解 決 昭和五年七月三日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 四十四人

調停 地主 一人 小作人 二十五人(小作人申立)

關係土地 爭議 畑 六十二町 山林 十町

調停 畑 三十八町一反一畝八步

(一) 爭議ノ概況

本件關係土地ハ申立人(小作人)等大正元年借受ケ開墾セシ所ニシテ大正七年石井某(大阪ノ富豪)之ヲ買受ケ地料ハ最初參圓五拾錢大正八年下半年期ヨリ五圓トナリタリ然ルニ大正十二年ニ至リ石井某破産ノ結果昭和四年一月現地主(相手方)横山某(朝鮮ニテ一大農場ヲ經營セル者)ノ所有トナリ新

地主ハ小作人ニ對シ小作料ヲ拾圓トセラレ度然ラザレバ土地引渡サレ度トノ交渉ヲ開始シ種々交渉セシモ折合ツカズ調停ノ申立ヲナスニ至レリ

(二) 調停ノ經過

小作人側ハ農村不景氣ノ今日小作料五圓モ支拂ヒ兼ヌル次第ナルニ依リ到底拾圓ノ小作料ハ支拂ヒ兼ヌルニ付參圓トシ今後十ヶ年間小作契約ヲナサレ度トノ要求ヲナシタルニ對シ地主ハ反五圓ニテハ該土地競落資金ノ利息ヲモ支拂ヒ兼ヌルニ依リ小作セシムルナレバ拾圓然ラザレバ自己經營ヲナスノ決心ヲ以テ朝鮮ニ於ケル農場主任ヲシテ實地調査ヲナサシメ強硬ナル態度ヲ持セリ尙本爭議ノ小作側ニハ全國農民組合員十一名アリ之等ハ絶對ニ調停ヲ申立テズ耕作權ヲ主張シ之等ノ小作人及調停申立ヲナシタル廿五名以外ノ小作人ハ自己ノ都合ヨキ方ニ加入セム意嚮ヲ以テ對抗シ居リシヲ以テ地主ハ調停申立人以外ノ小作人ニ對シテハ小作料未納ノ請求及土地返還訴訟ヲ提起シ萬事ハ法廷ニテ之ヲ解決セムトテ全部ヲ顧問辯護士ニ依頼シ本人ハ朝鮮ニ在リタリ調停委員會ニテハ是非共地主本人ノ出頭ヲ要求シ朝鮮ヨリ歸京ヲ待チ委員會ヲ開催シタルガ地主ハ農業經營ニ付一種ノ信念ヲ有シ一面顧問辯護士ノ法律上ノ意見ニ基キ強キ主張ナリシタメ小作官ハ本人及辯護士ト種々懇談ノ結果地主ハ農民ノ福利増進ヲ計ル事ニ付テハ人後ニオチザル意見ヲ開陳スルニ至リシヲ以テ最後ノ委員會ニ於テ小作人側ノ意見ヲ申述ベシメタル所農業經營ノ理想論的ノモノ出デ地主之ヲ全部認ムルヲ得ザルモ其ノ主



旨ニハ賛成ナルニ付其ノ一部ヲ認ムルコト、ナリ又一方小作側ニハ種々意見ヲ陳ベ將來自作農者タルノ方法等ニ付協議シ、委員會ヲ開クコト四回ニシテ次ノ如キ條項ニテ調停成立解決スルニ至レリ(但シ農民組合關係者ヲ除ク)

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人ノ相手方ニ對スル小作料ハ一ケ年一反歩ニ付金五圓トシ毎年七月三十日及十二月二十日ノ二回ニ各半額宛ヲ支拂フモノトス  
但シ昭和四年度小作料ハ一反歩ニ付金參圓トシ昭和五年七月三十一日限り支拂ヒ昭和五年度小作料ハ昭和五年十二月二十日限り支拂フモノトス
- 二 申立人ハ相手方ニ對シ毎年一ケ年一反歩ニ付金壹圓ヲ敷金トシテ右小作料ノ支拂期ニ半額宛ヲ交付スルモノトス  
但昭和五年度ハ十二月廿日交付スルモノトス
- 三 相手方ハ申立人等ヨリ農業經營資金又ハ肥料資金トシテ必要ナル場合金借ノ申込アリタルトキハ金壹千圓ヲ限度トシテ貸付ヲ爲シ此場合申立人等ハ相手方ノ指定スル十名以上連帶債務者トナルモノトシ利息ハ年八分トス

申立人等ノ小作料ハ現在申立人ノ主張スル小作反別ニ依ルモ相手方申立人ガ昭和五年中協力シテ實測ヲナシタル上ハ昭和六年度ヨリ之ニ從ヒテ小作料ノ敷金ヲ計算スルモノトス實測費用ハ相手方ノ負擔トス

五 本調停條項ハ昭和七年限リトス但期間終了ニ至ル迄ニ双方ニ於テ何等ノ申出ナキトキハ契約ハ更新セラレタルモノトシ此調停條項ニ依ルモノトス

六 相手方ハ申立人ニ於テ昭和四、五年度小作料ヲ完納シタル者ニ對シテハ昭和五年度ノ敷金ハ免除スルモノトス

一二 東京府南足立郡江北村大字鹿濱 (小作料一時的減額 小作料減免方法協定)

爭議發生 昭和四年十月二十日

調停申立 昭和五年一月十五日

解 決 昭和五年四月九日

關係人員	爭議 地主 十八人	小作人 三十八人
	調停 地主 十人	小作人 九人(地主申立)

關係土地	爭議 水田 八十町步	畑 一町	宅地 一反
	調停 水田 三町六反		



## (一) 爭議ノ概況

昭和三年日本農民組合總同盟江北支部設置セラレ爾來小作人ハ本部ノ來援ヲ得テ小作料ノ減額並消費組合事業等ニ於テ相當ノ效果ヲ收ムルト共ニ益々組合ノ擴大強化ヲ圖リ來レリ、而シテ小作人ハ近年蔬菜花卉類ノ價格ノ低落ニ依リ生活困難ノ窮狀ニアリテ機ヲ觀テ地主ニ對シ挑戰シ局面打解ノ意圖ヲ有シタリシガ偶々昭和四年秋季早冷ニ依リ水稻不作ナルノ故ヲ以テ小作組合側ニ於テハ水田小作料ノ永久二割減額ヲ要求スルコトニ決意セリ

斯クシテ地主側ハ水稻收穫期ニ入ルヤ昨年度小作側ト協定セル條項ニ基キ小作側ニ對シ坪刈施行方ヲ要求シタルニ小作側ハ本年小作米ハ其ノ普通減免高ニ依リ納入スルノ意嚮ナリトテ戰術上極メテ穩健ナル態度ニ出デタルガ爲メ地主側モ其ノ意嚮ヲ信賴シ、坪刈ヲ中止シ納入ヲ待ツコト、セリ、昭和四年鹿濱ニ於ケル一般水田小作料ハ二割減額ヲ以テ解決シ年末ニ納入ヲ終リタルモ小作組合側ニ於テハ密カニ農民組合總同盟本部ニ諮リ其ノ對策ヲ講ジ納入期ヲ過ギ正月ニ至ルモ何等ノ交渉ニモ出デザルヲ以テ地主ハ此儘徒ラニ日時ヲ過スニ於テハ地主ノ不利益ナルノミナラズ又將來如何ナル紛糾ヲ生ズルヤヲ懼レ調停方ヲ同村村長ニ依頼セリ、村長ハ本問題ハ單ニ關係農家ノ利害ニ關スルノミナラズ事件ノ推移如何ハ村ノ自治上ニモ影響スルヤモ圖リ難キ重大問題ナリトシ直ニ當事者ヲ村役場ニ招致シ協定セシメントシタルモ小作側ハ之ニ應ゼズ更ニ數回斡旋協調大イニ努メタルモ組合ニ名ヲ藉リテ

之ヲ拒絕シタルヲ以テ村長モ遂ニ調停ヲ打切ルニ至レリ、斯クシテ地主側ハ益々事件ノ遷延ヲ懼レ有力地主二人ハ一月十三日府廳ニ小作官補ヲ訪ネ事情ヲ具陳シ調停方ヲ要請セリ

## (二) 調停ノ經過

府小作官補ハ一月十四日同村へ出張江北村長ヨリ事件ノ經緯及意見ヲ聽取スルト共ニ小作側幹部ノ意嚮等ヲモ徵シタルニ容易ニ解決スベクモナカリシヲ以テ地主側ヲシテ東京地方裁判所ニ調停ノ申立ヲナサシメタリ、斯クシテ二月十九日及同月廿六日調停委員會ヲ開催シタルニ小作側ハ永久二割減額地主側ハ畑ノ滯納小作賃料ノ請求ヲ各強硬ニ主張スルト共ニ附帶要求ヲ加ヘ問題更ニ複雑化シ又双方ノ主張ニ懸隔アリテ妥協困難ナリシ點尠カラザリシヲ以テ日時ヲ置キ双方ニ再考セシムルコト、セリ府小作官補ハ其ノ間ニ於テ直接同村へ出張小作組合支部長及有力地主ヲ訪ヒ極力双方ヲ説得シ事實上ノ調停ニ努メタルニ双方ノ意稍動キ漸ク三月中旬ニ至リ解決ノ曙光ヲ見ルニ至レリ

而シテ三月卅一日第三回調停委員會ヲ開キタルニ双方ノ主張愈々接近シ來ルヲ以テ續イテ四月九日更ニ委員會ヲ開キ調停ヲ試ミタルニ双方共讓歩シ遂ニ左記ニ依リ解決スルニ至レリ

## (三) 結 末

## 調 停 條 項

一 地主ハ小作人ニ對シ各別紙小作關係調書記載(別紙記載省略)ノ昭和四年度分小作米中三割五分ヲ減免スルコト



一 小作人ハ地主ニ對シ前項ノ殘額六割五分ノ小作米ヲ昭和五年四月廿日迄ニ支拂フコト  
 一 小作人ハ地主ニ對シ別紙小作關係調書記載(別紙記載省略)ノ昭和三、四年度分ノ畑宅地賃料ヲ昭和六年十二月末日迄ニ隨時分割シテ支拂フコト

一 毎年稻刈取着手ヨリ十五日前ニ地主側及小作人側双方當事者中ヨリ選定シタル同數ノ委員ト農會技術員又ハ其他中立ニシテ公平ナル委員ト立會ノ上ニテ收量ヲ査定シ其年度ノ小作米ヲ減額スルヤ否ヤ及其額ヲ協定スルコト

一三 神奈川縣橘樹郡稻田村登戸

(小作料一時的減額、産米) 検査ニ因ル補償米協定)

爭議發生 昭和三年十二月三十日

調停申立 昭和四年一月十九日

解 決 昭和四年三月一日

關係人員 爭議 地主 五人 小作人 四十九人  
 調停 地主 五人 小作人 五人(小作人申立)

關係土地 爭議 田 十四町六反八畝步 畑 五反七畝八步  
 調停 田 一町四反一畝七步 畑 五反七畝八步

(一) 爭議ノ概況

本爭議ハ昭和三年夏期ニ於ケル天候不順ノ爲メ稻作ニ意外ノ大減收ヲ招キ契約額通り小作料ヲ支拂フトキハ小作人ノ生活ヲ脅威セラル、コト極メテ著シキト縣穀物検査施行ト共ニ小作料納入ニ付小作人ノ勞力並經費ノ増嵩ニ對シ地主ヨリ交付セラル、補償米ノ如キ現狀ノ額ニテハ到底小作人ノ堪フル所ニアラザルト尙近年桃梨果不況ノ爲メ收支償ハザルニ至リタルトテ理由トシ地主ニ對シ小作料ノ減額其ノ他ヲ要求セルニ基因セルモノニシテ小作人側總代ハ十二月三十日付書面ヲ以テ昭和三年度分田小作料及桃梨園小作料ノ五割減、小作料算出ニ關シ田反別ノ更正並穀物検査關係補償米ノ増給ヲ關係各地主ニ要求シタルニ地主ハ内々協議ノ結果小作人總代ヲ否認スルト共ニ其ノ要求ヲ拒絶スルノ意味ニ於テ故意ニ意志表示ヲ避ケ荏苒時日ヲ經過セシメタリ

茲ニ於テ小作人總代ハ要求貫徹ノ爲メ再三地主ヲ訪問シ交渉スル所アリタルモ何等要領ヲ得ザルノミナラス却ツテ小作地返還ヲ要求セラル、者ヲ出シタル等ノ爲メ小作人側ハ四年一月十九日遂ニ調停ノ申立ヲ爲スニ至レルモノトス

(二) 調停ノ經過

小作人側ニ於テ小作調停ノ申立ヲ爲シタルニ付地主ハ對策協議ノ結果田小作料ニ限リ七分五厘減並検査等級五等小作米ニ對シテモ若干ノ補償米ヲ交付スベキ旨決議シ形勢ヲ觀望シ居タリ

次デ縣小作官爭議地ニ出張シ實情ヲ調査スルト共ニ再三地主及小作人總代ニ會見シ調停準備ヲ進メ



タル結果地主ハ田地小作料ニ限リ一割七分五厘減及五等級小作米ニ對シ一俵ニ付補償米五合ヲ交付スルコト、ナリタルモ小作人側ハ田小作料三割減ヲ要求シテ讓ラザリシ爲メ解決ヲ見ルニ至ラズ調停委員會ノ開會トナリタルモノトス

(三) 結 末

三月一日横濱地方裁判所内ニ調停委員會ヲ開會ノ結果一回ノ調停ヲ以テ左記條項ニ依リ圓滿解決ヲ遂グルニ至レリ

調 停 條 項

一 相手方等ハ申立人等ニ對シ賃貸シアル田地(但シ果樹栽植地ヲ除ク)小作料ヲ昭和三年度分ニ限リ其ノ契約額ニ對シ一割八分七厘五毛ヲ減額スルコトヲ承認ス  
二 相手方等ハ申立人等ヨリ納入ヲ受クル小作米ニ對シ神奈川縣穀物検査關係補償米トシテ各左記ノ通り納入者ニ交付スルコトヲ承認ス

一 等 米	一俵ニ付玄米	二 升 五 合
二 等 米	同	二 升
三 等 米	同	一 升 五 合
四 等 米	同	一 升

五 等 米 同 五 合

三 申立ニ關スル費用ハ各自辨トス

一四 新潟縣中蒲原郡會野木村大字會川新田 (小作料改定) (小作契約繼續)

爭議發生 昭和三年十一月二日  
調停申立 昭和四年二月十二日  
解 決 昭和五年七月九日

關係人員 爭議 地主 十一人 小作人 百一人

調 停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 六十九町五反二畝廿四步 宅地 九反九畝廿一步 畑 四町四反四畝步

調 停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

會川新田ニハ大正十一年初メテ小作組合組織セラレ同十三年四月須貝某同地ニ講演會ヲ催シ所謂三升問題ヲ提ゲテ其主張貫徹ノ氣勢ヲ舉ゲタルニ刺戟セラレ爾來漸ク鞏固ナル組織ノ下ニ組合ヲ結成シ同年小作料一俵ニ付三升ヲ未納シ(一石ニ付七升五合ノ割合)之レガ減免ヲ強要セリ、而シテ同所小林某外六名ノ地主ハ右未納米ニ對スル請求訴訟ヲ新潟地方裁判所ニ提起シタルガ小作人ヨリ之レガ調



停申立ヲナシ數次調停ノ結果小作人側ニ於テハ、三升ノ引免要求ヲ撤回シ地主ハ各其倉入米ノ百分ノ五ヲ向後五ケ年間小作ノ獎勵資金トシテ貸付クルコト、シテ和解成立シ別ニ協調會ヲ組織シ双互同數ノ實行委員ヲ擧ゲテ會務ヲ掌理スルコト、セリ

然ルニ昭和三年右借入資金ノ返濟期ニ至ルモ小作人等ハ農業經營ノ窮迫ヲ名トシ之レヲ返濟セザルノミナラズ同年作柄ノ調査ニ付地主ノ立會ヲ求メ萬一地主ガ之レニ應ゼザル場合ハ小作人調査ノ結果ヲ認メタルモノト見做スベキ旨ヲ内容證明郵便ニテ各地主ニ送達セリ、是ニ於テ地主ハ小作人ノ態度意外ニ強硬ナルヲ知リ協議ノ結果別ニ裁判所ニ對シ同年作柄ノ證據保全申請ヲ爲シ之レヲ施行セシガ小作人ハ同年度小作料ノ六割ヲ納米シ殘餘ニ對スル減免ノ要求ヲ爲セリ

昭和四年一月七日地主ハ右未納米ニ對スル催告ヲナスト共ニ小作契約解除ノ通告ヲナシタリ、玆ニ於テ小作人等ハ北日本農民組合幹部ノ指導ヲ受ケ益々結束ヲ固クシテ對抗策ヲ講ジ地主亦地主會ヲ組織シ訴訟費用ノ積立ヲ爲シ顧問辯護士ヲ置キテ攻勢ニ出デ債權確保ノ手段トシテ同月二十九日強硬ナル小作人十名ニ對シ約三百俵ノ玄米ノ假差押ヲナシ續イテ之レガ競賣ヲナシタルニ小作人ニ於テ悉ク之ヲ落札セリ、斯クテ地主ハ二月十二日新潟地方裁判所ニ對シ調停申立ヲナシ小作地全部ノ返還又ハ地主ノ提案セル小作條件ニ服スベキ旨ノ要求ヲナセリ

## (二) 調停ノ經過

地主ハ前記小作人ニ對スル調停申立ヲナスト共ニ一面自己腹心ノ小作人トノ間ニ極メテ地主ニ有利ナル條件ヲ以テ小作條件ヲ協定シ之レニ對シ別ニ調停申立ヲナシ該條件(別掲調停條項第一記載ノ通)ヲ以テ直チニ本件調停條項ニ擬セントセリ仍テ小作官ハ右條項中ノ著シク公正ヲ缺キタル點ニ對シ修正セシムルト共ニ第一回乃至第四回ノ調停期日ニ於テ地主ニ對シ極力反省ヲ促スト共ニ小作人ニ對シテモ其不當要求ノ撤回方ヲ勸告シタル結果地主側ニ於テハ昭和三年入付米ハ一割五分ヲ減免シ土地返還ノ要求ハ之レヲ撤回シ從來ノ小作料反當一石三升ヲ一石ニ減額シ更ニ定免契約期間ヲ五ケ年トナシ反當小作料ニ對シ其二十割未滿ノ年次ニ限り特免スル程度ノ提案ヲナスニ至リ小作人亦大體ニ於テ異議ナカリシモ昭和三年度小作料ハ三割減免トシ反當小作料ノ二十五割ニ相當スル作柄ヲ以テ減免ノ限界ト定メ度旨強硬ニ主張シタル爲容易ニ解決ノ曙光ヲ認メ得ザルニ至レリ

爾來數次調停ヲ重ヌルモ双互其主張ヲ讓步セザル爲遂ニ昭和四年收穫期ニ至リタル爲小作官ハ期日ヲ定メテ現地ニ出張シ兩者立會ノ上作柄ノ調査ヲ遂ゲ以テ調停ニ備ヘタリ

斯クテ昭和四年度小作料ハ納期ニ至リ契約小作料ノ三割ヲ控除シテ納入シ未納額ノ減免ヲ要求シタルニ對シ、地主ハ右要求ハ同年度作柄ニ鑑ミ過當ニ失スルモノトナシテ之レニ應ゼズ兩當事者間ニ紛爭ヲ生ズルニ至リシガ本件ハ前年以來繫屬スルノ故ヲ以テ昭和四年度ノ小作料モ亦本調停ニ於テ解決スル事トナセリ



斯クテ右兩年度ノ減免率ニ付爾後數次ノ調停ニ於テ折衝ノ結果昭和三年度ハ二割五分、同四年度ハ二割ヲ各減免スルコト、シ定免小作料トシテ從來反當一石三升ナリシモノヲ一石ニ改メ期間ヲ昭和五年以降同九年ニ至ル五ケ年トナスコトニ協定成リタレ共前記昭和五年以降特免ヲ行フ作柄ノ程度ニ付兩者其意見ヲ固執シテ容易ニ一致セズ仍テ第十六回調停期日ニ於テ調停委員會ハ双方ノ主張點及四圍ノ情況ニ鑑ミ調停條項ヲ決定シ之レヲ送付スベキ旨ヲ宣シタリ

是ト日ヲ異ニシテ小作官ハ兩當事者ノ代表者ヲ縣廳ニ召致シ、懇諭シタル結果兩者共右委員會案ニ從フコト、ナリ茲ニ漸ク事件ノ落着ヲ見タリ

(三) 結

末

最終ノ期日ニ於テ委員會ノ定メタル調停條項左ノ如シ

調停條項

第一

- 一 申立人(地主)ハ相手方(小作人)ニ對シ別紙土地目錄記載ノ土地ヲ同目錄小作料欄記載ノ小作料ヲ以テ昭和四年度ヨリ期限ヲ定メズシテ賃貸小作セシムルコト
- 二 別紙土地目錄記載ノ土地反別ガ(實測反別竝地券反別)實際ニ符合セザルコトアルモ小作料ノ増減ヲ爲サバハルモノトス

一筆又ハ數筆ヲ數人ニテ耕作スルトキハ連帶ニテ責任ヲ負フコト

三 本件小作料ハ天災地變其他不可抗力ニ依リ凶作ノ年次ニ於テハ左ノ割合ニ依リ減免ス

- (イ) 當該凶作地全收量ガ契約小作料ノ二十割未満十八割以上ノ場合ハ一割ヲ減免ス
- (ロ) 同十八割未満十六割以上ナル場合ハ二割減免
- (ハ) 同十六割未満十四割以上ナル場合ハ三割減免
- (ニ) 同十四割未満十二割以上ナル場合ハ四割減免
- (ホ) 同十二割未満十割以上ナル場合ハ五割減免
- (ヘ) 同十割未満八割以上ナル場合ハ七割減免
- (ト) 同八割未満六割以上ナル場合ハ九割減免
- (チ) 同六割未満ナル場合ハ全免

四 小作人ニ於テ前項ノ減免ヲ受ケントスルトキハ地主ニ對シ少クトモ刈取十日前迄ニ檢見ノ申出ヲ爲スコト

五 前項檢見ノ申出アリタルトキハ當事者間ニ於テ收量ヲ協定スルモノトス右協定調ハザルトキハ地主ヨリ公務員タル技術者ニ依頼シ收量ノ鑑定ヲ受クルモノトス

六 前項鑑定ノ爲メ耕地ニ立入り又ハ立毛ノ一部ヲ刈取り検査スルコトアルモ相互異議若クハ損害賠



償ノ申立ヲ爲サバルコト

二八二

七 小作人ニ於テ檢見ノ申出ヲ爲サズ又ハ檢見ニ立會ヲ爲サズ又ハ協定若クハ鑑定終了前ニ刈取リタルトキハ減免ヲ爲サバルコト

地主ニ於テ第四項ノ申出アリタルトキハ立會ヲ爲スコトヲ要ス

八 小作料ハ新潟縣生産檢査並上米ヲ納入シ若シ右檢査施行ノ結果ノ成績ニ依リ之ヲ納入シ難キトキハ地主ノ承諾ヲ得テ並米ヲ納入スルコトヲ得

九 小作料ハ毎年十二月二十日限り從來ノ慣例ニ依ル俵裝ヲ以テ納入スルコト

十 小作人ガ不得止事情ノ爲メ小作料ヲ玄米ヲ以テ納入シ難キトキハ地主ノ承諾ヲ得テ新潟市ニ於テ發行スル新潟新聞若クハ新潟毎日新聞所載ノ其年十二月十一日ヨリ同月二十日迄ノ並上標準相場ノ平均額ニ依リ現金ヲ以テ納入スルコト

十一 地主ニ於テ本件土地ヲ他ニ賣却ノ必要生ジタルトキハ當該小作人ニ對シ價格ヲ提示シテ其買取方ノ申込ヲ爲スコトヲ要ス

右申込アリタル日ヨリ三十日以内ニ當事者間ニ於テ書面ニ依ル賣買契約成立セザルトキハ他ニ賣却セラル、モ小作人ニ於テ異議ナキコト

自作若クハ公益上土地收用ノ必要生ジタルトキハ其年ノ收穫後ナル十二月末日迄ニ當該小作人ニ通

知ヲ爲シタル上該土地ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ小作人ハ其年十二月末日迄ニ異議ナク土地ヲ返還スルコト

十二 小作人ハ地主ノ承諾ヲ得ルニアラザレバ土地ノ轉貸又ハ變更ヲ爲サバルコト

十三 小作人ニ於テ本件契約ニ違反シタルトキハ地主ハ何等ノ手續ヲ要セズシテ本件契約ヲ解除シ土地ヲ引上ゲラル、モ異議ナキコト

本項及第十一項ニ依リ土地返還ノ場合ハ地上ニ存在スル竹木類ニ對シテハ地主ノ相當ト認メタル代價ヲ小作人ニ支拂フコト(但シ別紙土地目錄ハ之ヲ省略ス)

## 第二

一 申立人(地主)ト相手方(小作人)トノ間ニ於ケル別紙土地目錄記載ノ土地ニ對スル昭和五年度ヨリ同九年度迄ノ五ケ年間ノ小作料ヲ定免トシ反當一石ト定ム

但從前ノ小作料ニシテ本項小作料ヨリ低額ノモノアルトキハ從前ノ通りトス

二 前項田地ノ定免小作料ハ天災地變ニ依リ全收量ガ定免小作料ノ二十二割未滿ノ年次ニ限り該田地ノ定免小作料ノ二十二割ト全收量トノ差額ノ七割ヲ定免小作料ヨリ特免スルモノトス

三 前項ノ特免ヲ受ケントスルトキハ鎌入七日前迄ニ地主ニ對シ地番、稻種、反當見込收量ヲ記載シタル書面ヲ以テ檢見ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス

二八三



四 前項檢見ノ申出アリタルトキハ當事者ニ於テ適當ノ方法ニ依リ全收量ヲ協定シ意見一致セザルトキハ小作官又ハ公務員タル技術者ニ依頼シテ全收量ノ鑑定ヲ受クルコト此鑑定ノ方法及結果ニ付キテハ互ニ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

本項所要ノ費用ハ當事者ニ於テ平等分擔スルコト

五 小作人ニ於テ第三項ノ申出ヲ爲サズシテ稻ヲ刈リ取りタルトキ又ハ坪刈ヲ拒ミ其他收量ノ査定ヲ困難ナラシメタルトキハ特免ノ要求ヲ爲スコトヲ得ズ

地主ニ於テ第二項ノ申出アリタルニ拘ラズ其申出アリタル日ヨリ七日以内ニ第四項ニ依ル方法ニ着手セサルトキ又ハ坪刈調査ヲ回避シタル場合ハ小作人ノ申出收量ヲ承認シタルモノト看做ス

六 小作料ハ並米ヲ以テ建米トス但其年ノ小作人居字ニ於ケル受檢俵數ガ總受檢俵數ノ五割以上ガ並米以上ナルトキハ並米ヲ以テ納入スルコトヲ得

七 小作料ハ單俵トナシ毎年十二月二十日限り從來ノ慣習ニ依リ納入スルコト

八 小作料納入期日ヲ經過シタル後小作人ニ於テ尙小作料ヲ納入セザルトキハ地主ハ請求ノ日ノ新潟市ニ於ケル二大新聞所載ノ正米標準相場ノ平均額ニ換算シタル額ニ依リ請求スルコトヲ得

九 昭和三年度小作料ハ反當七斗五升ト定ム

十 前項實納小作料ハ昭和五年度同六年度ノ二ケ年々賦トシ第六項第七項ニ準ジテ納入スルコト

十一 昭和四年度小作料ハ反當八斗ト定ム

十二 前項實納小作料ハ昭和五年六月二十日迄ニ並米ヲ以テ納入スルコト

十三 小作人ハ地主ノ承諾ヲ得ズシテ地形、境界ノ變更及轉貸ヲ爲スコトヲ得ズ

但小作人ニ於テ耕作上ノ便利ノ爲メニ爲ス土地區劃ノ移動、家事上ノ都合ニ依リ不得止轉貸ノ申出アリタルトキハ地主ハ之ヲ拒否スルコトヲ得ズ

十四 小作人ニ於テ本件條項ニ違背シタルトキハ地主ハ何等ノ手續ヲ要セズシテ小作契約ヲ解除シ直ニ土地ノ引上ヲ爲スコトヲ得

十五 本件契約期間滿了ノ場合ニ於テ當事者協定ノ上之ヲ更新スルコトヲ得  
(但シ別紙土地目錄ハ之ヲ省略ス)

一五 富山縣婦負郡池多村大字西押川三ノ熊 (灌溉用水修復)

爭議發生 昭和四年三月八日

調停申立 昭和四年四月二十五日

解 決 昭和四年五月十四日

關係人員 爭議 地主 八人 小作人 二十一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)



關係土地 爭議 田 十八町步 溜池 一(二萬七千七百十三立坪)

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本件溜池ハ其ノ規模ノ大ナル點ニ於テ縣下溜池中第三位ト稱セララル、モノナルガ、昭和三年十二月十日突然其ノ堤防ノ一部分決潰シタリ依ツテ之ガ復舊ノタメ同村ニ耕地整理組合ヲ組織セムトノ議起リシ處同村地主側ノ有志等ハ村内小作人等ガ昭和二年末ニ組織セル小作組合ヲ解散スルニ非ラザレバ此ノ際復舊工事ニ支障ヲ來スモノ少カラズトナシ復舊工事拒否ノ態度ニ出デタリ

之ニ對シ小作組合側ハ工事ノ進捗コソ小作人ノ大イニ希望スルモノナレバ速ニ該工事ニ着手セラレ度シ、小作組合ノ事ハ全然之ト別個ノ問題ナレバ組合ハ解散シ難シトシテ讓ラズ數次ニ亘ル双方有志等ノ會同モ折衝ノ効ナク相反目申ナリシガ本年度ノ作付ニ際シ不安ヲ抱ケル小作人中ノ某等ハ此ノ旨縣小作官ニ具陳シ來リタリ

(二) 調停ノ經過

小作官ハ縣耕地課等ノ助力ヲ得テ詳細ニ實情調査ヲ遂ゲタル後調停ニ入ラムトシ數回盡力セシモ地主側ハ毎回言ヲ左右ニシテ調停會ニ出席セザル爲メ小作官ハ小作人等ニ小作調停法ニ依ル調停申立ヲ勸メタル處昭和四年四月二十五日小作人二十一名ハ地主八名ヲ相手方ト爲シ富山地方裁判所ニ於テ

調停申立手續ヲ了シタリ、越エテ五月八日池多村大字西押川樂園寺ニ於テ調停委員會ヲ開催シ連續四日ニ及ビ極力調停ニ努メタリ

(三) 結 末

以上ノ如キ調停經過ヲ辿リタル結果昭和五年五月十一日遂ニ双方左記調停條項ヲ容レ調停成立シ同月十四日之ガ認可決定アリタリ

調停條項

- 一 申立人等ハ其ノ組織スル小作組合ヲ昭和四年五月二十日限り解散シ、爾今之ニ類似スル組合ヲ組織セザルコト
- 一 相手方等ハ婦負郡池多村三ノ熊地内ニ在ル古筒溜池ノ缺壞箇所ヲ復舊セシムベク直チニ之ガ工事に着手スルコト
- 一 申立人等ガ相手方等ヨリ小作シ居ル土地ノ内右溜池ノ復舊工事完成ニ至ル迄田地トシテ耕作スルコトヲ得ザル土地ニ付テハ本縣耕地課ノ指定ニ從ヒ犧牲田トシ前記工事完成シ從前ノ状態ニ復スル迄之ヲ畑地ト看做シ之ガ小作料トシテ申立人等ヨリ相手方等ニ對シ各其ノ小作スル地所ニ應ジ舊歩一步ニ付玄米一合宛ヲ毎年十二月十日迄ニ支拂フコト
- 一 申立人等ハ昭和四年度分ヨリ毎年十二月十日迄ニ本村内又ハ黑河村農業倉庫ノ内相手方等ノ指定



シタル場所ニ各自小作シ居ル土地ノ小作米ヲ納入スルコト

相手方等ハ申立人等ガ右期日迄ニ本村産丙玄米ヲ以テ小作料ヲ支拂ヒタル時ハ該小作米一石ニ付キ丙玄米一升宛ヲ交付シ若シ乙玄米以上ヲ以テ支拂ヒタル時ハ該納入米ト丙米トノ價格ノ差額ヲ更ニ交付シ丁米以下ヲ以テシタル時ハ丙米トノ價格ノ差額ヲ申立人等ニ於テ相手方ニ増納スルコト但シ縣又ハ村ニ於テ之ニ付定メヲ爲シタル時ハ之ニ從フ

一 相手方等ニシテ申立人等ヨリ帽子米ヲ增收シ居ルモノアル時ハ調査ノ上双方ニ於テ帽子米ナルコトノ明白トナリタルモノハ昭和四年度分ヨリ徴收セズ之ヲ撤廢スルコト

一 相手方等ハ正當ノ理由ナクシテ申立人等ノ小作地ヲ取上ゲザルコト之ヲ取上ゲル場合ニ於テハ相手方等ハ其ノ地所ノ一年分ノ小作米ニ相當スル金額ヲ申立人等ニ支給スルコト、但シ特別ノ事情アル時ハ相當ノ範圍ニ於テ之ヲ増減シ又ハ支給セザルモノトス

一 申立人等ハ正當ノ理由ナクシテ小作地ヲ返還セザルコト、若シ之ヲ返還セントスル時ハ相手方等ニ對シ其ノ地所ノ一年分ノ小作料ニ相當スル金額ヲ支拂フコト、但シ特別ノ事情アル時ハ相當ノ範圍ニ於テ之ヲ増減又ハ支拂ハザルモノトス

一六 福井縣吉田郡圓山西村開發 (農作物被害補償金賠償)

爭議發生 昭和四年一月二十日

調停申立 昭和四年二月二十一日

解決 昭和四年四月二十七日

關係人員 爭議 地主 三十四人 小作人 十八人

調停 右ニ同シ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 三町二反六畝六步 畑 三反二十三步

調停 右ニ同シ

(一) 爭議ノ概況

昭和三年十月福井縣坂井郡三國町三國芦原電氣鐵道株式會社ハ現ニ小作人等ガ小作スル土地ニ接近シ又ハ該土地中ニ高サ二丈四尺餘ノ土盛工事ヲ爲シ鐵道ヲ敷設シタル爲耕作上交通不便ハ勿論通風採光惡シク自然農作物ノ被害アリ且ツ土地ノ價值減損スル理由ヲ以テ四年一月關係土地所有者ハ會社ニ對シ農作物被害補償金ヲ請求シタル處會社ハ田地ノ被害程度ニ應ジ一坪ニ付拾錢、四拾五錢、壹圓貳拾錢ノ三段ニ分チ補償金總額參千六百圓ヲ交付シタリ然ルニ地主ハ任意ニ之ヲ處分シタルニ依リ小作人ハ其ノ補償金分與ヲ地主ニ要求シ紛議ヲ生ジタリ

地主ハ補償金分配ニ關シ協議會ヲ開キ小作人ノ參加ヲ許サズ會社ヨリ受領シタル補償金ハ各關係土地所有反別ニ應ジ分配シ補償金ノ金利ハ年利四分八厘トシ其ノ利子ノ十分ノ六ヲ各小作人ニ給與シ給



與金ハ米ニ換算シ其ノ關係土地ノ小作料ト相殺シ換算ハ一石ニ付金四拾圓トナシ之ヲ小作者ニ公表シタリ小作人ハ補償金ハ地主ノミ收得スル理由ナク農作物被害補償ナレバ地主小作人等分スベキガ至當ナリトシ地主ノ給與金利子受領ヲ拒ミタリ其ノ後地主小作人數回交渉ヲ試ミタルモ妥協セズ益々紛糾スルニ至レリ而シテ小作人ハ當初ノ要求ヲ翻シ給與ヲ受クベキ金額ハ補償金ニ對スル年六分五厘ノ利率ニ依リ算出シタル全額トシ之ヲ小作料ト相殺シ換算ハ時價一石ニ付金貳拾五圓ヲ以テスルコトヲ主張シタルモ地主之ニ應ゼズ故ニ小作人ハ合法的裁定ニ依ルノ外ナシトシ小作人十八名ハ昭和四年二月二十一日福井地方裁判所へ調停ヲ申立タリ

(一) 調停ノ經過

昭和四年三月二十五日第一回調停委員會ヲ開催セルモ双方ノ主張鞏固ニシテ互譲セズ依テ其ノ後双方ノ主張ニ鑑ミ小作官補及委員ハ非公式ニ地主小作人全員ノ會合ヲ求メ調停腹案ヲ示シ極力調停シタル處解決ノ可能性アルヲ見出シタルニ依リ四月十一日第二回調停委員會ヲ開キ調停ノ結果地主小作人ハ調停委員會ニ無條件ヲ以テ一任スルコト、ナリタリ次デ四月二十七日調停委員會ヲ開キ種々協議ノ結果終ニ左ノ調停條項ニ因リ圓滿ニ解決シタリ

(二) 結 末

調 停 條 項

- 一 別紙目錄(省略)表示ノ本件耕地ニ付三國芦原電氣鐵道株式會社ヨリ支出シタル補償金ハ地主タル被申立人等ノ收得スベキモノナルコトヲ申立人等ニ於テ承認スルコト
- 一 被申立人ハ申立人等ノ小作料支拂ニ際シ右補償金ニ對スル年四分八厘ノ利率ニヨリ算出シタル金ノ十分ノ六ヲ各小作人タル申立人ニ給與スルコト
- 但當事者ノ小作關係ガ消滅シタルトキハ爾後支給セズ
- 一 右給與金ハ米ニ換算シ其年申立人ヨリ支拂フベキ小作料ト相殺スルコト
- 換算ハ一石ニ付金參拾四圓ト定ム
- 相殺ノ結果小作料ガ全部消滅スル場合ハ第二項ノ給與額ハ其小作料ノ限度ニ止メ被申立人ヨリ其差額ヲ支給スルニ及バザルコト
- 一 被申立人一同ハ申立人ニ對シ第一項ノ補償金中ヨリ金百貳拾圓ヲ昭和四年四月三十日限り給與スルコト
- 一 本調停費用ハ各自辨トス

一七 山梨縣南都留郡忍野村 (永小作權一部存續、一部解除)

爭議發生 昭和四年三月

調停申立 昭和四年五月二十三日



解 決 昭和四年七月二十七日

關係人員 爭議 地主 一人(村有) 小作人 一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 原野 十七町二反一畝(實測面積三十六町一反)

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

申立人タル永小作人ハ本件土地ニ大正四年十月永小作權ヲ設定シ爾來開墾耕地整理ニ從事セル處永小作權設定契約書ノ第三項「開墾事業着手ノ時ヨリ滿五ケ年ヲ經テ開墾ヲ終了セザルトキハ借受ノ權利ヲ失却スルモノトス」ニ違背シタルヲ以テ相手方ハ永小作權登記抹消竝ニ土地引渡請求訴訟ヲ提起シタル爲メ永小作人ハ調停ノ申立ヲ爲シタリ(參考ノ爲調停申立書ノ全文ヲ左ニ附記ス)

調停申立書

南都留郡忍野村 申立人 後藤 某

右代理人辯護士 長田 某

同郡同村 相手方 忍野 村

右法律上代理人同村長 天野 某

申立ノ趣旨

一、係争ノ土地ニ對シ永小作權ノ存續セラレンコトノ承認ヲ求ムルニアリ

爭議ノ目的タル土地ノ表示

南都留郡忍野村内野地内

第二百十番

一、原野 二町一反六畝十三步 外二筆

計 十七町二反一畝六步(耕地整理ニヨル實測面積三十六町一反一畝十一步)

爭議ノ實情

右ノ土地ニ對シ申立人及ビ相手方間ニ於テ大正四年十月十四日附ヲ以テ永小作權ヲ設定シ爾來申立人ニ於テ專心開墾耕地整理ニ從事セル處相手方村ハ永小作權設定契約書中第三項「開墾事業着手(即チ大正四年十二月)ノ時ヨリ滿五ケ年ヲ經テ開墾ヲ終了セザル時ハ借受ノ權利ヲ失却スルモノトス云々」ニ開墾期間ノ定メアルヲ奇貨トシテ申立人ニ對シ永小作權登記抹消竝ニ土地引渡請求訴訟ヲ提起シタルモ前述ノ土地ニ對シ申立人ガ開墾ニ志シタル事情ハ國家ノ食糧問題ニ其ノ基礎ヲ有シ村ノ福利増進ヲ目的トナセル申立人ガ畢生ノ事業ニシテ實ニ國家的の事業ナリ而シテ本件係争地ニ對シ必要ニシテ且ツ充分ナル使用水量ニハ既ニ自然的制限アルモノニシテ其ノ制限内ノ開墾ハ之ヲ終



了シヨリ以上ノ開墾耕地整理ハ事實上不可能ナルノミナラズ又監督官廳タル山梨縣ニ於テモ之ガ承認ヲ與ヘザル處ニシテ全ク何等收益ノ目的トナラザル處ノモノナリ、且相手方ニ於テ契約書中ノ條項ニ其ノ住民ニシテ宅地ニ希望アルモノニ對シテハ之レニ賃貸スベキ權限ヲ申立人ニ與ヘタルハ當時相手方村ニ於テモ全部ノ土地ニ對シテハ到底開墾シ能ハザル事情ノ存在シ居タル事實ヲ認メ居リタルニヨルコトヲ解シ得ベク尙且ツ申立人ガ今日ノ生活ノ實情ハ茅屋ニ居住シ第四階級以下ノ生活ニ甘ジ日毎足ラザルノ生活ヲ餘儀ナクセラレツ、アリ之レ蓋シ申立人ハ之レガ事業ニ着手以來其ノ心身ト財力ノ全部ヲ擧ゲ家庭生活ノ享樂ヲ犠牲ニシテ全ク文字通り畢生ノ努力ヲ盡シ奉公ノ誠ヲ至サント決意セル結果ニシテ一部反對論者ノ個人的感情論ノ如キ全ク採ルニ足ラザルトコロナリ萬一相手方ノ主張ガ適正ナリトシテ申立人ノ敗訴ニ歸センカ申立人竝ニ其ノ子孫ハ多額ノ債務ヲ擔ヒテ路上ニ呻吟セザルヲ得ズ申立人ガ貧窮ノ限リヲ盡シテ應訴シツ、アル所以全ク此處ニ存スル次第何卒調停委員諸公ノ御判斷ヲ仰ギ是非共係争地ニ對シテハ永小作權ノ存續セラル、様正當ナル調停アラシコトヲ求ム

追テ右事件ハ甲府地方裁判所昭和四年(ワ)第四三號土地永小作權登記抹消竝ニ土地引渡請求事件トシテ係争中ニ有之候  
右申立候也

昭和四年五月二十三日

右申立人代理人 長 田 某

甲府地方裁判所御中

(二) 調停ノ經過

調停申立アルヤ小作官ハ直ニ現地ニ出張シテ村當局竝ニ申立人タル永小作人ニ面接シテ種々經過ヲ聽取スルト同時ニ實地ニ就キ詳細ナル調査ヲ遂ゲタリ而シテ第一回調停委員會ヲ四年六月八日午後一時ヨリ同村小學校ニ於テ開會セリ

先是小作官ハ調停主任判事ト本件ノ調停ニツキテハ屢々協議打合ヲ爲シ調停委員ノ指定其ノ他ノ必要ノ事項ハ慎重ナル研究調査ヲ爲シ縣ヨリモ二名ノ技術官ノ出席ヲ乞ヒ萬遺漏ナキヲ期セリ

第一回ノ委員會(六月八日)ニ於テハ申立人タル永小作人ハ申立書記載ト同旨趣ノ陳述ヲ爲セリ之ニ對シ相手方ハ申立人ノ希望ノ全部ヲ容ル、能ハザルモ相當ノ條件ナレバ妥協シタキ旨ヲ陳ベタリ於茲小作官ハ委員會ニ對シ爭議ノ實情及意見ヲ述ベテ委員ト調停方針ヲ熟議シ大要左ノ如キ成案ヲ得タリ

一 申立人ガ事實上開墾シタル土地ヲ標準トシテ之ニ若干ノ未開墾地ヲ加ヘ相當ノ條件ヲ以テ申立人ノ永小作權ヲ承認スルコト

一 新ニ永小作權ヲ認ムル土地ニ對シ給水スベキ水量ニ付テハ曩ニ協定シアリタル係争地全部ニ對



シ給スベキ水量ノ比率ヲ以テ之ヲ定ムルコト

一 申立人ガ開墾ニ要シタル費用ニシテ他ヨリ借用シタルモノニ就テハ之ガ償却ニ付キ適當ノ方法ヲ講ズルコト

右案ニ基キ調停ニ移ルヤ永小作人ハ調停手續上調停委員ヲ増加セラレタキ旨希望シタルヲ委員モ之ニ同意シタルヲ以テ主任判事ハ調停委員ノ増員ニ付キ考慮ノ上決定スベキ旨ヲ告ゲ第一回委員會ヲ閉會セリ

第二回委員會(六月二十九日)ハ前回ニ於ケル小作人ノ希望ヲ容レ二名ノ委員ヲ増加シテ六名トナシ前回ニ引續キ調停ニ努メタリ然ルニ當事者ハ互ニ自説ヲ固持シテ妥協ノ色更ニナク調停案ニ基ク成立困難トナレリ依テ委員會ハ再ビ調停案ヲ作り之ヲ兩者ニ提示シテ極力讓歩ヲ勸説セリ於茲相手方代理人タル村長ハ委員會ノ調停案ニ對シテハ村會ニ諮ル要アルニヨリ暫ク猶豫セラレタキ旨ヲ申出デタリ又申立人タル永小作人モ尙熟考セシメラレタキ旨ヲ願出デアリタルヲ以テ之ヲ諒トシテ第二回委員會ヲ閉會セリ

第二回調停委員會調停案

- 一 永小作權ヲ存續セシムベキ土地ハ開墾完了シタル土地ニ未開墾地約二町八九反歩ヲ加フルコト
- 一 申立人ガ本件土地開墾ノ爲メ負ヒタル債務ニ對シテハ縣ヨリ下附セラルベキ開墾助成金ノ内約三

割ヲ支拂充當スルコト

越エテ七月廿四日申立人ハ委員會ニ左ノ上申書ヲ差出セリ

上 申 書

後 藤 某

今回忍野村對拙者ニ係ル永小作繼續問題御調停ニ於テハ多大ノ御努力ニ預リ誠ニ難有奉存候調停委員皆様方ノ公平判斷ニ依リ御定メ被下候條項ニ對シテハ異議申サズ伏從仕候事ニ決意致候間可然御下命願度候然シテ今後小作地自衛上完全ナル維持ヲ致度ニ付左ノ條項ヲ新契約ニ御加へ被下度追加上申仕リ候

條 項

- 一 永小作年限後相當小作料ヲ以テ優先貸付權利ヲ附與スルコト、灌漑水ハ今後問題ノ起ラザル様最善ノ御考慮ヲ煩シタキコト、第三條項タル解決ニ付負擔スベキ金圓問題ハ性質上拙者ノ支辨ナスベキモノニ無之ニ付キ拙者今後小作地自衛維持費及ビ當然支拂フベキ借入金多大有之候故最低壹割五分最高貳割ヲ限度トシテ可然御取計願タキコト

右第三回調停委員會ニ先チ御考慮ヲ煩度上申仕候也

昭和四年七月二十四日



右 後 藤 某

調停委員主任 柚 木 某殿

次デ相手方タル村代理者ヨリ左記村會ノ決議文ノ提出アリタルヲ以テ愈々調停ノ成立曙光ニ接シ頗ル期待ヲ持シテ第三回委員會ヲ開クコト、ナレリ

決 議 文

議第五四號

上村、永小作權登記抹消竝ニ土地引渡訴訟ヲ小作調停法ニ依リシ報告竝調定方法ニ關シ議定ノ件  
昭和四年二月二十三日ノ村會ノ議決ニ依リ土地永小作權登記抹消竝土地引渡請求訴訟ヲ甲府地方裁判所ニ提起シタルモ被告後藤某ノ申出アリタル旨ニ依リ甲府地方裁判所ヨリ小作調停方法ニヨリ事件ヲ解決セラルベキ通知ヲ受ケ該方法ヲ最モ穩當ト認メ之レニテ地方裁判所判事立合ノ上忍野小學校及福地村登記出張所ニ於テ調停委員會ヲ開催セリ

向後本件ニ依リ解決ヲ進捗スルヲ至極至當ノ方法ナルニヨリ右一切ノ方法ヲ村長ニ一任ス

昭和四年七月十三日決議

忍野村長 天 野 某

右臆本ナリ

昭和四年七月三十日

忍野村長 天 野 某

第三回委員會(七月二十七日)ニ於テハ兩者ハ前回ノ調停案ニ略同意シタルモノ、如ク調停委員會ニ對シテハ飽迄妥協的ノ態度ヲ執リ遂ニ左記條項ヲ以テ圓滿解決スルコト、ナレリ

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方忍野村ハ申立人後藤某ニ對シ大正四年十月十四日永小作權ヲ設定シタル忍野村内野地内ノ土地ノ内附屬圖中斜線ヲ以テ表示シタル部分ニ付テ永小作權ヲ存續セシメ其餘ノ土地ニ對シテハ合意ノ上永小作契約ヲ解除シ申立人ハ直ニ其部分ノ土地ヲ返還スルコト(但附屬圖ハ省略)
- 二 申立人ハ永小作地ニ對シ向後十五ヶ年以内ニ開墾(宅地ヲ含ム)ヲ完成スル事若シ右期間内ニ開墾完成ニ至ラザル部分ニ對シ一ヶ年一町歩ニ付金拾圓ノ割合ニ依ル違約金ヲ相手方ニ支拂フコト
- 三 申立人ハ大正六年三月二十五日南都留郡谷村町二百九十一番戸渡邊某ニ對シ設定シタル永小作權ヲ目的トスル債權額金參千六百六拾圓ノ抵當權中上ノ項永小作契約ヲ解除シタル部分ニ對スル抵當權ハ直ニ抹消登記手續ヲナスコト
- 四 前第一項永小作權ヲ存續セシメタル土地ニ對シ申立人ガ灌漑及雜用水トシテ引水スベキ流量ハ内



野用水ノ流量二十五個（一個ハ每秒一立方尺ノ水量トス）アルトキハ最大限三、五個迄トシ流量十個以上ヲ算スルトキハ十個ヲ超過スル流量ノ二分五厘トス右引水期間ハ四月二十一日ヨリ八月十日迄トス

一八 山梨縣中巨摩郡落合村

（小作料一時的減額  
小作契約繼續）

爭議發生 昭和四年七月四日

調停申立 昭和五年一月二十四日

同二月十二日

同三月十八日

同五月十五日

解決

調停成立 昭和五年六月二日

示談成立 同年五月十三日

關係人員

爭議 地主 二十人

小作人 四百人

調停 地主 五人

小作人 十人（小作人申立）

關係土地

爭議 田 六十五町

畑 六十町

調停 田 二反三畝二十五步

畑 一町七反四畝十九步

（一） 爭議ノ概況

昭和三年度畑小作料ニ關シ昭和四年七月爭議發生シ小作人側ハ小作料一割乃至三割減額ヲ要求シタルニ地主側ハ之ヲ拒絕シ、未解決ノ儘ニアリタルガ同年末ニ至リ稻作ニ付キ小作人側ハ小作料六割減

額ヲ要求シ地主ガ之ヲ拒絕スルニ及ビ納入スベキ米ヲ賣却シテ持久戰ニ入レリ、於茲地主側ハ小作人側ノ主謀者ニ對シ小作料支拂ノ催告ヲ爲シ一部小作人ハ調停ヲ申立テタルモ農民組合員ハ少年團員ヲシテ毎年少年達ノ所得トヘル神社境内ノ梅實ヲ採取セル地主宅ニ投石セシメ又農民組合青年部員ト地主側青年團員トガ盆踊ニ際シ衝突セントセシガ之ガ動機トナリ農民組合青年部員ハ地主側ノ居宅ヲ襲ヒテ暴行ヲ爲シ十五名ノ檢舉ヲ見タルガ如キ事件ヲ惹起スルニ至レリ、其ノ間所轄警察署長ハ爭議解決ニ斡旋シタルタメ解決ヲ見該解決案ヲ骨子トシテ合意調停申立ヲ爲ス豫定ニアリタリ

（二） 調停ノ經過

一般解決ニ先ジ一部申立事件ノ調停ニ際シ現地ニ於テ調停委員會ヲ開催セルニ農民組合員數百名ハ赤旗ヲ擁シテ示威運動ヲ爲シタルタメ調停中止ノ止ムナキニ至リ更ニ小作人側ハ當日委員會ニ臨席セル村長ノ態度ガ地主側擁護ニ傾キタルニ反感ヲ持チ其ノ歸途暴行ヲ加ヘ、尙村長辭職ニ伴ヒテ小作人側村長ヲ選出スル等ノ策動ヲ爲ス處アリタルモ調停委員會ヲ重ネタル結果左記條件ニテ解決セリ

（三） 結 末

調停 條 項

一（一） 各相手方ハ各申立人ニ對シ別表記載ノ土地ヲ同表記載ノ賃貸料ヲ以テ昭和五年度ヨリ同七年度迄向フ三ヶ年間賃貸耕作セシムルコト（別表省略）



但右期間満了ノ場合ニ於テ當事者協定ノ上期間ヲ延長シ又ハ契約ヲ更新スルコトヲ得

(二) 田小作料ハ其年十二月二十五日限支拂フコト

(三) 畑小作料ノ納入期日ハ其年ノ十二月末日トス

但右期日迄ニ全額ヲ支拂フコト能ハザル場合ハ一部ノ支拂ヲ爲シ其ノ殘額ニ付其支拂ヲ翌年六月三十日迄猶豫ヲ求ムルコトヲ得

(四) 宅地小作料ハ入附額ノ一割五分引トシ特別契約ニ依ル土地ニ付テハ減免ヲ行ハズ

(五) 前項ノ期間内ハ作物ノ豊凶アルモ小作料ノ減免ヲ行ハズ

但天災地變等不可抗力ニ依リテ收穫物ガ別表記載ノ小作料額ノ十五割ニ達セザル場合ニ於テハ双方協定ノ上減免率ヲ定ムルコト但收穫量ニ付争アルトキハ農業技術者ノ立會ヲ求メテ之ヲ決定シ右小作料ノ減免率ニ付協議調ハザルトキハ山梨縣小作官ノ裁定ニ據ル

二(一) 昭和四年度田小作料ハ入附額ノ五割引トス

(二) 昭和三、四年度畑小作料ハ二ヶ年入附額ノ九割五分納トス

(三) 各申立人ハ各相手方ニ對シ昭和四年度田小作料及昭和三、四年度畑小作料ヲ昭和五年六月三十日迄ニ支拂フコト但昭和四年度田小作料ハ粃一俵ヲ金七圓二十錢ニ換算シタル金額ヲ支拂フモノトス

三(一) 各申立人ニシテ各相手方ニ對シ昭和三年度以前ノ田小作料又ハ昭和二年度以前ノ畑小作料ノ支拂分アル者ハ其未支拂額ヲ三分シ昭和五年十二月末日、昭和六年十二月末日、昭和七年十二月末日限リ其一宛ヲ支拂フコト

四 地主ハ小作者ニ於テ前各項ノ條項ニ對シ不履行ノ場合ハ土地ノ返還ヲ要求スルコトアルベシ

一九 長野縣更級郡力石村

(小作權賠償、一部小作契約繼續)

爭議發生 昭和四年十一月十日

調停申立 昭和四年十一月十九日

解決 昭和四年十二月十三日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 一人 利害關係人 一人

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

爭議 田 二反二畝十四步

關係土地 調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

申立人タル小作人ハ前記關係土地ノ内一反二十七步ヲ今ヨリ約五十年前借受ケ小作ヲ繼續シ來リタレドモ小作料ヲ滯納シタルコトナシ然ルニ相手方地主ハ十一月十日内容證明郵便ヲ以テ土地返還ヲ要



求シ來リタルヲ以テ小作人ハ翌十二日直ニ其ノ要求ニ應ジ難キ旨内容證明郵便ヲ以テ拒絕シタルニ地主ハ重ネテ返地ヲ要求シ來リ又前記關係土地ノ内一反一畝十七步ハ埴科郡坂城町宮島某ガ地主ヨリ借受ケ小作シ居リタルモノナル處同人ハ地主ノ承諾ヲ得タリトテ十月十日小作人トノ間ニ麥蒔付ノ儘小作權ヲ金五十圓ニテ讓渡契約ヲナシタリ依ツテ小作人ハ地主ニ對シ右讓渡契約ニヨリ爾後小作人ニ於テ小作スベキ旨ヲ通知シタルニ地主ハ之ヲ承諾セザルノミナラズ之ヲモ併セテ返地スベシト要求シタルヲ以テ小作人ヨリ調停法ニヨリ調停ノ申立ヲナシタルモノナリ

(一) 調停ノ經過

調停ノ申立アリタルヲ以テ實情調査ヲナシ調停委員二名ヲ指定シ十二月十二日長野地方裁判所ニ於テ第一回調停委員會ヲ開催シ調停ヲ試ミタル結果圓滿解決ヲ告ゲタリ

(二) 結 末

調 停 條 項

- 一 申立人ハ相手方ニ對シ係争地ノ内長野縣更級郡力石村字大師免四百四十一番田一反一畝十七步ヲ昭和五年六月三十日限り返還スルコト
- 但シ現ニ作付ケタル麥ハ申立人ニ於テ之ヲ收穫スルコト
- 一 相手方ハ申立人ニ對シ係争地ノ内長野縣更級郡力石村字大師免四百四十二番田一反二十七步ヲ

從來通り繼續小作セシムルコト

但シ小作料ハ粃七俵トス

- 一 相手方ハ申立人ニ對シ昭和四年十二月十五日利害關係人(宮島某)ノ手ヲ經テ金三十二圓ヲ支拂フコト
- 一 利害關係人ハ申立人ニ對シ昭和四年十二月十五日金十八圓ヲ支拂フコト

二〇 岐阜縣海津郡吉里村大字鹿野 (小作人土地買受)

爭議發生 昭和三年四月二十六日

調停申立 昭和四年一月七日

解 決 昭和四年十一月十三日

關係人員

爭議	地主	一人	小作人	三十三人
調停	右ニ同ジ	(小作人申立)		

關係土地

爭議	田	五町九反六畝十一步	畑	一町三畝廿二步	宅地	四段廿六步半
調停	右ニ同ジ					

(一) 爭議ノ概況

昭和三年四月地主ハ年々爭議ノ煩ニ堪エザルト家政ノ都合上其ノ所有土地全部ヲ仲買人ニ賣却セシ



コトヲ探知シタル小作人等ハ直チニ地主ニ付其ノ眞否ヲ糺シタルニ之ヲ否認シタルガ如キモ事實ハ既ニ仲買人ト陰密裡ニ協商ヲ遂ゲ賣買契約ノ上手付金五千圓ヲ授受セリ依テ大正十五年ノ覺書ニ基キ地主ハ都合上土地ヲ賣却スル場合ハ其ノ旨小作人ニ通知スル約定アリシニ一片ノ通知ヲ發セズ處分シタルハ背德行爲ニ付賣買契約ヲ取消シ直接小作人ニ讓渡セラル、様交渉シタルモ地主ハ毫モ顧ミザルヲ以テ窮地ニ陥リ農民組合本部ノ應援ヲ得テ種々對策ヲ講ジタル後小作官ヲ訪レ小作人ノ死活問題ニ付速ニ解決ヲ遂ゲ安ンジテ農耕ニ従事シ得ラル、様調停方依頼セシヲ以テ不取敢調停ノ申立ヲ德憑シ同年七月二日第一回ノ申立ヲ爲シ事件ノ進行上十月十六日一應之ヲ取下ゲ昭和四年一月七日第二回申立ヲ爲シタリ

### (二) 調停ノ經過

#### 第一回調停

昭和三年七月十九日調停手續ヲ開始シタルニ小作人ハ前記ノ如ク契約ヲ無視シタル地主ノ不誠意ヲ詰リ白紙ニ還元スベキヲ要求シ地主ハ之ヲ破棄スルガ如キハ絶對ニ不可能ナリト主張シ次回ニハ小作人ヨリ從來通り耕作ヲ繼續セシムルコト能ハザレバ仲買人ニ賣却セシ價格ヨリ低廉且ツ年賦ニテ讓渡セラレ度キ旨申出タレバ當日ノ參加人タル買主ノ意見ヲ徵シタルニ既ニ約四町歩ハ他ニ轉賣シ殘地ニ對シテハ相當ノ利得アラザレバ賣却シ難シト強硬ニ主張シ調停進行セザルヲ以テ小作官及委員ハ事實

上ノ調停ニ依リ局面轉回セムト下方ニテ數度ニ亘リ調停ニ努力シタリ小作側ハ仲買人ハ資力乏シク資金ノ調達不可能ニシテ到底一時ニ皆済スルノ見込ナク又他ニモ買手ナキ見込ナルヲ以テ會社ト仲買人ト賣買契約ヲ直チニ履行スベク交渉シ反面小作人ニ買取ル様會社ノ顧問ト交渉セラレ度キ旨ヲ述べタルヲ以テ顧問ト折衝シタル結果

一 會社ハ契約濟ノ土地代金全部ヲ一時ニ支拂フト同時ニ賣買登記ヲ完了スル様買受人ニ通告スルコト

二 前項ニ依リ賣買契約履行セラル、モ小作人ハ會社ニ何等ノ苦情ヲ申出ザルコト

三 第一項ノ通告ヲ發シタル後十五日以内ニ之ヲ履行セザルトキハ地主ハ直チニ賣買契約ヲ解除スルコト

四 前項ニ依リ賣買契約解除ノ場合ハ小作人ニ賣渡シ他ニ賣却セザルコト

如上兩者ノ協定漸ク成立シ十月十六日地主對仲買人トノ契約履行關係上一應小作人ハ調停ヲ取下ゲタリ

#### 第二回調停

前記ノ協定ニ基キ地主ハ十月十八日買主ニ契約履行ノ通告ヲ發シタルニ仲買人ハ狼狽シタルモ萬一之ヲ引受ケザレバ小作人ヲ徒ラニ増長セシメ將來土地ノ賣買ニ影響スル處甚大ナルヲ虞レ他ノ地主ハ



金融ノ途ヲ講ジテ極力仲買人ヲ援助シ遂ニ同月三十日右契約ヲ履行シタリトテ十一月十五日ヨリ登記手續ニ着手セリ

三〇八

然ルニ事實轉買人が買受ケタル土地ハ僅ニ二町一反歩ヲ登記シタルノミニテ他ハ一時留保セリ依テ小作人ハ翌年一月七日會社ヲ相手方トシテ賣買契約ヲ解除シ小作人トノ契約履行ヲ促スベク殘餘ノ土地ニ對シ第二回ノ調停ヲ申立テタリ

次デ同年一月十六日轉買人ハ小作人ニ對シ購入地ノ明渡請求訴訟ヲ提起セシカバ小作人ハ直チニ耕作繼續ノ調停ヲ申立テタリ

第二回申立事件ハ會社ヨリ小作人ニ買取ラシムベク極力調停ノ進行ニ努メタルガ會社ハ既ニ事實上賣却處分セシトテ調停ニ應ゼズ仲買人モ調停ヲ回避シ遲々トシテ拂ラザリシモ調停委員會ノ熱誠ハ遂ニ相手方ヲシテ小作人ニ買取ラシムルコトニ同意セシメ參加人モ借受資金ハ高利ニシテ爭議遷延ノ不利ナルヲ覺リ購入原價ヲ以テ讓渡スルコトヲ承諾スルニ至リ調停委員會ヲ開クコト七度其ノ間紆餘曲折ヲ見タル本件モ遂ニ十一月八日ニ至リ別紙條項ニ依リ調停成立シ昭和四年度自作農創設資金一萬六千圓ヲ借受ケ一括シテ自作農地ヲ取得セリ

第三者ガ買受ケ登記シタル土地ハ本件ノ解決ニ依リ小作人ト仲買人トノ感情融和シ繫争地ハ相手方ニ返還シ代地ヲ他ノ地主ヨリ借受ケ下方ニテ示談成立シ昭和五年三月十一日調停ヲ取下ゲ本件ノ終局

ヲ見タリ

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 別紙目錄ノ土地ハ參加人阿木某、伊藤某ヨリ申立人ニ反當リ代金五百貳拾五圓(堀潰地ハ無代償)ヲ以テ賣渡スコト
- 二 申立人ハ賣買契約ノ手附金トシテ參加人ニ金三千圓ヲ昭和四年十一月十五日迄ニ交付スルコト
- 三 前項ノ手附金ハ買受土地全部ノ賣買登記手續完了迄差入レ置キ最後ノ賣買登記ノ際差引計算スルコト
- 四 申立人ハ參加人ニ對シ賣買代金ノ全額ヲ昭和七年三月末日迄ニ賣買登記申請ノ都度同時ニ支拂フコト
- 五 前項ノ期間内ニ申立人ガ手附金ノ外各筆ニ對スル其買受代金全額ヲ支拂フトキハ參加人ハ其各筆ニ對シ漸次所有權移轉ノ登記ニ應ズルコト
- 六 本買受ニ付テハ可成申立人ガ各々其現小作地ヲ買受クル豫定ナルモ申立人中萬一買受困難ナル事情アル者アルトキハ該申立人ノ指定スル者ニ所有權ヲ移轉スルコト
- 七 別紙目錄(省略)ノ土地ニ付テハ參加人ハ申立人トノ間ニ爲シタル小作契約ノ外抵當權其他收益



ヲ害スル物權ノ設定ナキハ勿論昭和七年三月末日迄ハ之ヲ設定セザルコト  
八 相手方ハ申立人ヨリ現在小作地ノ區劃ニ依リ分筆ヲ要求スルトキハ之ガ分筆手續ヲ爲スコト竝ニ  
參加人ハ之ガ分筆手續ニ努力スルコト

九 申立人ハ昭和五年四月後ノ殘地ノ利子勘定ハ手附金額ヲ控除シタル殘金ニ對シ百圓ニ付日歩金貳  
錢五厘ノ割合ヲ以テ毎年一月末日限り參加人ニ支拂フモノトス此ノ方法ハ殘地ニ對スル別紙目錄記  
載ノ掟米ニ一反ニ付玄米一斗ヲ増シタルモノ（但畑掟米ニ付テハ麥小作料ハ増加セザルコト）ヲ代  
金納トシ（吉里村金納相場）之レト税金及利子ト相殺ヲ爲シ不足ヲ生ズルトキハ不足金ハ參加人ト  
申立人ト折半負擔スルモノトス

十 所有權移轉ニ要スル登記料ハ申立人ニ於テ負擔スルコト

十一 當事者間ニ背信ノ行爲ナキコト

十二 本調停ニ要シタル費用ハ各自負擔スルコト

十三 申立人ハ參加人ニ對シ昭和四年度掟米ハ別紙目錄記載ノ額ヲ同五年一月末日限り支拂フコト若  
シ玄米ヲ以テ支拂フコト能ハザルトキハ吉里村金納相場ニ換算シタル金額ヲ支拂フコト

備考 別紙目錄ハ省略、但同日錄記載土地ハ總筆數百二十四筆、總反別四町一反四畝二歩ナリ

### 二一 静岡縣濱名郡曳馬村大字上ノ島（小作人土地買受）

爭議發生 昭和三年十月下旬

調停申立 昭和四年一月九日及同年二月二十日

解決 昭和四年二月二十日

關係人員 爭議 地主 十人 小作人 二十五人

調停 右ニ同ジ（小作人及合意申立）

關係土地 爭議 畑 十四町五反六畝十四歩 宅地 二千二百四十一坪四合一勺

調停 右ニ同ジ

#### (一) 爭議ノ概況

##### 一、係争地ノ沿革

係争地ハ濱松市外三方原ノ地域内姫街道ニ接スル部分ニシテ開墾後二十數年ヲ經過シタル小作地畑  
十五町ニ若干ノ宅地ヲ含ム該地所ハ原野ヲ加ヘ公簿面積四十八町歩、實測九十一町餘（内私設道路ヲ  
除ケバ八十餘町歩）ノ一團ノ土地ニシテ東側一帶ハ三方原ヲ貫通スル縣道ニ接シ略三角形ヲナス地ニ  
シテ明治二十年頃小笠郡掛川町山崎家（縣下ニ於ケル大地主）ニテ四五千圓ニテ某ヨリ買受ケタル土  
地ニシテ買取當時地上ノ松材ヲ伐採シテ買値以上ノ收益ヲ得タリト傳ヘラル開墾セル小作地ハ當初反  
當一圓大正十五年ニ至リ反當二圓トシ爾後周圍ノ土地ノ小作料額ニ匹敵スルニ至ル迄ハ三年毎ニ増額



スルコトヲ以テ示談整ヒ昭和二、三年度ハ反當四圓ヲ納入シタリ現小作人二十五人ノ内開墾當初ヨリ定住セル者十二、三人ニシテ他ハ小作權利金ヲ前小作人ニ支拂ヒテ定住スルニ至レルモノニシテ開墾地ノ小作權利金ハ同地方ニ廣ク行ハル、慣行ナリ土地賣買價額ハ自作地ノ賣買ト小作付地所ノ賣買トノ間ノ價額ノ差ハコノ權利金ノ時價ニ相當スル差額ト考ヘラルコノ賣買ノ事例ハ三方原一帶ニ從前ヨリ行ハル、所ナリ本件係争小作人中ノ最モ新シク支拂ヒタル小作權利金ハ反當百圓ナリト稱ス

## 二、係争地ノ土地利用狀況

開墾當初ヨリ同所ニ定住ノ目的ヲ以テ他ヨリ移住シ來レル農家ナルヲ以テ同所ニ家屋ヲ構ヘ何レモ若干ノ宅地ヲ農場ノ一部ニ設ケ畑ハ桑園、茶園ヲ主トシテ目下少許ノ果樹類ヲ栽植シ他ハ素畑ナリ

## 三、争議ノ原因

昭和三年十月頃コノ曳馬村ノ山崎家所有ノ土地ヲ一括シテ賣却スル向ノ風聞小作人ニ傳リテヨリ小作人小杉曳馬村長ニ對シテ該土地ガ他ニ賣却セラレテハ困難ナル旨ヲ訴ヘタルヨリ十月二十八日村長ハ小作代表ト共ニ山崎家ニ真相ヲ質シタルニ山崎家ヨリハ管理者高林氏ト交渉セラレタシト答ヘタリコノ際村長ハ賣却ヲナストモ從前ノ小作人ハ除外セス様注意ヲナシ歸村シタルガ當時ハ既ニ該地所ノ賣約成立シ居リタリ

## 四、争議ノ經過

當時濱松市會議長鈴木某ハ該地所ヲ買取り之ヲ分割賣却スル場合ハ相當利益アルコトニ着目シ濱松市ノ商人辯護士某某等數人共同シテ之レヲ買取ル爲ニ之等ノ者ニ出資セシメ自己ノ名ヲ以テ山崎家ト交渉ヲ行ヒ全部ノ土地ヲ八萬二千圓トシ内渡金二萬圓ヲ支拂ヒ殘金ハ分割賣却スル爲分筆登記ヲナシテ處分後購入者ノ名義ヲ以テ登記スルコトニ契約ヲナシタリ、小作人ハ地主ノ言ニ依リ同小作地ノ管理人積志村高林某ニ交渉ヲナシタル處管理人ヲ介シテ地主ハ所有地ノ整理ノ爲賣却スルヲ以テ分賣ヲ拒絕スルト共ニ賣約ノ契約ノ際小作人ニ對シテハ同情シテ貰フコト、從來ノ契約ハ尊重スルコトヲ條件トナシアルヲ以テ小作人ハ困難スルコトナカルベキモ當買受人鈴木某ト交渉セラレタシト挨拶ヲナシタリ、次デ小作人ハ管理人ヲ介シテ鈴木某ニ(一)從前通り永代小作セシメラレ度キコト(二)小作人ニ賣ルナラバ買値ニテ分讓セラレ度キコト(三)小作人ニ賣却不可能ナラバ耕作料一反百圓支給セラレ度キコトノ交渉ヲナシタルニ鈴木某ハ元ノ所有者ハ僅數千圓ニテ買取りタル地所ナルモ自分ハ今回多額ノ資金ヲ投ジ買取タルモノ故小作ニハ同情スルモ從前ノ契約ハ認メ難シ強イテ無理ノ要求ヲナスナラバ小作ヲ拒絕スル外ナシト強硬ナル態度ヲ示シタルヲ以テ小作人ハ十二月十一日掛川町山崎家ニ座リ込ムニ至リ曳馬村長モ再ビ同地ニ急行シ小作人ヲ諭シテ事件ノ解決ニ善處スル意氣ヲ示シ小作人ハ自分等ノ主張ヲ認メラル、ナラバ交渉ハ一切委任スルモ若シ不調トナル場合ハ自分等ハ自由行動ヲトルコトヲ條件トシテ歸村シタリ



斯テ曳馬村長ハ小作人ノ主張ニ基キ賣買兩者双方ノ同情ヲ得テ小作人ノ窮地ニ陥ルヲ救濟セントシ種々交渉ヲ續ケ遂ニ賣主山崎家モソノ解決ガ平和ニ行ハル、ナラバ小作人ニ對シテ相當ノ事ヲナスモ妨ゲザル旨ノ約ヲ得テ解決ヲ一任シタルモ買主側ハ曳馬村長ノ交渉ヲ拒絶シ實際出資者ノ一人ニシテ本件土地賣買ノ事務ニ當ル某ノ小作人ニ讓渡價格反當二百五十圓ト主張シタル爲遂ニ曳馬村長モ縣小作官ニ事情ヲ報告シテ小作人ノ名ヲ以テ買取名義人鈴木某ヲ相手方トシテ調停申立ヲナシタリ當時村長ノ案ハ小作人ニ對スル既墾地ノ讓渡價格ヲ反當百五十圓トシ小作人ハ百二十圓ヲ支拂ヒ山崎家ハ三十圓ヲ小作別レトシテ支出スルコトニアリタリ

### (一) 調停ノ經過

調停申立後小作人ハ三方原小作爭議團ナル名ノ下ニ社會民衆黨西遠支部、日本勞働總同盟西遠支部日本農民組合總同盟和地山支部應援ニテ三方原小作爭議真相發表演說會ヲ濱松市劇場、曳馬村地内等ニ開キ宣傳ビラヲ作製配布シテ世間ニ示シ同情ヲ惹カントシ地主側ハ小作人ノ團結ニ對抗シ事實上早クコノ開墾セル小作地ヲ他人ニ賣投ゲテ當初ノ目的ノ利益ヲ擧ゲントシ爭議團ガ不穩ナル行動ヲナスヲ以テ何等同情スベキ理由ナク法律上ノ權利者トシテ小作人ハ強制的ニモ立退カセ得ルモノナリト宣傳シテ種々術策ヲ用ヒタリ、裁判所ハ調停開始前爭議發生後ノ事情ヨリ見テ曳馬村長ヲ中心トシテ調停セシムルコトガ妥當ナル結果ヲ得ルモノトシテ曳馬村長ヲ勸解者トシテ小作官ト協力調停ニ努メシ得タリ

メ尙實地檢證ヲナシ小作人側ノ主張ヲ聽キ賣主側ノ關係者ヲ利害關係人トシテ調停ニ加ヘ買主タル關係者トノ間ニ妥當ナル解決ヲナスコトニ努メコノ間買主側ハ當初ノ目的ハ遂ニ實行シ得ザル状態トナリ小作人ニソノ開墾地ヲ賣却スルコトヲ同意スルニ至リ、小作人トノ間ノ賣買ハ買主タル鈴木某(事件發生後右名義ヲ島某ニ變更自分ハ本件ニ關係セザルコトヲ發表シタリ)トノ間ニ行ハズシテ山崎家ハ全體ノ賣却地ノ内小作ノ開墾シタル畑地ヲ除キ殘餘ノ原野ノミヲ賣却スルコト、シ賣買契約ヲ變更シ新ニ舊地主ト小作人トノ間ニ合意調停申立ヲナシテ賣約ヲ成立シテ小作人ノ當初ノ目的ヲ達スルヲ得タリ

### (三) 結 末

調停成立後モ小作人側ト新地主トノ間ニハ開墾セル土地ガ前地主トノ契約小作反別ヲ超ヘテ開墾シアリト稱シ自己ノ測量師ニ依リテ反別ノ改正ヲ強要シ從ツテ山崎家側トノ賣買契約トモ小作人側トノ交渉ニモ苦情白出スル状態ナリシモ昭和五年三月靜岡縣自作農創設維持資金ノ提供ニ依リ地主トノ間ノ境界争ヒモ双方妥協成立シ調停條項以外山崎家ハ小作人側ニ若干ノ金額ヲ支出シ小作人側ハ地主ノ主張スル境界トソノ増歩ニ對スル若干金ヲ提供シテ解決シタリ

### 調 停 條 項

第一 昭和四年(小調)第一號事件(小作人申立、相手方地主濱松市鈴木某調停中島某ニ於テ承繼ス)



- 一 相手方ハ申立人賃借ノ土地全部ヲ申立人ニ讓渡スルコトヲ承諾シ讓渡ノ土地ニ付テハ申立人ト土地名義人山崎某トノ協議ニ任セソノ賣買ニ異存ナキコト
  - 二 申立人ノ讓受クベキ土地ト相手方所有ノ土地トノ境界ハ昭和四年三月末日迄ニ當事者ハ小杉曳馬村長立會ノ下ニ實測ヲ爲シテ決定スルコト
  - 三 申立人ニ於テ従前小作關係ナキ土地ト雖モ當事者相互ノ便宜上申立人平野某ハ其小作セル西南側ヲ道路ニ接スル迄ノ部分申立人大石某ハ其小作セル土地ノ西北側ヲ道路ニ接スル迄ノ部分申立人橋本某ハ其小作セル土地ノ西北側ヲ道路ニ接スル迄ノ部分ヲ小杉曳馬村長立會ノ下ニ當事者ニ於テ土地賣買ノ協定ヲナスコト申立人小倉某、高田某ノ小作地ヲ貫通シテ現存スル道路ハ小杉曳馬村長立會ノ下ニ當事者ニ於テ變更ノ協定ヲナスコト
  - 以上ノ事項ノ協定ハ昭和四年三月末日迄ニ之ヲ爲スモノトス
  - 四 相手方所有ノ土地ニ現在存スル道路ハ將來モ之ヲ繼續シテ存置スルコト
- 第二 昭和四年(小調)第二號事件(舊地主、小作人合意申立)
- 一 申立人地主山崎某(以下甲ト稱ス)ハ申立人小作人鈴木某外二十四名(以下乙ト稱ス)ニ對シ従前ノ小作地ヲ現狀ノマ、賣渡スコト
  - 二 甲ハ乙ニ對シ宅地二千二百九十一坪四合二勺、畑十四町六反二畝七步五合、合計十五町三反八

畝十八步九合二勺ヲ反當百二十九圓ヲ以テ賣渡スコト

- 三 甲ハ乙ガ静岡縣自作農資金ヲ昭和四年度ニ於テ曳馬村ヨリ轉貸ヲ受ケテ土地代金ヲ支拂フモノナルコトヲ承諾ス

- 四 昭和五年三月末日限リ乙ガ土地代金ヲ支拂ハザル場合ハ甲ハ乙ガ静岡縣自作農創設維持資金ノ轉貸ヲ未ダ受ケザル場合ト雖モ其ノ期日以後ハ日步二錢三厘ノ延滞利息ヲ支拂フモノトス

- 五 若シ乙ガ静岡縣自作農創設維持資金ヲ昭和四年度ニ於テ曳馬村ヨリ轉貸ヲ受ケ得ザリシ場合若クハ乙ニ屬スルモノ、内ニアリテ買取リヲ取消ス者アル場合ニ於テ夫々其土地代金ヲ昭和五年三月末日限リ小杉曳馬村長ニ於テ甲ニ支拂フモノトス

- 六 乙ハ甲ヨリ買受土地ニ存在スル道路ハ従前ノ儘存置スルコト

二二 愛知縣碧海郡旭村大字伏見屋新田字中江 (小作人土地買受 優先權賠償)

爭議發生 不明

調停申立 昭和三年九月五日

解 決 昭和四年三月二十六日

關係人員 爭議 地主 一人 小作人 五十二人  
 調停 右ニ同ジ(小作人申立) 利害關係地主 七名



關係土地 爭議 田 四町八反九畝七步  
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本爭議ハ大地主ノ小作地賣却ニ基因スルモノニシテ小作人ニ對シテ小作地ノ買取方ヲ交渉シタレドモ小作人ハ小作權ノ價格ヲ控除シタル價格ヲ以テ買取ラムトシタル爲地主ハ小作人トノ直接交渉ヲ避ケ土地周旋業者ヲ介シテ有利ニ他ノ小作人ニ賣却セムトシタルモノナリ

抑々本件地方ノ耕地ノ成因ハ于拓ニ沿革スルモノニシテ「作權」賣買ノ慣習アル所ナリ明治三十一年民法施行セラル、ヤ當地方所々ニ永小作權ノ設定ヲ見タレドモ本件土地ニ付キテハ民法施行前ヨリ賃借證書ヲ以テ小作關係ヲ結ビタリ、本件地主ハ愛知縣屈指ノ大地主ニシテ農會產業組合其他各種ノ農事團體役員タリ、又曾テハ愛知縣農政研究會員ニシテ農村問題ニ付キテハ相當研究理解アル人ナリ從來小作人トノ間ニ表面極メテ圓滿ヲ裝ヒタレドモ小作人ノ團體的小作料減免要求ハ近年毎年ノ如ク繰返サレ相當ノ減額ヲ餘儀ナクセラレ此ノ情勢ト一般地主ノ小作料收得ノ趨勢ト小作料額ニ比シ土地價格高價ナルヲ彼是對照シ寧ろ遠隔ノ地ニ所在スル農地ヲ處分スルノ得策ナリトシタルモノカ先ヅ本件土地ノ賣却ヲ決意シ番頭ヲシテ一應小作人ニ之ガ買取方ヲ交渉セリ、然ルニ小作人等ハ小作權ノ存在ヲ主張シ格安ニ買取ラムトノ氣風見エタルヲ以テ深入リスルコト無ク交渉ヲ打切り土地周旋業者ニ

之ガ賣却方ヲ依頼スルニ至レリ

此ニ於テ土地周旋業者ハ現地ニ赴キ小作人ニ土地ノ賣却セラル、旨ヲ告ゲ已ニ反當八百圓ニテ買手出來タルヲ以テ小作人ニシテ此ノ際買取ルニ非ザレバ作離ノ止ムナキニ至ルベキ旨ヲ暗示シ或ハ田圃ヲ徘徊シテ土壤ノ深度、土壤ノ良否ヲ鑑別スルガ如キ態度ヲ示シ耕作ノ難易ヲ尋スル等種々挑發的言動ヲ以テ小作人ヲ唆カス事一再ナラズ小作人等ハ意外ニモ土地周旋業者ノ介入セルニ驚キ人ヲ介シ或ハ代表者ヲ以テ地主ニ土地ノ賣却中止方ヲ陳情シ若シ賣却ノ止ムナキトキハ耕地ノ成因ト小作人ノ功勞トヲ是認セラレ相當價格ヲ以テ小作人ニ直接賣却セラル、様歎願シタレドモ地主ノ了解スル所トナラズ依テ小作側ハ永小作權存在ノ主張ヲ爲シ即チ本件田地ニ永小作權ノ設定無シト雖モ之ガ設定アル隣地ト同様ノ沿革アルモノニシテ小作權賣買ノ慣行アルコトモ世上須知ノ事實ナレバ此ノ際永小作權ノ存在ヲ確認セラレ度シト主張シ小作側ヨリ小作調停ヲ申立テタリ

(二) 調停ノ經過

調停委員會ハ地主ニ永小作權ヲ確認セシムルコトハ耕地ノ沿革如何ニ拘ハラズ現行民法施行前ヨリ取り交ハシタル小作證書ノ存在スルヲ以テ不可能ノ事ニシテ只賣買ニ依ルノ外途無キモノトシ又小作人ハ價格六百圓ヲ主張シ尙自作農創設資金ノ融通ヲ要望セリ然レ共委員會ハ價格高價ニ失シ自作農創設資金ノ運用不可能ナルコト、農工銀行等ヨリ資金ノ融通ヲ受クルコトノ困難ナル所以ヲ懇々説明シ



テ小作側ニ資金調達ノ方法ヲ熟考セシムルコト、セリ  
 他方地主ニ對シテハ時代ノ思潮ヲ説キ或ハ地主ノ名譽體面問題ニ言及シ專ラ本件ニ對シテ執リタル  
 態度ニ反省ヲ求メ賣買價格ノ折衝ニ及ビタレドモ地主ハ已ニ半數以上八百圓ニテ賣買成立セル事ヲ述  
 ベテ價格ヲ讓步セズ事實賣買契約ノ成立シ代金ノ受渡シヲ爲シタルモノ七名二町六反六畝步賣買登記  
 ノ完了セルモノ二町步ニ及ベリ  
 本件土地ノ賣買ニ關シ小作側ノ内情ヲ見ルニ個人賣買ニ應ジタルモノハ相當ノ違約金ヲ徴收スル等  
 ノ申合ヲ爲シ表面強硬ナル團結ヲ以テ地主ト對應スト雖中ニハ他人名儀ヲ以テ買取リタルモノアルガ  
 如キ情況ニアリ

地主側ニモ單ニ賣買契約ヲ了シタルモノアルノミナラズ土地周旋業者トノ間ニハ土地賣買斡旋ニ關  
 スル契約アリテ到底賣買價格ヲ地主ニ讓步セシムルコト能ハザル事情アリ加フルニ半數以上賣買ヲ完  
 了シ居ルモノナレバ調停委員會ハ賣買價格ノ減額ニ依ラズ小作者ノ土地熟成ノ功勞ヲ慰謝スルノ方法  
 ヲ以テ小作者ノ負擔ヲ輕減セシムトシ專ラ慰藉金支出ヲ慫慂シ已ニ賣買シタルモノタルト未賣買ノ  
 モノトヲ問ハズ全體ニ對シ四千三百圓ヲ贈與セシムルコト、シ關係土地ハ全部關係小作人ニ買取ラシ  
 ムルコトニ調停成立セリ

(三) 結 末

調 停 條 項

- 一 相手方中野某ハ其ノ所有ニ係ル碧海郡旭村大字伏見屋外新田字中江十八番田四畝二步ヲ杉浦某ニ  
 一(以下各人別明細省略) 現在登記簿上ノ反別ニ基キ一反步金八百圓ノ割合ヲ以テ本日(昭和四年  
 三月二十六日)賣渡シタリ
- 二 右買受人等ハ右買受地所ノ代金ヲ昭和四年十二月三十一日限り中野某ニ支拂フコト  
 中野某ハ右代金ノ支拂ヒヲ受ケタルトキハ各買受人ノ反別ニ付分筆ヲ爲シタル後各買受人ニ對シ所  
 有權移轉登記ヲ爲スベキコト  
 但シ右分筆ヲ爲スニ要シタル手續費用竝ニ分筆登記費用ハ各買受人等ノ負擔タルコト
- 三 右ノ賣買ハ現在ノ登記簿上ノ反別ニ依リ爲シタルモノナルヲ以テ分筆ヲ爲シタル爲其反別ニ増減  
 アリトスルモ賣買當事者ニ於テ異議ナキコト
- 四 中野某ハ本件申立人全部ニ對シ昭和四年十二月三十一日迄金二千五百圓ヲ贈與スルコト  
 但シ此二千五百圓ハ右第二項買受人等ノ代金支拂ト同時ニ授受スベキモノトス仍テ買受人等ガ支拂  
 期日前ニ其ノ支拂ヲ爲シタル場合ハ之ト同時ニ申立人ニ右二千五百圓ヲ贈與スルコト
- 五 第一項ノ各買受人等ハ本日即チ昭和四年三月二十六日ヨリ同年十二月三十一日迄ノ間ニ納付スベ  
 キ各買受地所ノ公租公課其ノ他一切ノ税金ヲ負擔スルコト



左レバ中野某ニ於テハ其ノ田畑ニ對スル小作料ヲ取ラザルコト

六 右買受タル田畑耕作ノ爲施設セラレアル道路溝等アラバ中野某ヨリ買受人等ニ無償ニテ引渡スコト

七 小作名義人ト實際ノ小作人トガ相違シ居ル場合ニアリテハ其二者何レノ名義ヲ以テ賣買登記ヲスルモ異議無キコト

八 中野某ハ本日(昭和四年三月二十六日)申立人等ニ金一千八百圓ヲ贈與シタリ

九 中野某ハ第一項記載ノ田畑ニ對スル昭和三年度ノ小作料ハ之ヲ拋棄スルコト

十 中野某ヨリ太田某ニ賣渡シ未ダ所有權移轉登記ヲ爲サル田畑ニ付テハ太田某ヨリ買受ケタル各買受人ニ對シ分筆ノ上中野ヨリ直接所有權移轉登記ヲ爲スコト

但シ分筆ノ爲要スル費用ハ各買受人ノ負擔トス

十一 利害關係人何某(既ニ賣買ヲ了シ所有權移轉登記ヲ爲シタル新地主)ハ其ノ所有ノ碧海郡旭村大字伏見屋外新田字中江何番田反畝歩ヲ何某、何某ニ代金何圓ヲ以テ本日賣渡シ各買受人ハ其代金ヲ拂ヒタリ

各利害關係人(太田某ヲ除キ)何時ニテモ各買受人ノ請求ニヨリ分筆ヲ爲シタル上所有權移轉登記手續ヲ爲ス

但シ分筆ニ要スル費用ハ各買受人ニ於テ負擔スルコト

二三 愛知縣東春日井郡鷹來村大字牛山新田

(小作料一時的減額、小作契約繼續、土地一部返還)

爭議發生 昭和三年一月十一日

調停申立 昭和三年十月廿三日

解 決 昭和五年二月十五日

關係人員 爭議 地主 十九名 小作人 九十六名

調停 右ニ同ジ(小作人申立)

關係土地 爭議 田 二十九町步 畑 三町一反步  
調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

牛山新田ハ地勢平坦ニシテ田百十町步畑三十町步ヲ包含シ普通農事ニ多少ノ養蠶ヲ加味シタル純農村部落ナリ耕地ノ半數ハ本件地主ノ所有スルトコロニシテ當地方トシテハ耕地所有ノ分配稍不均衡ノトコロナリ大正初年以來地主小作人間ニ屢々紛議ヲ重ネタレドモ小作人ハ常ニ強硬ナル地主ノ爲ニ服從ノ止ムナキ情況ニアリタリ大正十年ノ紛議ハ稍々鬭争的ニシテ小作人ハ最モ頑強ナル地主長谷川某(十數町步所有)ニ對シ小作地六町餘ノ一齊返地ヲ爲シ以テ其ノ力ヲ挫カントセシガ却テ小作人ニ桔杭







ルモ口ヲ緘シテ語ラズ然レドモ地主ハ等閑ニ附シタルニハアラズ又調停ヲ衷心ヨリ忌避スルニモアラズ表面有耶無耶ノ態度ヲ裝ヒ乍ラ腹心ノ小作人ヲ巧妙ニ利用シテ常ニ小作側ノ動靜ヲ探查シ他方小作調停ニ依ル解決事例ヲ調査研究シテ深謀遠慮ヲ圍ラシ小作人ノ爭議ニ飽キ團結ノ案ル、ヲ見テ漸ク口ヲ開キタリ此ノ間委員會ヲ重ヌルコト十四回、調停ヲ申立テ、以來十一ヶ月ヲ費シタルモノニシテ委員會ハ終始地主ニ對シ小作問題ハ調停ニテ解決スルコトガ今日ノ農村社會ノ實情ニ即スベキ所以ヲ説示シツ、專ラ地主ノ調停ニ對スル眞意ヲ探ルニ力メタリ

カクテ事件ハ遷延スルト共ニ居村ノ秩序ハ益々紊レ村治上ニモ支障ヲ來ストコロ尠カラズ其後本件調停委員ニシテ地方農界ノ名望家ナル鈴木氏ハ親交アル村内有力者河田某ニ事件ノ情勢ヲ懇ヘ氏ノ仲裁ヲ懇願セリ河田氏ハ直チニ之ガ仲裁ニ奔走セシガ河田氏ノ介在ハ小作側ノ感情ヲ沈靜スル所多カリシガ地主側ハ之ヲ喜バズ却テ鈴木氏ニ反感ヲ懷クノ結果ヲ來セリ

其ノ後數回委員會ヲ重ヌルモ何等得ルトコロナシ依而現地ニ出張調停ヲ試ムルコト、シ昭和四年十一月十五日ヨリ四日、同十二月二日ヨリ三日、同九日ヨリ六日ノ三回十三日間ニ亘リ所在憐慶寺ニ滞在晝夜兼行ニテ調停ヲ試ミタル結果漸ク解決點ニ近ヅキタリ

(三) 結

末

カクテ左記條項ニ基キ解決ヲ見タルガ本件ノ解決ニアタリ最モ重要ナル返地問題ニ關シ委員會ハ和

平ノ機運熟スルニ於テハ地主ニ撤回セシムベキコトヲ考慮シツ、アリシガ地主ハ極力三分ノ一返地ヲ要求シテ止マズ餘儀ナク地主ノ生計上欠クベカラザル筆ニノミ止メムトシタレドモ地主ノ小作地返還要求ノ目的ハ小作人ノ小作料値下要求ヲ未然ニ防止シ土地所有權ノ行使ニ動搖ナキヲ威示セントスルニアルヲ以テ委員會ノ社會正義ニ基ク力説ニ對シテハ之ヲ其儘容ル、ノ雅量ナク遂ニ大地主ニ屬スル小作地迄返還セシムルノ餘儀ナキニ至リタリ只三分ノ一十一町歩ニ相當スル返地要求ヲ訴求面積タル一町八反歩ニ止メ而モ何等カ理由アル土地ニ之ヲ變更セシメタリ

調停條項

一 申立人タル各小作者ハ夫々被申立人タル地主ニ對シ別紙(省略)第一目錄同第二目錄掲記ノ小作土地ニ對スル昭和二年度同三年度ノ小作料ヲ左記區別ニ從ヒ計算シテ昭和五年三月二日限り支拂フコト

(一) 田(但桑樹ヲ栽植セル田ヲ除ク)ニ對スル昭和二年度同三年度ノ小作料ハ二ヶ年分ヲ合算シテ前記兩目錄掲記ノ各掟米額ニ夫々一・八五ヲ乘シタルモノトシ之ヲ一石金貳拾八圓七拾五錢(昭和二年分ハ一石ノ價格金參拾圓同參年分ハ一石ノ價格金貳拾七圓五拾錢トシ算出シタル平均額)ノ割合ヲ以テ換算シ代金納スルコト

(二) 桑樹ヲ栽植セル田ニ對スル昭和二年度同三年度ノ小作料ハ二ヶ年分ヲ合算シテ前記兩目錄掲



記ノ各掟米額ニ夫々一・六五ヲ乘シタルモノトシ之ヲ前同一割合ヲ以テ換算シ代金納スルコト

(三) 畑(桑樹ヲ含ム)ニ對スル昭和二年度ノ小作料並ニ桑園ニ非サル畑ニ對スル昭和三年度ノ小作料ハ孰レモ前記兩目錄掲記ノ各掟米ヲ一石金貳拾八圓七拾五錢ノ割合ヲ以テ換算シ代金納スルコト

(四) 桑園タル畑ニ對スル昭和三年度ノ小作料ハ前記兩目錄掲記ノ各掟米ノ半額トシ之ヲ一石金貳拾七圓五拾錢ノ割合ヲ以テ換算シ代金納スルコト

一 前項小作料ノ支拂ヲ遲滯シタル小作者ニ對シテハ地主ハ右(一)乃至(四)ノ條項ニ拘ラス前記兩目錄掲記ノ契約通リノ掟米ニケ年分ヲ一石金貳拾八圓七拾五錢ノ割合ヲ以テ換算シタル金額ノ支拂ヲ請求シ得ヘキコト

一 別紙第二目錄(省略)ノ土地ニ付キテハ地主小作者ハ茲ニ合意ノ上小作契約ヲ解除シ小作者ハ夫々昭和五年六月二十日限り作物其ノ他ノ地上物件ヲ收去シ該土地ヲ地主ニ返還スルコト

一 地主ハ前項ノ土地返還ト同時ニ小作者ニ對シ返還土地一反歩ニ付金拾五圓ヲ支給スルコト

一 別紙第一目錄(省略)ノ土地ニ付キテハ其ノ内地主ヨリ小作者ニ對シ契約解除ノ意思表示ヲ爲シ返還請求中ノモノモ該請求ヲ撤回シ總テ從前ニ引續キ以下各項ヲ新ニ定ムルノ外從前通リノ約旨ヲ以テ從前ノ小作者ニ賃貸シ小作者ハ之ヲ賃借スルコト

一 小作料(掟米)ノ納期ハ毎年舊十二月二十日タルコト

一 爾今天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ田地ノ收穫カ一反歩一石九斗ニ滿タサル場合ニハ小作者ハ地主ニ對シ小作料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

一 右小作料減額ノ申出ハ遅クトモ刈入着手ノ日ヨリ十五日以前ニ地主ニ之ヲ爲スコトヲ要シ(但シ申出遲延ニ付宥恕スヘキ事由アルトキハ此ノ限リニアラス)其ノ申出アリタルトキハ收穫時期ニ於テ關係地主小作者協議シ申出ノ適否及減額率ヲ協定ス

但シ此場合一方ヨリ請求アルトキハ立會坪刈ヲ爲スヘキモノトス

一 天災其ノ他ノ不可抗力ニ基ク不作ニ因ル畑ノ小作料減額ニ付キテハ右田ノ小作料ノ減額ニ付キ取定メラレタル精神ニ基キ双方協定スルコト

一 長谷川某外七名ノ地主ヨリ關戸某外十一名ノ小作者ニ係ル名古屋地方裁判所昭和三年(ワ)第一八〇號土地明渡並ニ賃料及損害金請求事件ハ訴訟費用各自辨ノ約定ヲ以テ双方連署シ速カニ取下ク  
ルコト

二四 三重縣多氣郡明星村大字有爾中 (小作料一時的減額 小作契約繼續)

爭議發生 昭和二年一月五日  
調停申立 昭和三年六月十八日



解 決 昭和四年八月十五日

關係人員 爭議 地主 二十一人 小作人 十六人

調停 地主 十七人 小作人 十一人(小作人申立)

關係土地 爭議 田 五町三反歩

調停 田 四町七反歩

(一) 爭議ノ概況

小作側ハ農民組合ヲ背景トシテ風水虫害ニヨル凶作ノ理由ノ下ニ掬米七割ノ一時的減免ヲ要求セリ之ニ對シ地主側ハ昭和二年度分モ七割引ヲ要求シ完納セズ三年度モ亦七割引ヲ要求シテ納入セザルハ不法ニシテ小作側ニ誠意ナキモノト見做シ爭議根絶策トシテ土地返還ヲ請求シタリ小作側ハ反當金三十圓内外ノ作離料及昭和二年度分掬米不足分ト昭和三年度全額ノ免除ヲ受クレバ何時ニテモ土地ノ返還ヲナス旨回答セリ然レドモ地主側ハ從來作離料ヲ支給シタル例ナシトテ之レニ應ゼズ遂ニ小作料並土地返還請求訴訟ヲ提起セリ

右ニツキ小作側ハ大ニ狼狽シ昭和三年六月十八日小作調停ノ申立ヲナシタリ

(二) 調停ノ經過

昭和四年一月調停委員會ヲ開催シタル處小作側ハ七割減ヲ固守シ地主側ハ土地返還ヲ主張シ譲ラズ

爾來委員會開催スル事八度ニ及ビ極力調停ニ努メタル結果左記條項ニ對シ地主側ハ之レニ同意シタルモ小作側ハ一部ヲ除キ他ハ依然トシテ之レニ應ゼズ仍テ昭和四年六月ニ至リ右不同意ノ小作人ハ調停ノ取下ゲヲナシタリ

(三) 結 末

委員會作製案ニ同意シタル小作人ハ別記條項ニ依ル調停成立シタルモ調停ヲ取下ゲタル小作人ハ訴訟ヲ繼續中各々本調停條項ニ準シ和解成立シ訴訟ハ之レヲ取下ゲタリ

(一) 成立 條 項 (申立人中村某外一人相手方中山某外一人ニ關スル分)

第一條 本件土地ニ對スル大正十五年度及昭和二年度ノ掬米ハ一ヶ年分ニ減額シ別紙納付額ヲ(添付省略)申立人ヨリ相手方ニ對シ昭和四年ヨリ同七年マテ四ヶ年間ニ其四分ノ一宛ヲ毎年十二月二十三日限り支拂フ事若シ玄米ヲ以テ支拂フ能ハサル時ハ一石三十二圓五十錢ニ換算シタル金額ヲ以テ支拂フコト

申立人ニ於テ右分割辨濟ヲ一回ニテモ怠リタルトキハ殘額一時ニ支拂フコト

第二條 本件土地ハ別紙目錄(添付省略)ノ通り相手方ヨリ申立人ニ支拂フコト

但相手方ニ於テ家政整理(負債ノ整理不測ノ災難ノタメ)土地返還ノ要求アリタル場合ハ無條件ニテ作物收穫ノ上來ルヘキ五月底迄ニ返還スルコト



第三條 本件土地ノ掬米ハ毎年十二月二十三日限り検査済合格米ヲ以テ支拂フコト、シ凶作ノタメ合格米ヲ得サル場合ハ不合格米ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
若シ玄米ヲ以テ支拂フ能ハサルトキハ支拂期ニ於ケル多氣郡明星村共同販賣ノ價格ニ換算シタル金額ヲ以テ支拂フコト

第四條 今後天災地變等不可抗力ニ依リ凶作ノ場合ハ稻毛刈取十日前申立人等ハ相手方ニ立會檢見ヲ求メ双方立會ノ上減免率ヲ協定スル事若シ協定調ハサルトキハ双方ヨリ豫想收穫高ニ付投票ヲ行ヒ高點ノ投票者之レヲ刈取リ其豫想收穫高ヲ基準トシ左ノ割合ニ依リ双方ニ分配スルコト

分配方法

- 一 掬米ノ倍額ヲ以テ平年作トス
- 但シ掬米反當リ一石未滿ノモノタルコト
- 一 一石以上ノ掬米ハ平年收穫ヲ二石二斗トシ減免セズ
- 一 反當リ收穫五斗以上二石一斗ニ至ルマデハ四斗ヲ天引シ小作人ニ與ヘ殘額ノ内四分ヲ小作人ニ六分ヲ地主ノ各所得トス

第五條 申立人ハ相手方ノ承諾ヲ得ズシテ本件土地ヲ轉貸又ハ讓渡竝ニ地目以外ニ使用スルコトヲ得ス

第六條 本條第一條ノ掬米分割支拂フベキモノニ付テハ掬米四割以上減額スベキ凶作年ニ限り其支拂期ヲ順次繰下グル事

第七條 左ノ場合ニ於テハ申立人ハ相手方ニ對シ本件土地ヲ明渡スコト

- 一 今後第三條ノ掬米ノ支拂ヲ怠リタルトキハ相手方ニ於テ三週間ノ期間ヲ定メ催告シ申立人尙之ニ應ゼザルトキ
- 一 第五條ニ違反シタルトキ
- 一 申立人ガ耕作不能ノ場所ヘ轉住シタルトキ

第八條 本件土地ニ對スル昭和三年度掬米ハ申立人中村某分一石五斗一升ニ申立人西山某分六斗九升ニ各減額シ申立人等ハ其相手方ニ對シ昭和四年六月十五日迄ニ支拂フコト

(二) 調停條項(申立人中山某外五人相手方潮田某ニ關スル分)

第一條 本件土地ニ對スル大正十五年度及昭和二年度掬米ハ別表(添付省略)納付額ノ通リトシ該合計納付額ヲ二分シ其一宛ヲ昭和四年、同五年ノ各十二月二十三日限り申立人ヨリ相手方ニ支拂フコト若シ玄米ヲ以テ支拂フ能ハザル時ハ大正十五年度及昭和二年度分ニ限り一石三十二圓五十錢ニ換算シタル金額ヲ以テ支拂フコト申立人ニ於テ右分割辨濟ヲ怠リタルトキハ殘額一時ニ支拂フコト

第二條 第三條(前記中村某外一人對中山某外一人間分ト同ジニ付省略)



第四條 同 第五條ニ同ジ

第五條 同 第六條ニ同ジ

第六條 同 第七條ニ同ジ

二五 滋賀縣野洲郡小津村大字森川原 (小作料一時的減額  
小作條件改訂)

爭議發生 昭和三年十一月二十七日

調停申立 昭和四年四月二日 昭和四年四月十九日

解決 昭和四年五月三十日

關係人員 爭議 地主 二人 小作人 三十六人

調停 右ニ同ジ(地主申立)

關係土地 爭議 田 十四町四段三畝十一步 畑 一段二十五步 宅地 二百四十五坪

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

昭和三年十一月二十七日小作人側ハ本年ノ稻作ハ天候不良ナリシト施肥方法ノ誤レル結果稻熱病ノ發生多ク意外ノ凶作ナリトシ小作總代三名ヲシテ地主ニ對シ契約小作料ノ三割五分減額ヲ要求セシガ地主ハ自作地ノ實收穫ノ實情ニ鑑ミ大正十四年小作料ヲ改訂セル小作地(一等地ヨリ七等地ニ區分シ

小作料ハ一等地ハ反當二百五十リットルトシ以下一等級毎二十リットルヲ遞下シ年ノ豊凶ニヨリ減額セザル定免契約小作地)ハ減額セザルモ、從來ノ慣行ニ依ル契約小作地ハ契約小作料ノ一割ヲ減額スベク回答セリ、其ノ後更ニ折衝ヲ重ネ小作人側ハ二割五分、地主側ハ一割五分ニ其ノ主張ヲ變更セルモ容易ニ解決ノ色ナク小作人側ハ小作料ノ半額ヲ納入シテ相對峙スルニ至レリ

其ノ間有志ハ數次調停ニ介在セルモ互ニ其ノ主張ヲ固持シテ共ニ讓ラズ何レモ調停中止ノ止ムナキニ至リ爲ニ益々感情ノ疎隔ヲ來シ地主ハ小作人中ノ主謀者ト認ムル者五名ニ對シ田三町三段七畝三步ノ返還ヲ請求セシガ小作人側ハ即時ニ之ヲ拒絶シ形勢愈々惡化ノ傾向ニアリテ解決ノ途ナキヲ以テ地主ハ四月二日大津地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲナシ更ニ四月十九日近時年毎ニ小作料一時的減額問題發生シ尙其ノ解決遷延シテ益々困難ノ度ヲ加ヘ爲ニ地主小作人間ノ感情疎隔シ大字行政上ノ運用ニモ支障多キヲ以テ今後ノ小作契約ヲ改善確保シ紛爭ヲ一掃スベク小作契約ノ改訂ニ關シテモ更ニ小作調停ノ申立ヲ爲シタリ

(二) 調停ノ經過

本件ヲ受理シタル大津地方裁判所ニ於テハ四月十六日小津村役場ニ於テ小作調停委員會ヲ開催シ調停ヲ開始セリ、而シテ調停委員會ニ於テハ双方ノ主張及昭和三年ノ作況並過去ノ小作料減額ノ事例等ヲ參酌シ小作料一時的減額ハ定免契約小作地ヲ除キ他ハ契約小作料ノ一割八分ヲ減額スルノ調停案ヲ



双方ニ承認セシメ耕地返還ニ關シテハ地主ニ之ガ撤回ヲ慫慂シテ解決セリ

四月十九日申立ノ小作契約ノ改訂ニ關スル調停ニ付テハ四月二十五日小津村役場ニ小作調停委員會ヲ開催シ小作料額ハ大正十四年改訂ノ定免契約小作料額ニ準ゼシメ耕地ノ等級ハ双方其主張ヲ異ニセラルヲ以テ土地賃賃價格調査ニ準ゼシメ耕地ノ等級ハ双方其主張ヲ異ニセルヲ以テ土地賃賃價格調査ニ基クコトニ協定セシメ其ノ他凶作時ノ小作料減額方法等ヲモ規定セシメテ今後ノ爭議ヲ一掃スベク協定シ調停成立ヲ見タリ

(三) 結

末

小作料一時的減額ニ關スル調停條項次ノ如シ

調停條項 (其ノ一)

一 申立人(地主)ハ相手方(小作人)等ニ對シ別紙第一表記載ノ土地(大正十四年改訂定免契約小作地)ニ付テハ昭和三年度小作料ノ減免ヲ爲サズ、同第二表記載ノ土地(一般慣行ニ依ル小作地)ニ付テハ昭和三年度小作料ハ契約小作料ノ一割八分ヲ減額ス(別表省略)

二 相手方(小作人)等ハ申立人(地主)ニ對シ昭和三年度未納小作料ヲ昭和四年四月二十五日限り申立人宅ニ持參納入ス

若シ右期日ニ納入ヲ怠リタルトキハ申立人ニ於テ直チニ土地返還請求ヲ爲スモ納入ヲ怠リタル相手

方ニ於テハ異議ナキモノトス

又小作契約改訂ニ關スル調停條項次ノ如シ

調停條項 (其ノ二)

一 申立人(地主)及相手方(小作人)ハ昭和四年度以後ノ小作料ニ付左ノ通り協定ス

(イ) 田一反歩ニ付

- 一 等 地 一石三斗八升六合
  - 二 等 地 一石三斗三升
  - 三 等 地 一石二斗七升五合
  - 四 等 地 一石二斗二升
  - 五 等 地 一石一斗六升四合
  - 六 等 地 一石一斗九合
  - 七 等 地 一石五升三合
- (ロ) 畑一反歩ニ付
- 一 等 地 一石 二斗
  - 二 等 地 九斗



三 等地 六 斗  
(ハ) 宅地百坪ニ付

一 等地 五 斗  
二 等地 四 斗 五 升  
三 等地 四 斗

但シ右土地等級ハ土地賃賃價格調査ノ等級ニヨル

一 小作米納期ハ毎年十二月廿五日期トス

一 小作米ハ四等合格米ヲ以テ納入ス

但一等米ヲ以テ納入シタルトキハ一俵ニ付一升五合、二等米ヲ以テ納入シタルトキハ一俵ニ付一升三等米ヲ以テ納入シタルトキハ一俵ニ付五合ヲ申立人(地主)ヨリ相手方(小作人)ニ交付シ、五等米ヲ以テ納入シタルトキハ一俵ニ付一升ヲ相手方(小作人)ヨリ申立人(地主)ニ交付ス

一 實收米ノ額小作料ノ十七割ニ足ラザルトキハ實收米ノ額ト小作料ノ十七割トノ差額ノ六割ヲ減額シ凶作ノ爲メ免租トナリタル場合ハ小作料ヲ全免ス

一 凶作ノ爲メ相手方(小作人)ニ方テ前項ノ減額ヲ求メントスルトキハ總代ヲ選ヒ收穫前其旨申立人(地主)ニ申立テ申立人相手方總代及村農會役職員立會ノ下ニ坪刈リノ方法ニヨリ實收額ヲ定ム坪

刈リノ方法ニ付立會人間ニ協議調ハサル場合ニ於テハ滋賀縣小作官ノ指定シタル方法ニ依ル

一 相手方(小作人)ハ申立人(地主)ノ承諾ナクシテ土地ヲ轉貸シ又ハ土地ノ現狀ニ變更ヲ加フルコトヲ得ス

一 小作料ノ一部ニテモ滞納一年以上ニ及フトキハ相手方(小作人)ハ申立人(地主)ノ請求ニ應ジ異議ナク土地ヲ返還スルモノトス

申立人(地主)ノ承諾ナクシテ土地ヲ轉貸ヲ爲シ又ハ土地ノ現狀ノ變更ヲ加ヘタル場合亦同シ

一 申立人(地主)カ土地ヲ賣却セントスルトキハ相手方(小作人)ニ之カ買取ノ機會ヲ與フ

一 申立人(地主)カ相當ノ理由ニヨリ土地ノ返還ヲ求ムルニハ相手方(小作人)ニ對シ一ヶ年前ニ豫告ヲ爲ス、其理由ノ當否ニ付爭アルトキハ小津村長及滋賀縣小作官ノ判定ニ一任ス

一 小作料ニ關スル部分ノ協定ハ五ヶ年ヲ以テ更新ス

一 畑地、宅地ノ小作料ニ付テハ減額ヲ爲サス

一 小作地ノ位置、地番、地目、等級、反別、契約小作料、小作人ノ住所氏名ハ小作耕地明細表通リ(表省略)

二六 京都府綴喜郡有智鄉村大字内里

(小作料一時的並永久的減額、小作契約繼續、小作地先買權附與)

爭議發生 昭和三年十二月八日



調停申立 前調停

昭和四年二月二十七日 (地主側)  
昭和四年四月九日 (小作側)  
昭和四年六月十四日 (小作側)

後調停

昭和四年十一月四日 (合意)  
昭和四年十一月三十日 (地主側)

解 決 昭和五年一月三十一日

關係人員 爭議 地主 九十二人 小作人 百九十六人  
調停 地主 五十四人 小作人 百七十九人

關係土地 爭議 田 百二十四町三畝步 畑 二十四町五反八畝步 宅地 三町步

前調停

地主側ヨリ 田 九十三町三反九畝十九步 畑 十五町一反四畝八步  
宅地 二町七反三畝二十二步  
小作側ヨリ 田 四十一町九反六畝十步 畑 六町八反三畝十三步  
宅地 六反四畝七步

後調停

合 意 田 九十三町三反九畝十九步 畑 十五町一反四畝八步  
宅地 二町七反三畝二十二步  
地主側ヨリ 田 一町二反一畝二十二步 畑 四反五畝五步  
宅地 六畝四步

(一) 爭議ノ概況

本大字ハ大正九年迄平穩ナリシが大正十年ニ至リ團體的爭議發生シ大正十二年度ニハ不作ニヨル減免竝小作料減額改正問題ニ原因シ深刻ナル爭議發生セリ、即チ小作人側ハ大正五年ニ組織セル小作人組合興農會ヲ擧ゲテ舊日本農民組合ニ加盟シ同組合ノ應援ヲ得地主ト係争セルガ翌十三年四月ニ至リ郵便局長及村長ノ仲裁ニヨリ大正十二年度以降五ケ年間小作料二割七步減、十二年度ヲ更ニ一割五分減ノ條件ニテ解決セリ、然ルニ昭和二年度ニテ右輕減期間滿了シ昭和三年度ハ宛米改正期ニ當リシヲ以テ地主側ハ協議ノ結果昭和三年四月地主委員ノ名ヲ以テ前回爭議當時ノ小作人側委員ニ宛テ書面ヲ以テ契約期間滿了ノ旨通知ヲナセシモ小作人側ハ之ニ對シ何等回答ヲ爲サズ放置セシガ同年十二月八日ニ至リ北村某外三名ノ小作人總代ハ村長ヲ訪問シ小作料ノ舊ニ復スルコトヲ反對スルト共ニ併セテ村長竝地主ニ宛テタル左ノ懇願書ヲ提出セリ

懇 願 書

拜啓本年四月地主各位ヨリ去ル大正十三年協定ノ年貢米五ケ年期限滿了之趣御通告相受ケ了承仕居候然ル處本年モ年貢精納月ニ差シ迫リ例年之期日ニ皆納可致筈之處實ハ私共小作農ニ從事致シ居ル者ノ實狀ハ第一米安、第二新農具購入費、第三肥料其他生産費、第四社會ノ大勢ニ連レ生計費ノ向上等ニ依リ相當生活苦ヲ痛感罷リ在リ候



其上本年ハ夏秋以來氣候ノ關係ニテ耕耘施肥熱心努力致セシ田面程凶作減收致シ永年農業ニ從事セシ者ノ意外トスル處ニ御座候前記之事實ニテ私共小作一同ハ絶ヘズ不安定ノ境遇ヲ苦慮仕リ居リ候前顯ノ事實ハ事新ラシク申上グル迄モナク夙ニ御賢察ノ御事ト存ジ候就テハ當年度ヨリ改メテ納米ノ程度ヲ地主小作共存共榮ヲ基調トセル年貢米ニ協定被下度御懇願申上候文辭甚ダ意ヲ盡サズ候得共私共一同ノ誠意ヲ御認メ被下村治上農業者ノ爲何卒宜敷御協議被下度御願申上候也

昭和三年拾貳月八日

小作人懇願代表 北村 某 (外三名)

村長 宛  
地主 宛

更ニ同月十五日小作人側村會議員古里某外三名ハ連署ヲ以テ小作料協定ニ關シ村長ニ宛テ左ノ懇願書ヲ提出ス

懇願書

當村内里區小作料ハ大正十三年協定ノ條項ハ本年四月ヲ以テ滿了セリ本年茲ニ小作側ヨリ宛米輕減ノ件出願セリ抑々小作問題ハ一ニ農村社會問題ト云ヒ農村問題中尤モ重大ナルモノナリ我が政府當局ニ於テモ夙ニ苦慮セラレツ、アリ殊ニ本村ハ住民四百餘戸ノ内此問題ニ利害關係ヲ有スルモノ三百餘ノ

多キニ達ス故ニ本問題ノ一度紛糾センカ本村ニ取リテハ誠ニ由々シキ一大事ニシテ村ノ自治ハ忽ニ破レ産業ハ衰へ農村經濟ハ衰微シ引イテハ思想上ニモ大ナル變化ヲ來スモノナリ過去數回ノ爭議ニ鑑ミ其相互ニ費シタル費用ハ實ニ驚クベキ巨額ノモノナリ茲ニ於テ本問題ヲ未然ニ防ギ平和裡ニ解決スベキハ自治主宰者ノ尤モ急務ニシテ一日モ看過スベキニアラズ從來本村ハ小作爭議ノ中心地ト稱セラレシモ大正十五年度ノ凶作ニハ僅ニ數時間ノ會談ニヨリ圓滿ニ解決ヲ告ゲタリ之レ誠ニ貴官ノ溫情深キ思召シト英斷ニ依ルモノニシテ當區古今未ダ見ザル所ナリ

抑々小作農ハ農村ニ於ケル富ノ生産者ニシテ産業ハ生産者ノ資力如何ニヨリ生産能率ノ消長ヲ來スモノナリ、近來農業者ハ生産費ノ膨張ニ反シ米價ノ低落ヲ來シ收支相償ハザル上世ノ大勢ニヨル生計費ノ向上等相當苦痛ナル折柄本問題ノ如何ニ重大ニ至ランモ計リ難ク此ノ際農村ノ爲メ生産者本意ニ其分配率ヲ公平ニシ以テ勞資協調ノ實ヲ舉ゲ産業發展ノ道ヲ開キ共存共榮以テ農村ヲ開發スベキデアアル之レ賢明ナル貴官ノ英斷ニ依ル外道ナキモノト信ズ依ツテ本議員同志ハ茲ニ陳述懇願スル所以ナリ

昭和三年十二月十五日

村會議員 林 某 (外三名)

村長 宛

同月十七日小作人總代四名村長ヲ訪問シ田畑小作料ハ地價百圓ニ付二石ノ割(舊小作料ニ對スル三



割等以上ノ減額)トナシ、昭和三年度ハ不作ニ付右改正小作料ヨリ更ニ二割減、宅地ハ二割ノ減額改正ノ要求ヲナシタル際村長ハ曩ニ二回ニ亘リ提出セル懇願書内ニ記サレタル共存共榮ノ趣旨ニ相違スル旨指摘反問シ同總代ニ對シ考慮ヲ促ス

依リテ小作人側ハ協議ヲ重ネシモ其ノ要求ハ依然トシテ變ラザリシヲ以テ村長ハ如斯不當ナル要求ハ地主ニ傳フルコトヲ得ザル故各地主ヲ訪問直接歎願スベシトテ拒絶セシモ小作人側ハ年末ニ差迫リ多數ノ地主ヲ訪問スルコト困難ナル故村長ヨリ一般地主ヘ可然傳言方重ネテ依頼セシヲ以テ村長ハ同月二十四日役場ニ關係地主ノ大部分ヲ召集シ小作人側ノ要求ヲ傳ヘシニ地主側ハ小作料ノ内納ヲ主張シ小作人側ノ過大ナル要求ニ對シテハ交渉委員四名ヲ舉ゲ今後ノ折衝ニ當ラシムルコト、セリ、依リテ同月二十六日役場ニ於テ村長及小作人側村會議員四名立會ノ下ニ地主小作人双方ノ委員各四名會合交渉ヲ開始シ引續キ折衝ヲ重ネタルニ何等解決ノ曙光ヲ見ルニ至ラズシテ越年セリ

翌昭和四年一月七日ニ至リ同村大字戸津在住ノ村會議員三名仲裁ニ入り種々斡旋ノ結果地主側ハ仲裁者及村長ニ對シ附近ノ改正小作料ヲ參酌シ本大字ヲ公平ナル小作料ニ改定スル考ヘナラバ一任スル旨發表セシモ小作人側ノ主張強硬ニテ進捗セズ、同月十四日隣村大住村長西村府會議員ハ一部地主ノ依頼ニヨリ仲裁ヲ試ミシガ小作人側ハ同氏ガ最近ニ仲裁セシ大住村大字松井ノ爭議ニ於ケル解決條件ガ地主側ニ偏セリトノ理由ニ因リ同人ノ仲裁ニ應ゼザリシヲ以テ己ムナク仲裁ヲ見合セタリ

茲ニ於テ地主側ハ最早ヤ訴訟ニ依ルノ外執ルベキ途ナシトテ反當五圓宛ヲ醸出スルコトニ決シ其ノ集金ニ着手セシガ之ヲ仄聞シタル小作人ハ假差押ヲ豫想シ同月二十日小作米約一千石ヲ同郡田邊町ノ倉庫ニ運搬共同保管ヲ爲シ引續キ之ガ賣却ノ手續キヲ爲シタリ、之ガ爲メ爭議ハ俄ニ激化ノ形勢ナリシヲ以テ村長ハ府廳ニ小作官ヲ訪問シ從來ノ經過ヲ述べ何分ノ援助ヲ求メシヲ以テ小作官ハ二月七日同村ニ出張關係當事者ノ大部分ヲ公會堂ニ集會セシメ互讓妥協ノ必要ヲ説キ爭議解決ニ關スル一場ノ講話ヲナシタル後引續キ立會ノ上村長並前記村會議員等ノ從來ノ仲裁者更ニ地主小作人ニ折衝シ徹宵努力シタルモ一致點ヲ見ルニ至ラズ、遂ニ仲裁者全部辭任スルニ至レリ、茲ニ於テ地主側ハ直ニ訴訟ヲ提起セントセシモ小作官德憑ノ結果準備ヲ整ヘ二月二十七日地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲ爲スニ至レリ

### (一) 調停ノ經過

地方裁判所ニ於テハ調停委員二名ヲ指定シ三月十九日爭議地ニ於テ第一回調停委員會ヲ開キ双方總代ノ主張要求等ヲ聽キ調停ヲ開始ス、申立人タル地主側ハ本大字小作料ハ附近部落ノ改正小作料ニ比シ低率ナルヲ以テ小作人ノ要求スルガ如キ多額ノ減額ニハ應ジ難ク年々多大ノ減免ヲ餘儀ナクサレタル結果經濟上ノ打撃著シク之ガ恢復ノ爲メ自作地増加ノ必要アルヲ以テ此ノ際十五町歩ノ返還ヲ求ムト主張シ、相手方タル小作人側ハ田畑小作料ハ地價百圓ニ付二石ノ割(小作料ノ三割以上ノ減額即チ



反當九斗餘)宅地ハ二割減、昭和三年度ハ不作ノ爲メ更ニ二割減ヲ要求シ土地返還ハ絶對ニ應ジ難キ旨主張ス

三四六

而シテ第二回委員會ガ四月九日裁判所ニ於テ開カル、前ニ地主側三十八名ハ調停ニテ解決困難ナリト豫想シ小作人中強硬派ト目セラル、二十五名(關係土地約三十町步)ニ對スル調停ノ取下ヲナシ動産假差押ノ舉ニ出デントセシモ第二回調停委員會ノ際口頭ヲ以テ右取下ゲヲ受ケタル小作人ヨリ更ニ小作料減額請求ノ調停申立ヲ爲シタルヲ以テ調停委員會ハ之ヲ併合シテ調停ヲ爲ス、地主側ハ更ニ資本金約六萬圓ノ南山土地合資會社ヲ設立シ小作人中最高幹部十九名ノ小作地約二十町步ノ所有權ヲ會社ニ移轉シ赤木辯護士ヲ代理トシ地方裁判所ニ土地返還請求訴訟ヲ提起シタルヲ以テ小作人側モ小田辯護士ヲ代理トシテ應訴セシガ訴訟ノ進行ニ伴ヒ形勢不利ナリシヲ以テ六月十四日ニ至リ小作人側ヨリ土地會社ヲ相手方トシテ小作繼續ノ調停ノ申立ヲ爲シタリ、依リテ委員會ハ之等ノ事件ヲ併合調停シ裁判所ノ調停二回委員會ヲ開クコト十一回合計十三回調停ノ結果地主側ハ當初會社關係ノ土地ハ絶對ニ返還ヲ要スル旨主張セシモ遂ニハ從前ノ小作人ニ小作繼續ヲ承認スルコト、小作料ノ減額ハ免租ノ場合ノ外減免ヲ申立テザル爲メ平均一石二斗九升餘ノ小作料ニ對シ二割減即チ一石餘迄ノ宛下ゲ迄ハ應ズル旨讓歩セシガ小作人側ハ土地返還ハ絶對反對、宛下ハ免租ノ場合ノ外減免ヲ要求セザル條件ナラバ三割減(最初三割五分減)然ラザル場合ハ二割七分減(反當九斗四升弱)ヲ主張セリ

以上ノ如ク地主側ハ土地返還ニ付キ大ニ讓歩セルニ不拘小作人側ハ小作料改正ニ付キ誠意ヲ示サズ且ツ四年度分小作料モ納付セズ地主側ヲ困窮ニ陥入レ其ノ結束ヲ亂サント計畫スルモノ、如ク察セラレ調停ノ見込ナク昭和四年十月二十二日第十一回調停委員會ノ際遂ニ不調トナレリ

#### 再調停申立ニ至ル迄ノ經過

十月二十二日調停不調ニ終ルヤ小作人側ハ直ニ辯護士ヲ訪問打合ヲナスト共ニ地主側ノ切崩シ手段ニ乘ラザル様注意シ昭和三年度分小作料ハ勿論四年度分モ納付セズ地主ノ困憊ヲ圖リ個人交渉ハ絶對ニ之ヲ避ケ土地ハ一切返還セザルコト等ヲ申シ合セ結束ヲ固メ更ニ立毛差押ヲ豫想シ隣字戸津ノ小作人約六十名ノ應援ヲ得二十四、五ノ兩日ニ涉リ二百名内外宛出動シ中稻約二十町步ノ共同刈取ヲ行ヒタリ然ルニ地主側ハ赤木辯護士ニ委任シ立毛差押ノ手續ヲ了シ十月二十九日ニ至リ約二十町步ノ晚稻ノ差押ヲナシタル爲メ村長、有志、村會議員等ハ形勢惡化ヲ憂慮シ同日村會ヲ開キ村平和ノ爲メ地主小作人双方ノ反省ヲ促シ調停主任判事ニ一切ヲ無條件一任シテ調停申立ヲナサシムル様勸告スルコトニ決議シ双方ニ對シ夫々交渉セシモ容易ニ進捗セザリシガ差押執行ニ當リ曩ニ農業調査委員タリシ爲メ小作土地ニ精通セル一地主ガ執達吏ヲ案内セシコトニ不滿ヲ抱ケル一部小作人ガ同地主ニ對シ飲酒ノ上暴行セル事件アリ、所轄警察署ニテ之ガ檢舉ニ着手セシト晚稻ヲ差押ヘラレタル爲メ形勢不利ナルヲ悟リ十一月二日村會ノ勸告ニ從フニ至リ地主側ハ同日府廳ニ小作官ヲ訪問意見ヲ徵セシヲ以テ

三四七



小作官ハ村會ノ勸告ヲ容ル、様徳憑ノ結果之亦村會ノ趣旨ニ同意シ十一月四日ニ至リ地主小作人合意ヲ以テ地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲シタリ

再調停ノ經過

地方裁判所ハ前回ト同シ調停委員二名ヲ指定シ十一月六日裁判所ニ於テ第一回調停委員會ヲ開キ双方總代並村長及村會議員代表者等ヨリ將來ノ條件等ニ關スル希望意見等ヲ聴取シ引續キ委員會ヲ開キテ調停條項ニ關シ双方總代ヘ種々折衝ヲ重ネタル結果十一月八日第三回調停委員會ニ於テ調停條項ヲ發表セリ、然ルニ昭和三年度小作料授受ニ關スル條項中不備ナル點ヲ發見セシ爲メ更ニ二回ノ委員會ヲ開キ十一月十八日條項ノ一部ヲ訂正シ調停成立セリ

(三) 結 末

本爭議關係土地ニシテ前記合意ヲ以テ調停申立ヲナサバリシ一部ニ付テハ地主側ヨリ十一月三十日二件ノ調停申立アリ、二件共十一月二十四日第一回ノ調停委員會ニテ前同様ノ條項ニテ解決シ其ノ他ハ右條項ニ倣ヒ解決セシガ爭議當初村長ノ職ニ在リテ爭議ニ關聯シテ退職セシ大地主長村某ハ在職中ニ一般解決條件ヨリ小作人側ニ有利ニセント言質ヲ與ヘタリトノ理由ニヨリ小作人側ハ其ノ實行ヲ迫リ容易ニ解決セザリシガ昭和四年度小作米納期ニ至リ略同様ノ條件(但調停法ニ依リ條件ヲ確定スルコトニ就テハ小作人側ノ反對ノ爲メ見合ハス)ニテ解決セリ、而シテ調停條項左ノ如シ

調 停 條 項

一 各地主ハ各小作人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ期限ノ定メナク左記小作料ニテ從前通り小作セシムルコト(目錄省略)

(イ) 田畑ヲ通ジ該目錄記載ノ土地等級一等乃至四等ハ舊小作料ヨリ二割二分減

同上五等以下ハ舊小作料ヨリ二割減

(ロ) 宅地ノ小作料ハ舊小作料ヨリ一割減

但以上ノ小作料ハ昭和四年度ヨリ同十年度ニ至ル七ケ年間トシ昭和十一年度以降ノ小作料ニ付キテハ當事者間ニ於テ協定ヲ遂ゲ若シ協議調ハザル場合ニハ小作調停法ニ依ル調結ノ申立ヲ爲シ其調停ヲ調停委員會ニ一任シテ適當ナル決定ヲ受クルコト

二 前記目錄記載ノ土地ノ地番、反別、等級ハ有智鄉村役場備付ノ土地台帳ニ依リタルモノナレバ若シ右目錄記載ノ分ニ付キ誤リアリタルトキハ右台帳記載ノ通り之ヲ改正スルコト

三 小作料ハ毎年十二月二十五日限り村内生産ニ係ル穀物生産検査等級丙以上ノ合格米ヲ以テ地主方又ハ地主ノ指定シタル場所ニ夫々持參支拂フコト

小作人ガ天候其ノ他不可抗力ニ因リ右期日ニ小作料ノ支拂ヲ爲ス能ハザルトキハ地主ハ右期日ヲ一ケ月間猶豫スルコト



區外ニ持參スル場合ニハ地主ハ相當ノ運賃ヲ支給スルコト

其ノ年ノ作柄ニ依リ合格米不足ノトキハ其ノ不足分ハ不合格米ニテ支拂フモ差支ナキコト  
已ムコトヲ得ザル事情ニヨリ米納スルコト能ハザル場合竝ニ四斗以下ノ端米、畑及宅地ノ小作料ハ  
金納スルモ差支ナキコト

四 金納相場ハ有智郷村大字内里ニテ其ノ年ノ十二月十五日ヨリ同月二十日迄ノ間ニ於テ地主及小作  
人双方ヨリ二十石宛村内生産合格米ヲ持チ寄り共同販賣ニ附シタル生産検査等級丙ノ平均相場ヨリ  
獎勵米相當價格ヲ控除シタル額ニ依ルコト

右平均相場決定ノタメ地主ヨリ小作人ニ小作料ノ前納ヲ請求セシ場合ニハ小作人ハ連帶シテ前記等  
級米二十石ヲ期限前ト雖モ地主ニ對シ支拂フコト

五 獎勵米ハ從前ノ例ニ依ルコト  
萬一前記平均相場ヲ決定スルコト能ハザル場合ニハ本部落ニ最モ近キ部落ノ相場ニ依ルコト

六 昭和三年度ノ小作料ハ本爭議ヲ圓滿ニ解決スル趣旨ノ下ニ地主ニ於テ田畑ハ舊小作料ヨリ三割七  
分、宅地ハ舊小作料ヨリ一割ヲ夫々減額スルコトヲ承認シ一石ヲ金二十九圓ニ換算シタル金額中一  
萬五千四百圓ヲ本年十一月十五日ニ、同千五百八十圓二十三錢ヲ同年十一月十八日ニ、残りハ之ヲ  
二分シ其ノ一分宛ヲ昭和五年及昭和六年ノ各十二月二十五日限り小作人ハ孰レモ連帶シテ地主總代

ニ持參支拂ヲ爲スコト

昭和三年度ニ限り獎勵米ハ支給セズ

七 小作人ガ期日ニ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ地主ハ小作人ニ對シ十日ノ期間ヲ定メテ之ガ支拂  
ヲ催告シ右催告アルニ拘ラズ故ナク支拂ヲ爲サザルトキハ即時執行ヲ受クルハ勿論本件契約ハ右催  
告期間滿了ノ時ヲ以テ當然解除セラレタルモノトシ小作人ハ地主ヨリ該小作土地ノ返還請求ヲ受ク  
ルモ異議ナキコト

但此ノ場合ニ於テ其ノ債務額ヲ第四項第六項ノ相場ニヨリ換算スルコト

八 小作人ハ本件小作田地ガ平年作ニ對シ一割五分以上ノ減收ナリト思料スルトキニ非ザレバ該小作  
料ノ減額ヲ請求シ得ザルコト

茲ニ平年作ト稱スルハ各等級ニ對スル改訂小作料ノ二十五割ノ收量トス

減額ヲ請求セントスル場合ハ一般的不作ノトキニハ遅クトモ其ノ年ノ十月末日迄ニ小作人中ヨリ總  
代ヲ選任シ該總代ヨリ各地主ニ對シ檢見又ハ坪刈ノ請求ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效ナキコト

但昭和四年度ニ限り立毛刈取七日前迄ニ右請求ヲ爲スコト

前記請求アリタル時ハ地主ハ總代ヲ選任シ直チニ地主及小作人各總代並郡農會又ハ村農會ノ技術員  
立會ノ上作況ノ類似セル字毎ニ中等ノ作柄ト認ムル晚稻二個所乃至五個所ニ就キ檢見又ハ坪刈ヲ爲



シ右字毎ニ收量ヲ算出スルコト

但右字土地並位置ノ選定、坪刈方法及收量算出方法ハ立會技術員ニ一任スルコト

九 前記ノ小作料減額申込期日後新ニ生ジタル風水害其ノ他不可抗力ニ因ル一般的不作ニ付キテハ稻立毛中ニ其ノ申込ヲ爲シ前項ノ方法ニ從ヒテ檢見又ハ坪刈ヲ行ヒ刈取後ニ於ケル小作料ノ減額要求ハ其ノ效ナキコト

十 不可抗力ニ因ル局部的不作ノ場合ハ其ノ田ニ就キ前二項ヲ準用シ小作料ノ減額ノ申込並檢見又ハ坪刈ヲ爲スコト

十一 檢見又ハ坪刈ノ結果其ノ成績ガ第八項記載ノ平年作ニ對シ八割五分以下ノ減收ノ場合ニ限り右平年作ノ八割五分ニ對スル不足額ノ二分ノ一ニ當ル數量ヲ小作料ヨリ減ジタル額ヲ以テ其ノ年ノ小作料ト定ムルコト

十二 小作人ガ施肥其ノ他耕作上ニ關シ故意ニ懈怠シタルガ爲メ生ジタル不作ニ付テハ減額ノ請求ヲ爲シ得ザルコト

十三 不作ノ原因ガ前項ノ原因ニ基クモノナリヤ否ハ立會技術員ノ判定ニ一任スルコト

十四 糯、早生、蔬菜、果樹、桑等ヲ栽培セル田、畑及宅地ニ付テハ不作ヲ理由トシテ小作料ノ減額ヲ請求シ得ザルコト

但一般的不作ニヨリ小作料ノ減免セラル、場合ハ右田畑ニ限り其小字又ハ接近セル字ノ標準ニ從ヒ減免スルコト

十五 檢見又ハ坪刈ニ要スル費用ハ地主及小作人ノ各平分負擔トシテ其ノ實施前ニ所要經費ヲ見積リ立會技術員ニ豫納スルコト

十六 本契約履行上當事者双方ノ協力ヲ要スル場合ニ其ノ一方ガ故ナク之ニ應ゼザルトキハ他ノ一方ニ於テ前記農會技術員ノ立會ヲ得テ爲シタル總テノ事項ニ付其ノ相手方ハ何等異議ヲ述べ得ザル事

十七 前記小作田畑ヲ耕作ノ目的以外ニ使用シ又ハ他人ニ轉貸シ若ハ小作土地ニ關スル權利ヲ他人ニ讓渡セントスル場合ハ小作人ハ必ズ地主ノ承諾ヲ受クルコト

若シ小作人故ナク之ニ違反シタル時ハ本件契約ハ其ノ違反行爲アリタル時ヲ以テ當然解除ト爲リ小作人ハ地主ヨリ該小作土地ノ返還ヲ受クルモ異議ナキコト

但小作人ヨリ地主ニ對シ疾病、兵役、蔬菜輪作等止ムヲ得ザル事由ニ因リ一時的轉貸ノ申込アリタルトキハ地主ハ正當ナル事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ザルコト

十八 各地主ハ其ノ小作土地ヲ他ニ賣却セントスル場合ニハ先ヅ關係小作人ニ其ノ旨ヲ通告スベク小作人ハ右通告ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ買取希望ノ有無ヲ地主ニ回答スルコトトナシ若シ買受ケ希望ノ回答アル場合ハ互ニ誠意ヲ旨トシ價格其ノ他ノ事項ニ付協議スベク若シ協議調ハサルトキハ地



主ハ他ニ自由ニ處分シ得ルコト  
此ノ場合ハ當該地主ハ買主ヲシテ成ルベク従前ノ小作人ニ當該土地ノ小作ヲ繼續セシムルコトニ努カスルコト

若シ小作繼續ヲ爲ス能ハザルトキハ賣主ニ於テ小作人ニ對シ相當ノ作離料ヲ支給スルコト

十九 小作人ハ當該地主ヨリ自作其ノ他止ムコトヲ得ザル事由ニ基キ所要反別返還時期ヲ定メテ土地返還ノ請求ヲ受クタルトキハ必ス之カ請求ニ應スルコト

但シ小作人ニ於テ返還理由ニ付キ異議アルトキハ當事者ハ村長竝「利害關係ナキ」村會代表者ノ意見ニ從ヒ之カ解決ヲ爲スコト

若シ之ニ依リ解決ヲ爲ス能ハザルトキハ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲ爲シ其ノ調停ヲ調停委員會ニ一任シテ適當ナル決定ヲ受クルコト

二十 本件土地竝小作料ニ關スル訴訟（京都地方裁判所昭和四年（ワ）第一四五號土地引渡請求事件同四年（ワ）第四八〇號小作料請求事件）ハ地主ニ於テ全部之ヲ取下ケ小作人ハ之カ取下ニ同意シ地主ハ小作人ニ對シ曩ニ爲シタル動產假差押ハ之ヲ解放スルコト  
小作人ハ地主カ右動產假差押ノ爲メ供託シタル供託金ニ付キ擔保取消ニ同意シ且擔保取消決定ニ對シテハ抗告ヲ爲サ、ルコト

二十一 前記訴訟費用及本件調停費用ハ各自辨ノコト

二十二 地主小作人双方ハ協力一致シテ有智鄉村ノ平和福利ノ増進ヲ圖リ共存共榮ノ目的ヲ達スル爲メ速ニ産業組合ヲ設立シ之カ事業ノ進展ヲ期スルコト

二七 京都府何鹿郡中筋村字大島 （小作料一時的減額並改定）  
（小作地先買權附與）

爭議發生 昭和三年十二月二十日

調停申立 昭和四年十二月九日

解 決 昭和五年三月二十八日

關係人員 爭議 地主 十四人 小作人 四十二人

調停 右ニ同ジ（小作人申立）

關係土地 爭議 田 十町六反五畝二十四步

調停 右ニ同ジ

(一) 爭議ノ概況

本府ノ主要爭議竝調停事件ハ山城及口丹波地方ニ限ラレタリシガ近時漸ク奥丹波地方ニモ近代の色彩ヲ帶ビタル爭議ノ發生ヲ見ルニ至レリ

本件ハ昭和三年度ノ稻作減收ニ際シ小作人ハ委員ヲ選ビ小作料ノ二割減ヲ地主ニ申込ミタルニ地主



ハ舊慣ニ依リ個人交渉ヲ爲サント主張シタルモ小作人ハ從來ノ個人交渉ハ常ニ小作人ニ不利ナリシニ鑑ミ團體交渉ヲ主張シタル結果地主ハ一應一般地主ト協議ノ上返答ヲ爲スコトヲ約シタルガ其ノ後何等返答ナカリシ爲小作人ハ小作料ノ約八割ヲ内納シ更メテ小作料ノ高率且不均一ナルヲ理由トシテ此ノ際小作料改正方ヲ要求スルニ至レリ

昭和四年三月小作官ハ實情調査ノ際同村助役(地主ノ一人)ニ事件ノ經過ヲ聴取シ速ニ解決スル様注意セシニ不拘同年九月ニ至ルモ解決ニ至ラズ小作官ハ同村村長ニ右爭議ノ經過事情ヲ照會セシニ其ノ回答ノ要旨ハ地主トシテノ立場ヲ辯明スルニ過ギザリシ爲メ更ニ小作人側ノ意向ヲ照會セシニ小作人側ハ此ノ際適當ナル解決盡力方ヲ希望シ且不在大地主ノ一人府農會技師某ト共ニ小作官ニ於テ斡旋方ヲ依頼サレタルニ依リ小作官ハ同技師ヲ訪問シ事件ノ内容ヲ聴取シ更ニ圓滿解決方盡力セラル、様懲慝スル處アリタルモ同技師ハ此ノ際居村地主ニ追従スルノ外ニ途無シトノ事ナレバ更ニ居村地主ト折衝ヲ重ネタルモ地主ハ小作官ノ盡力ヲ喜バザルモノ、如キ形勢ナリシヲ以テ小作官ハ事件ノ紛争ヲ避クル爲メ此ノ上ハ調停申立ニ依リ解決セシムルニ如カズト思惟シ其ノ意ヲ双方ニ傳ヘタル處昭和四年十二月九日小作人側ヨリ遂ニ調停ノ申立ヲナスニ至レリ

(二) 調停ノ經過

昭和四年十二月二十三日京都地方裁判所舞鶴支部ニ於テ第一回調停委員會開催以來双方ヨリ實情聽

取調停ニ盡力ノ結果遂ニ昭和五年二月十二日ニ至リ双方當事者ハ一切ヲ調停委員會ニ無條件一任シタルヲ以テ調停委員會ハ小作官ニ小作料改正ニ關スル諸種事項ノ調査方依頼シ、小作官ハ爾來地主小作人ノ代表者及自作農各二名ノ立會ヲ得關係田地一筆毎ニ調査ノ上其ノ成績ヲ調停委員會ニ提出三月二十八日第五回調停委員會ニ於テ左記條項ニ依リ調停成立セリ

(三) 結 末

調 停 條 項

一 各地主ハ各小作人ニ對シ昭和正年度及其以降別紙目錄記載ノ土地ヲ該目錄記載ノ改正小作地等級ニ對スル左記小作料ニテ期限ノ定メナク從前通り小作セシムルコト  
但シ改正小作地等級土地壹反歩(三百坪)ニ對スル小作料ハ左ノ如シ

- 一 等地 壹石 三斗八升
- 二 等地 壹石 三斗五升
- 三 等地 壹石 三斗二升
- 四 等地 壹石 二斗九升
- 五 等地 壹石 二斗六升
- 六 等地 壹石 二斗三升



七等地	壹石二斗
八等地	壹石一斗七升
九等地	壹石一斗四升
十等地	壹石一斗一升
十一等地	壹石八升
十二等地	壹石二升
十三等地	九斗六升
十四等地	九斗
十五等地	八斗四升

別紙目録記載ノ土地ノ地番、反別等ハ何鹿郡中筋村役場備付ノ土地臺帳ニ依リタルモノナレハ若シ  
 同目録記載ノ分ニ付誤リアルトキハ右臺帳記載通り訂正スルコト

二 小作料ハ毎年十二月二十五日限り村内生産ニ係ル穀物生産検査等級丙以上ノ合格米ヲ以テ中筋村  
 ノ内地主ノ指定シタル場所ニ持參支拂フコト  
 若シ合格米ニテ不足スルトキハ其不足分ハ不合格米ニテ支拂フモ差支ナキコト  
 村外ニ持參支拂フ場合ニハ地主ハ相當ノ運賃ヲ支給スルコト

但シ四斗以下ノ端米及桑園等ノ小作料ニ付テハ金納スルモ差支ナキコト

三 小作人ガ前項ノ期日ニ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ地主ハ小作人ニ對シ支拂ノ催告ヲ爲シ右催  
 告書到達ノ日ヨリ十五日ノ期間内ニ支拂ヲ爲サルトキハ右催告期間滿了ノ時ヲ以テ當然本件契約  
 ハ解除セラレタルモノトシ小作人ハ該小作土地ノ返還請求ヲ受クルモ異議ナキコト

四 金納相場ハ其年十一月一日ヨリ十二月二十日迄ニ中筋村信用購買販賣組合ニ於テ二回以上共同販  
 賣ニ附シタル同村生産穀物検査等級丙ノ小粒米平均相場ニ依ルコト

若シ中筋村信用購買販賣組合ニ於テ共同販賣ヲ行ハサリシ場合ハ十二月二十一日ヨリ二十五日迄ノ  
 間ニ於テ地主及小作人ノ各總代立會ノ上同村生産検査丙ノ合格米小粒十石ヲ賣却シタル平均相場ニ  
 依ルコト

右平均相場決定ノ爲メ地主ヨリ小作人ニ小作料ヲ請求セシ場合ハ小作人ハ連帶シテ期限前ト雖モ前  
 記ノ該當米十石ヲ地主ニ支拂フコト

五 獎勵米ハ従前ノ例ニ依ルコト

六 昭和三年度及四年度ノ小作料ハ本爭議ヲ圓滿ニ解決スル趣旨ノ下ニ地主ハ第一項ノ小作料ヨリ五  
 分ヲ減ジタル額ヲ以テ昭和五年四月十日限り第二項ノ方法ニ從ヒ支拂フコトヲ承認スルコト  
 若シ米納スルコト能ハサル場合ハ一石金貳拾六圓ノ割合ニテ金納スルモ差支ナキコト



昭和三年度及四年度ノ小作料ニ限リ獎勵米ヲ給與セサルコト

七 小作人ハ本件小作田地ノ收穫米カ第一項ノ小作料ノ十八割ニ滿タサルトキニ非サレハ該小作料ノ減額ヲ請求シ得サルコト

減額ヲ請求セントスル場合ハ一般的不作ノ場合ニハ其年ノ十月二十日迄ニ小作人中ヨリ總代ヲ選任シ該總代ヨリ地主總代ニ對シ檢見又ハ坪刈ノ請求ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナキコト

八 前記請求アリタルトキハ直チニ地主及小作人各總代及郡農會又ハ村農會技術員立會ノ上作況類似ノ各小作地等級田地中ヨリ中等ノ作柄ト認ムル中生稻又ハ晚生稻ヲ二ヶ所乃至五ヶ所ニ付檢見又ハ坪刈ヲ爲シ右等級地毎ニ收量ヲ算出スルコト

右坪刈方法ハ京都府農會ニ於テ各町村米作坪刈調査ノ爲メ定メラレタル方法ニ依リ之ヲ行ヒ乾燥ノ上收量査定ヲ爲スコト

但シ右等級土地並位置ノ選定及收量算出方法ハ立會技術員ニ一任スルコト

九 前項ノ申込期日後新ニ生シタル風水、病虫害、其他不可抗力ニ因ル一般的不作ニ付テハ稻立毛中ニ其ノ申込ヲ爲スヘク稻刈取後ニ於ケル小作料ノ減額請求ハ其效ナキコト

十 不可抗力ニ因ル局部的不作ノ場合ハ其田地ニ付キテ前二項ヲ準用シ小作料減額ノ申込並檢見又ハ坪刈ヲ爲スコト

十一 檢見又ハ坪刈ノ結果其ノ成績カ第一項記載ノ小作料ノ十八割未滿ノ收量ノ場合ニ限リ右小作料ノ二十割ニ對スル不足額ノ二分ノ一ニ當ル數量ヲ該小作料ヨリ減シタル額ヲ以テ其年ノ小作料ト定ムルコト

十二 小作人カ施肥其他耕作上ニ關シ故意ニ懈怠シタルカ爲メ生シタル不作ニ付テハ減額ノ請求ヲ爲シ得サルコト

十三 不作ノ原因カ前項ノ原因ニ基クモノナリヤ否ヤハ立會技術員ノ判定ニ一任スルコト

十四 糯、早生稻、蔬菜、桑樹等ヲ栽培セシ田地及苗代素畑等ニ付テハ不作ヲ理由トシテ小作料ノ減額ヲ請求シ得ザルコト

但シ一般的不作ニ因リ小作料ノ減免ヲセラル、場合ハ右田地並ニ素畑ニ限リ其等級ノ標準ニ從ヒ減免スルコト

十五 檢見又ハ坪刈ニ要スル費用ハ地主及小作人ノ各平分負擔トシ其實施前ニ所要經費ヲ見積リ中筋村々農會長ニ豫納スルコト

十六 本件契約履行上當事者双方ノ協力ヲ要スル場合ニ其一方カ故ナク之ニ應セザルトキハ他ノ一方ニ於テ前記農會技術員ノ立會ヲ得テ爲シタル總テノ事項ニ付其相手方ハ何等異議ヲ述ヘ得ザルコト

十七 本件契約ヲ圓滿ニ履行セシムル爲メ地主及小作人ハ毎年夫々總代ヲ選定シ相手方ニ通知シ置ク



十八 小作人ハ地主ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ前記小作田地ヲ耕作目的以外ニ使用シ又ハ他ニ轉貸シ若クハ小作土地ニ關スル權利ヲ他人ニ讓渡スルヲ得ザルコト

十九 各地主ハ其小作土地ヲ他ニ賣却セントスル場合ニハ先ツ關係小作人ニ其旨ヲ通知スヘク小作人ハ右通知ヲ受ケタル日ヨリ壹週間以内ニ買取希望ノ有無ヲ地主ニ回答スルコト、ナシ若シ買取希望ノ回答アル場合ハ互ニ誠意ヲ旨トシ價格其他ノ事項ニ付協議スヘク若シ協議調ハザル時ハ地主ハ他ニ自由ニ處分シ得ルコト

此ノ場合當該地主ハ買主ヲシテ成ルヘク従前ノ小作人ニ對シ當該土地ノ小作ヲ繼續セシムルコトニ努力スルコト

二十 地主カ自作ノ目的ノ他止ムヲ得サル事由ニ基キ小作地返還ノ請求ヲ爲ス場合ハ少クトモ六ヶ月以前ニ請求ヲナシ双方誠意ヲ以テ交渉ヲ爲シ若シ之ニ依リ解決ナシ能ハザルトキハ小作調停法ニ依ル調停ノ申立ヲナシ其調停ヲ調停委員會ニ一任シ適當ナル決定ヲ受クルコト

廿一 本件調停費用ハ各自辨トス

廿二 地主小作人ハ互ニ情誼ヲ重ンジ親睦ヲ旨トシ固ク約束ヲ守リ和衷協同シテ中筋村ノ平和福利ノ増進ヲ圖リ以テ共存共榮ノ實ヲ舉グルニ努ムルコト (別紙省略)

備考 改正小作料ハ舊小作料ノ平均一割三分減ニ相當ス

二八 大阪府大阪市東成區鶴見町 (土地返還、作離料支給)

爭議發生 昭和二年七月一日

調停申立 昭和三年十二月二十四日

解 決 昭和四年十一月六日

關係人員 爭議 地主 十一人 小作人 百一人  
調停 地主 一人 小作人 四十一人(小作人申立)

關係土地 爭議 田 五十一町三反七畝二十三歩  
調停 田 十六町三反七畝二十三歩

(一) 爭議ノ概況

本件地方ハ從來農民組合運動ノ極メテ猛烈ナリシ地方ナルト、且土地ハ新市トシテ漸次宅地化サレ耕地ノ潰地運命ニアルコト從ツテ農作物ノ減收タルコト及地價暴騰ノ爲メ地主トシテ小作料ノ多寡ヲ論セザルモノ多ク爲ニ比較的複雑且深刻ナル爭議ヲ惹起シ來リシ所ニシテ其ノ實納小作料ノ如キモ反當四斗乃至七斗タル契約小作料ノ半額以下ノ狀況ニアリシナリ

然ルニ偶々大正十四年度作柄ニ付キテモ前記ノ如ク多少ノ不作タリシコトヲ理由トシテ大正十四年



度反當五斗乃至七斗納ヲ要求シ地主ハ全然之ヲ容認セズ、其ノ間種々部落内有志ノ調停斡旋アリシモ常ニ不成立ニ終リ爲メニ時日遷延昭和三年ニ至リ四ケ年間小作料ノ怠納又ハ未納ヲ來タシタルモノニシテ右ニ關シ遂ニ地主ハ毎年ノ小作料過大ノ減額ヲ憤リ其ノ不當ナル要求ヲ訴訟手段ニ訴ヘ徹底的ニ抑壓スベク關係地主ヲ糾合シテ法廷戰ニ移リタリ

其ノ内不在地主(大阪ニテ商業ヲ營ム)トシテ獨自小作料請求、土地返還請求訴訟ヲ提起セルモノガ本件地主ニシテ訴訟續行中和解勸告モアリタルガ成ラズ遂ニ昭和三年十二月二十四日ニ至リ小作人ヨリ耕作繼續ノ調停申立ヲ爲シタルモノナリ

(二) 調停ノ經過

仍チ小作官ハ實情調査ノ後昭和四年四月二十六日第一回ノ委員會ヲ開催セルニ小作人ハ飽迄耕作繼續ヲ希望シ從來ノ小作料ニ付キテハ大正十四年度反當五斗乃至七斗、大正十五年度反當四斗乃至五斗昭和二年度反當四斗乃至五斗、昭和三年度反當三斗乃至四斗納ヲ主張シ、地主ハ昭和五年十一月迄ノ耕作繼續ヲ認メ以後ハ直チニ無償ニテ土地返還ヲ求ムルコト、未納小作料ノ減額ハ委員會ニ一任スベク主張シ爾來第四回委員會ニ於テ小作人ハ遂ニ土地返還ノ止ムナキヲ諒解シ問題ハ作離料支給ニ逢着シ小作人ノ主張四ケ年分小作料免除ノ上反當三百圓、申主ハ四ケ年小作料免除ノ上反當百圓ヲ支給スベク主張シテ互ニ譲ラズ前後回ヲ重ネルコト九回、時ニ夜ヲ徹シテ調停ニ努力セル結果遂ニ小作人ハ

五ケ年分小作料免除ノ上反當百五十圓、外小屋、肥壺ノ補償トシテ總額三千圓ヲ要求シ、一方地主ニ於テハ小作料五ケ年分免除ノ外反當百十圓支給、小屋肥壺ノ補償ヲ爲サズト主張シタリシモ委員會ノ熱誠ナル努力ニ依リ双方解決ヲ一任シテ次項ノ如ク圓滿解決スルニ至レリ

(三) 結

末

右調停委員會ニテ決定セル條項左ノ如シ

調停條項

- 第一項 申立人等各自ハ賃借人トシテ從來賃借小作シ來レル相手方所有ノ第一別表記載通りノ各地所ヲ相手方ニ返還スルモノトス
- 第二項 申立人各自ハ前項ニ依ル返還地所ヲ昭和五年一月二十五日迄ニ作物其ノ他ノ存置物件一切ヲ收去ノ上相手方ニ引渡スヘク若シ然ラサルトキハ右期限ノ滿了ト共ニ地所ハ當然引渡アリタルモノト看做シ相手方ハ該地上ニ存スル作物其他ノ物件一切ヲ任意ニ處分シ得ヘク之カ爲メニ損害ヲ生スル事アルモ相手方ハ何等其ノ責ニ任セザルモノトス
- 第三項 申立人等ハ本年度表作收穫後返還スヘキ地所ノ上ニ裏作ノ作付ヲ爲シ得サルモノトス
- 第四項 相手方ハ申立人等ニ對シ右地所ノ返還ニ對スル補償金トシテ第二別表記載ノ宛反別ニ從ヒ壹反歩ニ付金百拾八圓ヲ贈與スル外大正十四年以降昭和四年迄ノ小作料全部ヲ免除スルモノトシ申立



人等ニシテ大正十四年及大正十五年ノ兩年度ニ亘リ小作料ノ一部ヲ納入シ居ル者ニ就テハ其ノ内入額(第三別表内入額欄記載通り)ヲ米價一石金參拾圓ニ換算シタル金員ニ依リ返戻スルモノトス

第五項 相手方ハ申立人等カ前記返還スヘキ地所ノ上ニ爲シタル増施設(其ノ内容ハ第四別表記載通り)ニ對シ之ヲ一括シタル補償トシテ金千九拾九圓貳拾錢ヲ贈與スルモノトス

第六項 右第四項及第五項ニ依リ相手方ヨリ申立人等ニ交付スヘキ金員ハ申立人等ニ於テ返還地所ノ明渡ヲ爲シタル後五日以内ニ大阪地方裁判所小作調停室ニ於テ同主任官立會ノ下ニ其ノ授受ヲ爲スモノトス

第七項 申立人等カ第二項所定ノ期間迄ニ返還地所ノ任意引渡ヲ爲サザリシトキハ第四項ニヨリ得ヘキ利益ヲ喪ヒ約定通りノ小作料(第二別表宛米欄記載通り)ヲ支拂フヘキハ勿論地所ノ返還ニ對シテハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ一切金品ノ交附ヲ相手方ニ請求シ得ザルモノトス

第八項 申立人等各自ハ本件地所ノ賃借人トシテ現在ニ至ル迄他人ニ其ノ賃借權ヲ讓渡シ若クハ地所ノ占有ヲ他ニ移シ居ラザルコトヲ承認シ且申立人等ハ本調停ノ成立ト共ニ本件地所ニ關シ本調停條項ノ定ムル以外ニハ何等ノ權利ヲモ主張シ得ザルモノトス

第九項 相手方カ本件地所ニ關シ申立人等ニ對シ現ニ提起シ居レル訴訟ハ之ヲ取下ゲ申立人等ハ之ニ同意スルコト

第十項 本案訴訟竝ニ本調停ニ關スル費用ハ双方各自辨ノコト (別表省略)

二九 大阪府南河内郡大草村大字草尾 (慣習小作權賠償、小作人土地買受、土地一部賃借契約締結)

爭議發生 昭和三年九月二十六日

調停申立 第一回昭和三年十二月廿八日 第二回昭和四年一月八日 第三回昭和四年四月十五日

解決 昭和五年九月二十七日

關係人員 爭議 地主 二人 小作人 二千人  
調停 地主 一人 小作人 四百九十六人(三回共小作人申立)

關係土地 爭議 田三町六反四畝十三步 畑百十八町六反四畝二十九步  
宅地三萬五千六百九十五坪六合四勺 其他一町三反五畝十七步  
調停 田一町二反二畝十六步 畑八十二町六反二十一歩  
宅地二萬一千九百九坪六合四勺 其他一反二畝十六歩

(一) 爭議ノ概況

(一) 草尾新田ノ沿革(大要)

草尾新田ハ往古大野芝ト稱スル荒蕪地ナリシガ元祿十一年十一月江戸ノ町人太田某及京都ノ町人朝田某ノ兩人開墾ノ事ヲ發起シ元祿十二年四月和泉國露尾村ノ北村某、河内國草部村ノ大塚某ノ兩名ガ事業ヲ擔當シ當時其ノ附近部落農民(現在草尾ニ住居スル住民ノ祖先)ガ草開キヲ爲シ、元祿十五年



十一月ニ至リ開墾ノ功ヲ奏シタルヲ以テ改メテ草尾新田ト稱スルニ至リ前記兩人ヲ地主トシテ永小作權的ノ小作人トナリ其ノ開墾セル草尾新田ニ居住専ラ農業ニ從事シ來リ年月ヲ經ルコト二百四十年ニ及ビ其ノ間田畑ノ耕作、竹木ノ所有、工作物ノ建設等ノ行爲ハ小作人ノ自由意志ニヨリ小作人ノ選擇ニ任セタルノミナラズ小作權ノ賣買、質入、地目變換等ニ至ル迄小作人ノ自由タルベキ慣習ヲ醸成シ小作權ヲ優越セル物權的權利ヲ認メタルガ如キ觀アリテ地主對小作人ノ關係ハ極メテ平和ナル經過ヲ持續シ來リタリ

(二) 本爭議發生ニ至ル迄ノ紛爭

(イ) 明治四十五年六月二十八日當時ノ地主兒山某ハ小作人三名ヲ相手取り建物取拂、耕地返還ノ請求訴訟ヲ大阪地方裁判所ニ提起シタルモ一、二、三審共「原告(地主)ノ祖先ハ被告(小作人)ノ祖先トノ間ニ默示又ハ明示ノ契約慣習ニ依リ小作地上ニ自由ニ其ノ撰擇ニ依リテ建設シタル工作物ノ存續スル限り之ガ收去ヲ求メザルコトヲ承認セルモノニシテ小作證書ノ如キハ畢竟慣例トシテ差入レ居ルモノニシテ之ニ依リテ其ノ使用ノ拘束ヲ受クル意志ヲ以テ契約セルモノニアラズシテ契約當時ニ於ケル土地ノ現狀ガ畑地タルノ關係上其ノ必然ノ目的ニノミ着眼シテ之ガ記載ヲ爲シタルモノニ過ギザルモノト解ス」トノ判決アリテ被告(小作人)側ノ勝訴ニ歸シタリ

(ロ) 明治四十五年七月小作人淺田某外數名ハ權利確認請求訴訟(工作物竹木所有及耕作ノ爲メニ土

地ヲ使用シ得ル權利)ヲ大阪地方裁判所ニ提起シ一、二審ハ小作人側ノ敗訴トナリ三審ニ於テ前審大阪控訴院ニ差シ戻サレ遂ニ「被告(地主)ハ原告(小作人)ニ對シ原告ガ別紙物件表ノ土地ヲ工作物、竹木所有ノ爲メ又ハ耕作ノ爲メ無期ノ賃借權ヲ有スルコトヲ確認ス」ト判決言渡アリ

(ハ) 大正九年四月地主兒山某ハ小作人小谷某ヲ相手取り其小作土地返還請求訴訟ヲ大阪地方裁判所ニ提起シ一、二審トモ地主ノ敗訴トナリ三審ニテ前審大阪控訴院ニ差戻サレ遂ニ地主ノ勝訴トナリ土地ヲ返還セリ

(三) 土地讓渡ニ關スル交渉狀態

然ルニ當時大阪市附近ニ於テ永小作地ヲ分割シテ解決セラル、ヤ之ニ刺戟セラレ小作人一同共同ニテ小作地ヲ買受クベク大正十二年五月小作人小谷某ハ前代議士高松某ト共ニ地主ニ會見シ

一 草尾新田百三十町ヲ金六十萬圓ニテ小作人ニ讓渡セラレタシ

二 代金ハ自作農創設ノ主旨ニ依ル政府ヨリ低利資金ヲ得テ支拂フベシ

ト交渉シタルモ價格ニ付交渉纏ラズ一頓挫ヲ來シタリ

然ルニ地主兒山某ハ當時經營セル兒山銀行ニ關連シテ經濟的苦境ニヨリ到底草尾新田ヨリ受クル小作料(反當三斗乃至四斗一ヶ年約一千圓)ニテハ同新田維持困難ノ爲メ遂ニ小作關係ハ地主兒山ニ於テ解決スベキ條件ヲ以テ關西土地株式會社ニ草尾新田全部ヲ擧ゲテ賣却シ、次イデ關係小作人ニ其旨



通告土地返還ヲ求メタリ

右ノ情報ニ接シタル小作人ハ大ニ打驚キ草尾新田ハ前記ノ如キ沿革地ナルニ係ハラズ地主ノ措置ハ不當ナリトテ夫々代表者ヲ舉ゲ更ニ會社トノ賣買契約ヲ取消シ小作人側ニ讓渡方ヲ要求セルモ地主ノ容ル、所トナラズ、昭和三年十二月四日關係小作人百五十名ハ府當局ニ其ノ窮狀ヲ陳情シ大衆行動ニ依ツテ輿論ヲ喚起セントセリ

然ルニ會社ニ於テハ意外ニ土地明渡ノ容易ナラズ事業進捗上支障アルヲ以テ小作人中一部ノモノニ明渡催告ヲ爲シ更ニ之ニ應ゼザルヤ土地立入禁止假處分ノ舉ニ出デムトシ益々惡化ノ形勢ニアリ、小作人モ亦一部全國農民組合ニ加入シ其ノ對策ヲ練ル一方元地主兒山ニ會見シ土地讓渡方ノ再交渉ヲ爲シタルニ地主ハ

- 一 土地全部ヲ會社ニ引渡サレタシ
- 二 會社使用地以外ノ土地ハ小作料ヲ從前通りトシ區劃整理後小作人ニ引續キ貸與ス、但シ小作料ノ納期ハ毎年十二月二十日トシ土地入用ノ際ハ一ヶ月前ニ其ノ旨通告ス
- 三 引上ノ際毛上現存スルトキハ大草村長立會ノ上毛上ヲ時價ニ見積リ買收スルコト
- 四 引揚土地ニ對シテハ反當七十圓ノ作離料ヲ支給ス
- 五、宅地ハ本年十月一日現在隣地ノ價額ヲ標準トシ算定ノ上希望者ニ分讓スルコトヲ主張セルニ其

ノ條件タルヤ小作人等祖先傳來ノ土地ニ對スル沿革、從來ノ慣習等ヲ全ク無視シタルモノナリトテ會見モ何等得ル所ナク決裂トナレリ

然ルニ關係地廣ク關係小作人ノ住居モ亦廣範圍ニ亘リ其ノ内會社ノ比較的早急ニ引上ヲ要セザル字上出口外三字小作人等約八十名土地田畑約二十町歩ニ關シテハ主トシテ前地主兒山某ヲシテ前記地主提案通りノ解決ヲ爲シタルモ殘部地ハ強硬ニ土地ニ對スル慣習、權利ヲ主張シテ之ニ應ゼズ内最モ急迫ニ引上運命ニアル字伊勢道ヲ中心トシタル關係小作人二十六名ハ遂ニ昭和三年十二月二十八日大阪地方裁判所ニ小作調停ノ申立ヲ爲セリ引續キ昭和四年一月及四月ニ第二回第三回ト殘部ノ調停申立ヲ爲シタルモノナリ

## (二) 調停ノ經過

是ヨリ先小作官ニ於テハ同問題ノ普通小作地ト事情ヲ異ニシ其ノ關係者ノ廣範圍ニシテ影響スル所多大ナルヲ以テ銳意土地ノ沿革竝ニ小作關係其他ニ亘リ數十日ヲ費シ詳細調査シ結果ヲ裁判所ニ送付シ置ケリ

調停申立後ニ於テモ尙當事者ハ其ノ我意ヲ主張シ爲メニ地主側測量隊ト亂闘事件ヲ惹起シタルコトアリ、或ハ又地主ハ小作人ノ懷柔買收ニ汲々トシ或ハ時ニ本件爭議ヲ取材トシテ芝居映畫等ニ仕組マラル等大ニ社會ノ視聽ヲ惹キタリ昭和四年九月四日第一回調停委員會ヲ開催シタルニ尙地主ハ飽迄其



ノ所有權ニヨリ土地返還方ヲ主張シ小作人亦萬古不易ノ慣習及土地ノ由來ニツキ永小作權の信念ニ基キ其ノ權利ヲ主張即チ土地ニ對シテ永小作權若ハ共有權ノ存在ヲ述べ甚ダシキニ至リテハ其ノ所有權ヲ主張スル等其ノ論點ニ關シテハ根本的觀念ノ相異ニヨリテ到底協定シ得ベクモ見ヘズ、時ニ主張ノ變化ヲ見ル一於テモ反當千五百圓乃至五百ノ作離料ヲ要求シ從ツテ會社ニ於テモ殊更強硬の態度ヲ持シ爲メニ兎角調停モ遲々トシテ進行セズ爾來委員會ノ回ヲ重ヌルコト三十二回其ノ間數度ノ現地檢證或ハ調停委員、小作官、判事等ノ會合ヲ催シ其ノ方針對策ニ付慎重審議ヲ重ネ時ニ決裂ノ域ニ達セシコト數回ナリシモ好ク調停委員並ニ關係者ノ絶大ナル努力ニ依リ漸ク當事者モ解決スベク意ヲ轉ジ會社ニ於テモ小作地ノ特殊關係ニツキ相當考慮ヲ爲スニ至リ結局關係地約二十二萬坪ノ内住宅經營地約三萬坪ヲ除キ殘部ヲ關係小作人ニ賣却スベク大體協定成リ昭和五年六月二十五日ノ委員會ニ於テ双方無條件ニ一任スルニ至レリ

其ノ後調停主任判事ハ本件調停案ノ立案ニ專念シ終ニ委員會ノ成案ヲ得昭和五年九月二十七日ノ第二十回目ノ調停委員會ニ於テ左記調停條項ニ依リ調停成立ヲ見ルニ至レリ、調停條項ノ要旨ハ關係耕地全部ヲ一應地主ニ返還シ、更メテ此ノ耕地ノ七割ヲ反當三百六十九圓(示談金ヲ相殺シタル價格)ニテ買受ケ、宅地ハ坪當五圓五十錢ニテ十五ヶ年賦均等償還ノ方法ニ依リ買受クルコトトス、而シテ若シ小作人ニ於テ右賣買契約ヲ破棄シタル場合又ハ會社ニ於テ當分不要ノ土地ハ新ニ賃貸借契約ヲ締結スルコト、セリ

因ニ第三回調停申立ノ分ノ中小作人七十九名、土地約二十四町歩ハ昭和四年八月二十一日ニ至リ曩ニ解決セル地主提案ト略同様ナル條項ニテ解決シ調停取下ヲナシタルヲ以テ今般調停成立ノ分ハ其ノ他ノ部分ナリ

### (三) 結 末

#### 調 停 條 項

第一條 申立人等ハ本件紛争ノ根本的解決方法タラシムルト共ニ解決後ニ於ケル申立人等相互間ノ内  
部關係ヲ圓滑ニ處理スル便宜上一旦係争地ニ對スル各自從來ノ小作關係ヲ消滅セシムル趣旨ノ下ニ  
係争地タル第一別表記載ノ各自ノ小作地ヲ夫々其ノ所有者タル相手方ニ返還スルコトヲ承認シ且ツ  
之ト同時ニ其ノ土地ニ對スル占有ヲ解キテ之ヲ相手方ニ移スモノナルコトヲ承認ス

第二條 申立人等ハ各自カ前項返還地所上ニ存置セル一切ノ所有物件ヲ昭和五年十二月二十日迄ニ收  
去スヘク若シ然ラサルトキハ右期間ノ滿了ト同時ニ當然其ノ所有權ヲ拋棄シタルモノト看做シ相手  
方ニ於テ之ヲ任意ニ處分シ得ルモノトス

但シ申立人等カ本調停成立前ヨリ植付ケ居リ且ツ右收去期間内ニハ其ノ收穫時期ノ到來セサル作毛  
ノ現存セル地所ニ付テハ相手方ハ當該作付者ニ於テ其ノ作毛ノ收穫ヲ完了スル迄收去期間ヲ延長ス



ルカ然ラサレハ右收去期間滿了當時ニ於ケル市價ニ依リ其ノ作毛ヲ買取ルコトヲ要シ其ノ市價ニ争アルトキハ双方若クハ一方ヨリ大阪地方裁判所小作調停部主任判事ニ其ノ旨申出テ其ノ裁定ヲ仰キ其ノ裁定ニ對シテハ双方絶對ニ服從スル義務アルモノトス

第三條 相手方ハ申立人等カ本調停ヲ成立セシムル上ニ於テ土地ノ返還若クハ其ノ買受等ノ諸種ノ讓歩ヲ爲シタル苦痛ヲ慰藉スルタメ全調停地ニ對シ一坪當リ金壹圓貳拾九錢壹厘ノ示談金ヲ共同受取人トシテ申立人等全員ニ交付スルモノトス

但シ右示談金ハ第四條ノ別記第一耕地賣買約款(丙)ノ定ムル所ニ依リ當該賣買代金ト相殺スル外現金ニ依ル交付ヲ爲ササルモノトシ從テ同條ノ賣買契約カ解除其ノ他ノ事由ニ依リ全然實行ヲ見スシテ了リタルトキハ之ヲ交付スヘク又同條ノ別記第一耕地賣買約款(壬)ノ(一)ノ場合ニ於テハ其ノ一部解除ニ依ル賣買地面積ノ減少率ニ比例シテ之ヲ減額(解除部分ノ地面積ノ數ヲ示談金額ノ數ニ乘シ其ノ積ヲ賣買地所ノ總面積ノ數ニテ除シタル商ニ相當スル額迄)スルモノトス

第四條 相手方ハ申立人等全員ヲ共同買受人トシテ第二別表記載ノ地所全部ヲ別記第一耕地賣買約款ノ下ニ賣渡シ申立人等全員ハ共同シテ之ヲ買取リ以テ其ノ所有權ノ移轉ヲ了スルモノトス

第五條 前條ノ賣買契約カ解除セラレタルトキハ當事者双方ハ其ノ解除ノ效力發生ト共ニ第一別表記載ノ地所ヲ別記第三耕作地賃借約款ノ下ニ新ニ賃借借スルモノナルコトヲ約諾ス

但シ右地所中ニ右賣買契約解除當時既ニ相手方ニ於テ住宅地トシテ經營工事ニ着手シ若クハ其ノ準備ヲ爲シツツアルモノアルトキハ相手方ハ其ノ部分ノ地所ニ付賃借借契約ヲ解除スルコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ賃借借契約成立後一ケ年以内ニ解除アリタルモノトシテ別記第三耕作地賃借借約款(九)ノ定ヲ適用スルモノトス

第六條 相手方ハ申立人等ノ内現ニ第三別表記載ノ住宅地ヲ占有シツツアル者等(同表中地上家屋所有者欄記載ノ者)ヲ各單獨買受人トシテ同表記載ノ各自占有地所ヲ別記第二宅地賣買約款ノ下ニ賣渡シ各關係申立人等ハ夫々之ヲ買受ケ以テ其ノ所有權ノ移轉ヲ了スルモノトス

第七條 相手方ハ第一條ニ依リ返還ヲ受ケタル地所中ノ自己ノ都合上當分不要ト認ムル地所アルトキハ之ヲ當該返還者タル從來ノ小作人ニ新ニ賃借スルモノトシ此ノ賃借借ニ付テハ第五條ニ依ル別記第三耕作地賃借借約款中其ノ(八)ノ但書及(九)ヲ除キ爾餘ト同一ノ各約款ニ遵據スヘク賃借人ハ賃借人ノ必要上賃借地ノ返還ヲ爲ス場合ニ於テモ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス一切金品ノ交付ヲ要求シ得サルモノトス

第八條 申立人等ハ本調停成立後相手方ニ於テ大草村内ニ於ケル其ノ所有地所ニ就キ住宅地經營工事ヲ爲スニ當リ土地ノ測量ヲ必要トスル場合第一別表及第三別表記載ノ本件係争地所全部ニ亘リ何時ニテモ自由ニ之ニ立入りテ測量ヲ爲シ又ハ其ノ爲ノ標杭ヲ打込ムコトヲ容認シ假令第四條及第六條



ニ依リ買受ケタル地所ニ付テモ之ヲ拒ミ若クハ妨害スルコトヲ得サルモノトシ若シ其ノ拒絶若クハ妨害アリタルトキハ之カ發生シタル地所ノ耕作地ナルト宅地ナルトノ別如何ニ從ヒ相手方ハ第四條若クハ第六條ノ賣買契約ヲ解除スルコトヲ得

但シ相手方ハ其ノ測量ノ爲申立人等ノ作物又ハ建物等ノ地上物件ニ害ヲ與フルカ如キ方法ヲ採ルコトヲ得サルヘク若シ之ニ損害ヲ與ヘタルトキハ其ノ賠償ヲ爲スヘキモノトス

第九條 申立人等ハ本調停ノ成立ニ依リ相手方ニ對スル限リニ於テハ本件係争地ニ對スル申立人等ノ從來ノ小作關係カ永小作權ナリトスル主張ヲ拋棄シ向後其ノ主張ニ基ク何等ノ要求ヲモ相手方ニ爲ササルモノトス

第十條 相手方ハ申立人等カ支拂フヘキ本件係争地ニ對スル昭和五年度ノ小作料ヲ免除スルモノトス  
第十一條 本調停ニ關スル費用ハ双方各自辨ノコト

第一 耕地賣買約款

(甲) 賣買ノ目的物件ハ第二別表附屬地圖ニ朱線ヲ圍ラシタル地域中登記簿面上ノ地目如何ニ拘ラス事實上宅地トシテ買受人等及本件外ノ第三者ノ現ニ使用セルモノ竝ニ本件外ノ第三者ニ於テ一筆ノ耕地ノ一部ヲ事實上宅地トシテ使用セル其ノ筆ノ殘部分ノ耕地ヲ除キタル爾餘ノ相手方所有地全部ニシテ其ノ地番地目及反別ハ第二別表記載通リトス(同表ノ反別數ハ一筆ノ地所全部カ耕地トシテ

使用セラレツツアルモノハ登記簿面ニ從ヒ一筆ノ地所中其ノ一部カ事實上宅地トシテ使用セラレツツアルモノハ其ノ宅地部分ノ實測面積ヲ同地所ノ登記面積ヨリ控除シタル殘數ヲ掲ケタルモノトス

(乙) 賣買代金ハ金參拾七萬七千貳百拾四圓四拾壹錢四厘トス  
但シ一坪當リ(若クハ一步)金參圓四錢六厘ノ割合トシ若シ第二別表ノ記載ニ脱漏若クハ違算アリテ面積ニ増減ヲ生シタルトキハ代金額ハ右單價ニ依リ計算スルモノトス

(丙) 賣買代金ハ前記調停條項第三條ノ示談金ト各其ノ總額ノ對當額ニ於テ相殺シ買受人ハ其ノ殘額ノミヲ現實支出スルモノトス  
但シ其ノ殘額カ賣買地所ノ總面積ニ割リ當テ一坪當リ金壹圓貳拾參錢ヲ超ユル計算ト爲リタルトキハ其ノ超過部分丈ケハ賣主ニ於テ代金額ヨリ減免スルモノトス

(丁) 賣買代金ノ支拂ハ共同買受人全員ノ連帶負擔トス

(戊) 賣買代金ノ支拂時期ハ之ヲ三回ニ分チ

- 一 右相殺殘額ノ一割ハ昭和五年十月末日限リ
  - 二 金五萬圓ハ昭和五年十二月二十日限リ
  - 三 其ノ殘額ハ昭和六年三月末日限リ
- 支拂フヘキモシトシ其ノ都度双方ハ大阪地方裁判所小作調停部ニ出頭シ同小作調停係判事ノ立會ノ



下ニ其ノ授受ヲ爲スモノトス

(巳) 賣主ハ買主カ前項一及二ノ支拂義務ヲ履行シタル後遲滯ナク之ニ賣買地所ノ引渡ヲ爲スヘキモノトス

此ノ場合ニ於テ賣買地所中

(イ) 第三者カ其ノ小作ヲ爲シ居ル地所ニ付テハ賣主ハ其ノ責任ニ於テ第三者ノ小作關係ヲ消滅セシメ且ツ其ノ地上ニ存スル一切ノ物件ヲ收去セシメタル上之カ引渡ヲ爲スヘク

(ロ) 第一條ニ依リ返還ヲ受ケタルモノト同一ナル地所ニシテ第二條但書ノ適用ヲ受ケ返還前ノ小作人カ植付ケタル未收穫ノ作毛カ尙現存セルモノニ付テハ賣主ハ其ノ現狀ノ儘之カ引渡ヲ爲シ買主ハ異議ナク之ヲ受クヘキモノトス

(庚) 賣主ハ買主ニ於テ賣買代金ノ支拂ヲ完済シタルトキハ直チニ賣買地ノ所有權移轉登記ヲ買主若クハ其ノ指定シタル者ニ仕渡スヘキモノトシ其ノ登記ニ要スル費用ハ買主ノ負擔トス

(辛) 賣買地所ニ對スル公租公課ニシテ本賣買契約成立後ニ其ノ徵收期ノ到來スルモノハ總テ買主ノ負擔トス

(壬) (一) 買受人等カ本契約成立後其ノ内部關係ニ於ケル都合上買受地所ノ一部ヲ不要トスルニ至リタルトキハ其ノ不要面積カ全賣買面積ノ三分ノ一以下ニシテ且ツ昭和五年十二月五日迄ニ其ノ旨

賣主ニ申入レタルトキニ限り其ノ一部ニ付テノミ賣買契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

此ノ場合ニ於テハ解除セラルヘキ地所ハ賣主ノ任意選定ニ委スヘク買受人自ラ選定スルヲ得サルモノトス

(壬) (二) 買受人ハ本契約成立後賣主ニ於テ大草村内ニ經營スヘキ住宅地ヘノ通路開設ニ必要ナル敷地トシテ賣買地所ノ一部ノ買戻ヲ要求シタルトキハ本調停成立後一ケ年内ニ限り其ノ要求ニ應ジ一坪當リ金壹圓貳拾參錢ノ割合ニ依ル代金ニテ其ノ要求地所ヲ賣戻スヘキモノトス此ノ場合賣戻人ハ賣戻地所ヲ直チニ買戻人ニ明渡スヘク若シ其ノ地上ニ作毛ノ現存スル場合ハ買戻人ニ於テ時價ニ依リ之ヲ買取ルヘキモノトス時價ニ付爭アルトキハ双方若クハ一方ヨリ其旨申出テ大阪地方裁判所小作調停係判事ノ裁定ヲ仰キ其ノ裁定ニ對シテハ双方絶對ニ異議ヲ述ヘ得サルモノトス

(癸) 本賣買契約當事者ノ一方カ其ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ相手方ハ少クトモ二十日ノ期間ヲ餘シテ其ノ履行ヲ催告シ尙之ニ應セサルトキハ本賣買契約ヲ解除スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ賣主ハ既收ノ代金アルトキハ之ヲ無利息ニテ買主ニ返還シ買主ハ既ニ引渡ヲ受ケタル地所ヲ賣主ニ明渡スヘキモノトシ其ノ何レニ付テモ契約解除後十日以内ニ各其ノ授受ヲ了スルモノトス

尙右後者(地所ノ明渡)ニ付テハ調停條項第二條ノ定ヲ準用ス



第二 宅地賣買約款

(一) 賣買物件ハ登記簿面ノ地目カ宅地ト爲リ居ルモノト否トニ拘ラス宅地トシテ現ニ買受人等カ使用セル第三別表記載通りノ地所トシ同表中地上家屋所有者欄記載ノ者ニ於テ其ノ上欄記載ノ地所ヲ夫々現ニ使用ノ儘ニテ買受ルモノトス

(二) 賣買地所ノ面積ハ登記簿面ノ面積ニ從フモノトス

但シ登記簿上宅地ナラサルモノニシテ其ノ一部分ノミヲ宅地トシテ事實上使用シツツアルモノニ付テハ其ノ宅地部分ノ實測面積ニ依ルモノトス

(三) 賣買代金ハ一坪當リ金五圓五拾錢ノ割合ニ依リ計算シタル額トス

(四) 買受人ハ昭和五年十月末日迄ニ買受代金總額ノ百分ノ十以上ヲ内入金トシテ賣主方ニ持參支拂ヒ其ノ殘額ハ年七分ノ利息ヲ附シ昭和六年ヨリ向フ十五ケ年間ニ均等年賦崩濟スヘク其ノ年賦金ハ之ヲ二等分シ毎年二回六月末日及十二月二十五日限リ賣主方ニ持參支拂フモノトス  
但シ右期間内ト雖モ殘額ノ一時拂ヲ妨ケス

(五) 賣買地所ノ所有權移轉登記ハ買主ニ於テ右賣買代金ヲ完了シタルトキ直チニ之ヲ爲スヘキモノトシ之カ登記料ハ買主ノ負擔トス

但シ買受人カ右年賦崩濟ニ依リ代金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合其ノ支拂額カ代金總額ノ三分ノ一ニ達シ

タル後其ノ後ノ年賦拂ノ殘代金全額ヲ債權額トシ賣主ノ爲買受地所上ニ抵當權ヲ設定シタルトキハ直チニ其ノ所有權移轉登記ヲ爲サシムルコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ該登記完了ト共ニ抵當權設定登記ヲモ爲スヘキモノトス

(六) 賣買地所ニ對スル公租公課ニシテ本契約成立後ニ其ノ徵收期ノ到來セルモノハ買受人ノ負擔トス

(七) 買受人ハ賣買地所ノ所有權移轉登記前ニ之ヲ他ニ轉賣スルコトヲ得サルモノトス

(八) 本契約成立後賣主ニ於テ大草村内ニ經營スヘキ住宅地ヘノ通路敷設ヲ設計シ其ノ敷地トシテ賣買地所中ヨリ其ノ必要部分ノ賣戻ヲ要求シタルトキハ當該部分ノ買受人ハ本契約成立後一年以内ニ限リ必ス之ニ應シテ賣主ノ指定セル地所ヲ本契約ノ賣買代金ト同一價格ニテ賣戻スヘキモノトス  
此ノ場合買受人ハ賣主ノ指定地域ニ付之カ變更ヲ求ムルコトヲ得サルモ賣主ノ指定セル地域カ假令其ノ買受地ノ一部ニ過キサ場合ト雖モ之ヲ割讓スルコトニ依リ地上ノ建物ニ撤回若クハ著シキ改造ヲ必要トスルカ如キ影響ヲ及ホス結果トナルトキハ其ノ買受地全部ノ買戻ヲ要求シ得ヘク賣主ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

(九) 前項ノ場合ニ於テ買受人ハ其ノ賣戻地所上ノ建物全部ノ移轉若クハ著シキ改造ヲ要スルトキハ賣戻ノ日ヨリ六ヶ月ニ然ラサルトキハ一ヶ月以内ニ其ノ賣戻地所ヲ賣主(買戻人)ニ明渡スヘク賣



主（買戻人）ハ之ニ對シ相當ノ補償金ヲ協定交付スヘキ義務アル外買受人（賣戻人）カ建物全部ヲ移轉シテ立退クヘキ場合ニ於テハ買受人（賣戻人）ノ要求ニ依リ其ノ賣戻地ノ附近ニ於テ之ニ相當スル代地ヲ本契約ニ定ムル所ト同一ノ條件ニテ賣渡スヘキモノトス

右補償ノ金額若クハ代地ノ地域ニ關シ爭ヲ生シタルトキハ大阪地方裁判所小作調停係判事ニ申出テ其ノ裁定ヲ仰キ此ノ裁定ニ對シテハ双方絶對ニ服従スルモノトス

（十） 本契約當事者ノ一方カ其ノ契約上ノ義務ノ履行ヲ怠リタルトキハ其ノ相手方ハ一ヶ月ヲ下ラサル期間ヲ余シテ其ノ履行ヲ催告シ尙應セサルトキハ本契約ヲ解除スルコトヲ得

（十一） 前項其ノ他ノ事由ニ依リ本賣買契約カ解除セラルルニ至リタルトキハ

（イ） 買受人ハ解除後六ヶ月以内ニ地上ノ建物其他一切ノ存置物件ヲ收去シテ賣主ニ其ノ賣買地所ヲ明渡スヘク若シ然ラサルトキハ右期間ノ滿了ト同時ニ任意明渡アリタルモノト看做シ地上ノ存置物件ハ賣主ニ於テ買主ニ代リ之ヲ收去シテ買受人ニ引渡スコトヲ得ヘク買主カ其ノ引渡ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ之ヲ換價シテ其ノ賣得金ヲ供託スルモノトシ之カ爲ニ損害ヲ生スルコトアルモ賣主ハ一切其ノ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

（ロ） 賣主ハ既收代金アルトキハ買受人ノ選擇ニ從ヒ解約後一ヶ月内ノ其ノ元金ノミヲ返還スルカ又ハ本契約ノ定ムル所ニ從ヒ既收代金ニ相當スル面積ノ地所ヲ賣主自ラ選定シテ買受人ニ交付ス

ヘキモノトシ買主ハ解除後二十日以内ニ其ノ何レニ依ルヘキカヲ撰擇シテ賣主ニ通告スヘク若シ右期間内ニ通告ナキトキハ賣主ニ於テ任意撰擇スルモノトス

但シ賣主カ前記（イ）ニ依リ地上ノ存置物件ヲ買主ニ代リ收去シタルトキハ右何レノ場合ニ於テモ之ニ要シタル費用ヲ既收代金ヨリ控除シタル其ノ殘額ニ依ルモノトス

（十二） 本賣買契約カ解除セラルルニ至リタル場合其ノ解除カ

甲、買受人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ原因セルモノナルトキハ前項（イ）前段ノ地所明渡ヲ任意ニ履行シタルトキニ限り其ノ明渡地所面積ニ應シ一坪當リ金四拾錢ノ割合ニ依ル立退料ノミヲ賣主ヨリ地所明渡ト同時ニ買主ニ交付スルモノトシ（家屋ノ移轉ニ付テハ何等支給セス）

乙、賣主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ原因セルモノナルトキハ前項（イ）ノ地所明渡ニ對シ明渡地所面積ニ應シ一坪當リ金壹圓八拾錢ノ割合ニ依ル立退料ノ外地上建物ノ移轉料トシテ建坪一坪ニ付金拾圓ノ割合ニ依ル金員ヲ地所ノ明渡ト同時ニ買主ニ交付スヘキモノトス

（十三） 調停條項第四條ニ依ル賣買契約カ解除セラレテ同第五條ノ適用ヲ見ルニ至リタル後本賣買契約カ解除セラレタルトキニ限り當事者双方ハ本賣買契約ノ解除ノ效力發生ト同時ニ本契約ノ目的タル地所ヲ別記住宅地賃貸借約款ノ下ニ新ニ賃貸借スルモノナルコトヲ約諾ス  
此ノ場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セサルモノトス



但シ契約解除カ買主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ原因シタルモノナルトキハ賣主ハ既收代金ノ返還ヲ爲ササルモノトス

第三 耕作地賃貸借約款

(一) 賃貸借ノ目的物ハ第一別表記載ノ各地所トシ同表中小作人ノ氏名欄ニ記載シタル者ニ於テ各其ノ上欄ニ表示セル地所ヲ夫々賃借スルモノトス

(同表ニ表示セル地所ノ面積ハ一筆ノ全部カ耕作ノ爲ニ使用セラルルモノハ登記簿面ニ從ヒ一筆ノ内其ノ一部カ住宅地トシテ使用セラル、モノハ其ノ部分ノ實測面積ヲ當該筆ノ登記簿面ノ面積ヨリ控除シタル殘數ヲ掲記セルモノナルヲ以テ其ノ表示ニ誤アルコトカ登記簿面若クハ實測ニ依リ明トナリタルトキハ之ヲ訂正スルモノトス)

(二) 賃料ハ一反歩ニ付玄米五斗トシ毎年十二月二十日ニ於ケル大阪市穀物同業組合發表ノ相場ヲ標準トシテ換算シタル金員ニ依リ之ヲ支拂フヘキモノトス

但シ賃料ハ作ノ豊凶ニ拘ラス其ノ額ヲ變更セサルモノトス

(三) 賃料ハ毎年十二月二十五日迄ニ賃貸人方若クハ其ノ指定セル場所ニ持參支拂フモノトス

(四) 賃借人カ左記行爲ヲ爲スニ付テハ必ス賃貸人ノ書面ニ依ル承諾ヲ經ルコトヲ要ス

(イ) 他人ニ賃貸借權ヲ讓渡シ又ハ賃借地ニ轉貸シ若クハ賃借地ノ耕作全部ヲ他人ニ委託スルコト

(ロ) 賃借地ヲ耕作以外ノ目的ニ使用スルコト

(ハ) 賃借地ノ原狀ヲ變更スルコト

(五) 賃貸人ハ賃借人ニ於テ上記(三)ノ義務ヲ怠リ又ハ(四)ニ定ムル所ニ違背シタルトキハ一ヶ月ノ期間ヲ餘シテ其ノ履行若ハ復舊ヲ催告シ尙應セサルトキハ直チニ契約ヲ解除シテ賃貸地所ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

(六) 賃貸人ハ自己ニ必要ヲ生シタルトキハ何時ニテモ賃貸借契約ヲ解除スルコトヲ得但シ一ヶ月前之ヲ豫告スルコトヲ要ス

(七) 本契約カ解除セラレタル場合賃借人ハ解除後十日以内ニ賃借地上ノ存置物件一切ヲ收去シテ之ヲ賃貸人ニ明渡スヘク若シ然ラサルトキハ右期間ノ滿了ト同時ニ賃借人ハ其ノ存置物件ノ所有權ヲ拋棄シテ地所ノ明渡ヲ爲シタルモノト看做スモノトス

但シ解除前ヨリ該地上ニ植付ケラレタル作毛ニシテ右期間内ニ收穫時期ノ到來セサルモノアルトキハ賃貸人ハ其ノ收穫ヲ了ル迄地所ノ明渡ヲ延期スルカ然ラサレハ明渡當時ニ於ケル時價ニ依リ其ノ作毛ヲ買取ルヘキモノトス

(八) 上記(五)ノ場合ニ於ケル地所ノ返還ニ對シテハ賃借人ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス一切金品ノ交付ヲ賃貸人ニ要求シ得サルモノトス